

宮川水系河川整備基本方針

宮川水系の流域及び河川の概要

令和8年4月

国土交通省 水管理・国土保全局

目次

1. 流域の自然状況	1
1.1. 河川・流域の概要	1
1.2. 地形	2
1.3. 地質	3
1.4. 気候・気象	4
2. 流域及び河川の自然環境	5
2.1. 流域の自然環境	5
2.2. 特徴的な河川景観や文化財等	244
2.3. 河川にまつわる歴史・文化	28
2.4. 河川環境に関わる地域の活動	34
2.5. 自然公園等の指定状況	366
3. 流域の社会状況	377
3.1. 土地利用	37
3.2. 人口	388
3.3. 産業経済	399
3.4. 交通	40
4. 水害と治水事業の沿革	411
4.1. 既往洪水の概要	411
4.2. 治水事業の沿革	52
4.3. 流域治水対策の取組	588
5. 水利用の現状	62
5.1. 水利用の現状	622
5.2. 渇水被害の概要	644
5.3. 水需要の動向	655
6. 河川流況と水質	666
6.1. 河川流況	666
6.2. 河川水質	688
7. 河川空間の利用状況	74
7.1. 河川敷の利用状況	744
7.2. 河川の利用状況	766

8. 河道特性.....	799
8.1. 河道特性.....	799
8.2. 河床変動の経年変化.....	811
9. 河川管理の現状.....	855
9.1. 河川区域の現状.....	866
9.2. 河川管理施設の現状.....	877
9.3. 許可工作物の現状.....	888
9.4. 水防体制.....	89
9.5. 危機管理への取組.....	911
10. 地域との連携.....	97

1. 流域の自然状況

1.1. 河川・流域の概要

宮川は、三重県の南部に位置し、その源を三重県多気郡大台町と奈良県吉野郡上北山村の県境に位置する日出ヶ岳（標高1,695m）に発し、大杉溪谷を貫流し、大内山川等の諸支川を合わせ伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長91km、流域面積920km²の一級河川である。

宮川の流域は、三重県の主要都市である伊勢市をはじめとする1市5町からなり、五十鈴川、勢田川、大湊川、一之瀬川、藤川、大内山川等、総計55の河川を有している。

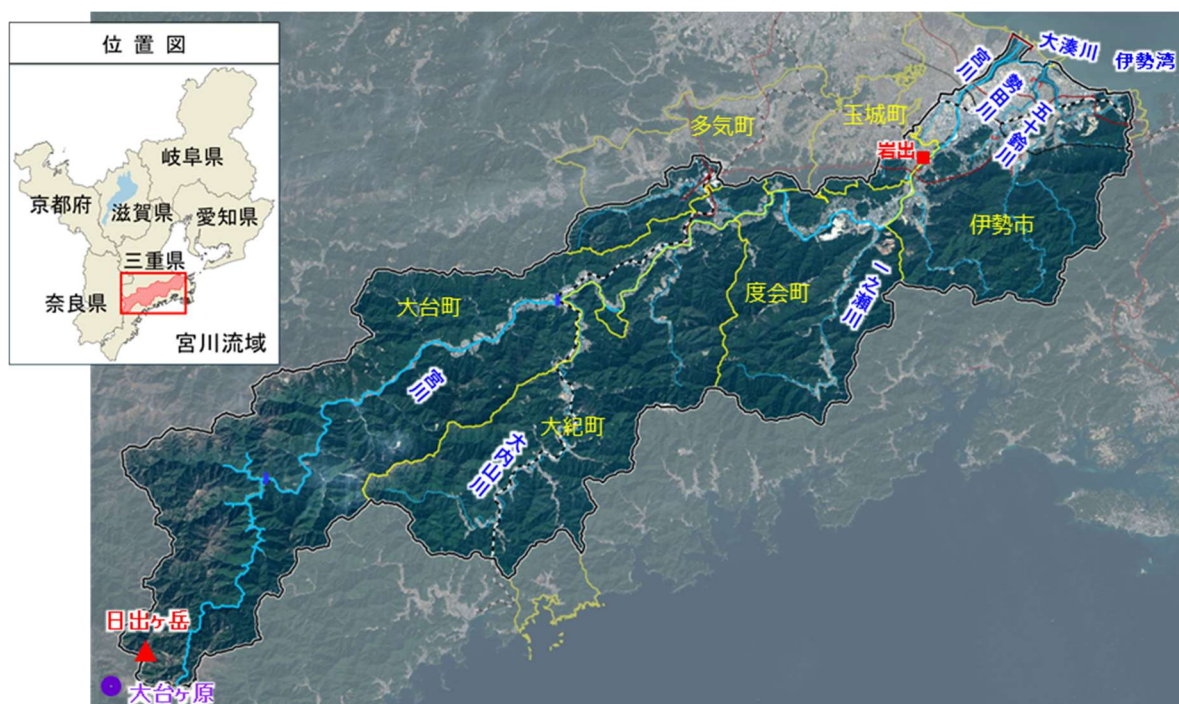


図 1-1 宮川流域図

表 1-1 流域の諸元

項目	諸元	備考
幹川流路延長	91km	全国 55 位
流域面積	920km ²	全国 69 位
流城市町村	1 市 5 町	(三重県) 伊勢市、多気町、大台町、玉城町、度会町、大紀町
流域内人口	約 12 万人	令和 2 年現在
支川数	55	

1.2. 地形

宮川流域は、西から北東に延びた長方形をなし概ね紀伊山地によって占められている。

上流部は日出ヶ岳(標高1,695m)を最高峰に池木屋山(1,396m)、白倉山(1,236m)、迷岳(1,309m)といった1,000mを超える標高の山々に囲まれ、深いV字谷を形成している。中流部に入ると河岸段丘が発達し丘陵地形となり、下流部は伊勢平野南端に位置し、はじめは狭い範囲に扇状地を形成しJR参宮線宮川鉄橋付近から三角州を形成して流下している。河口部にはデルタ地帯が広がり右岸に大湊川を分派し、本川内には特徴的な大きな中州がある。

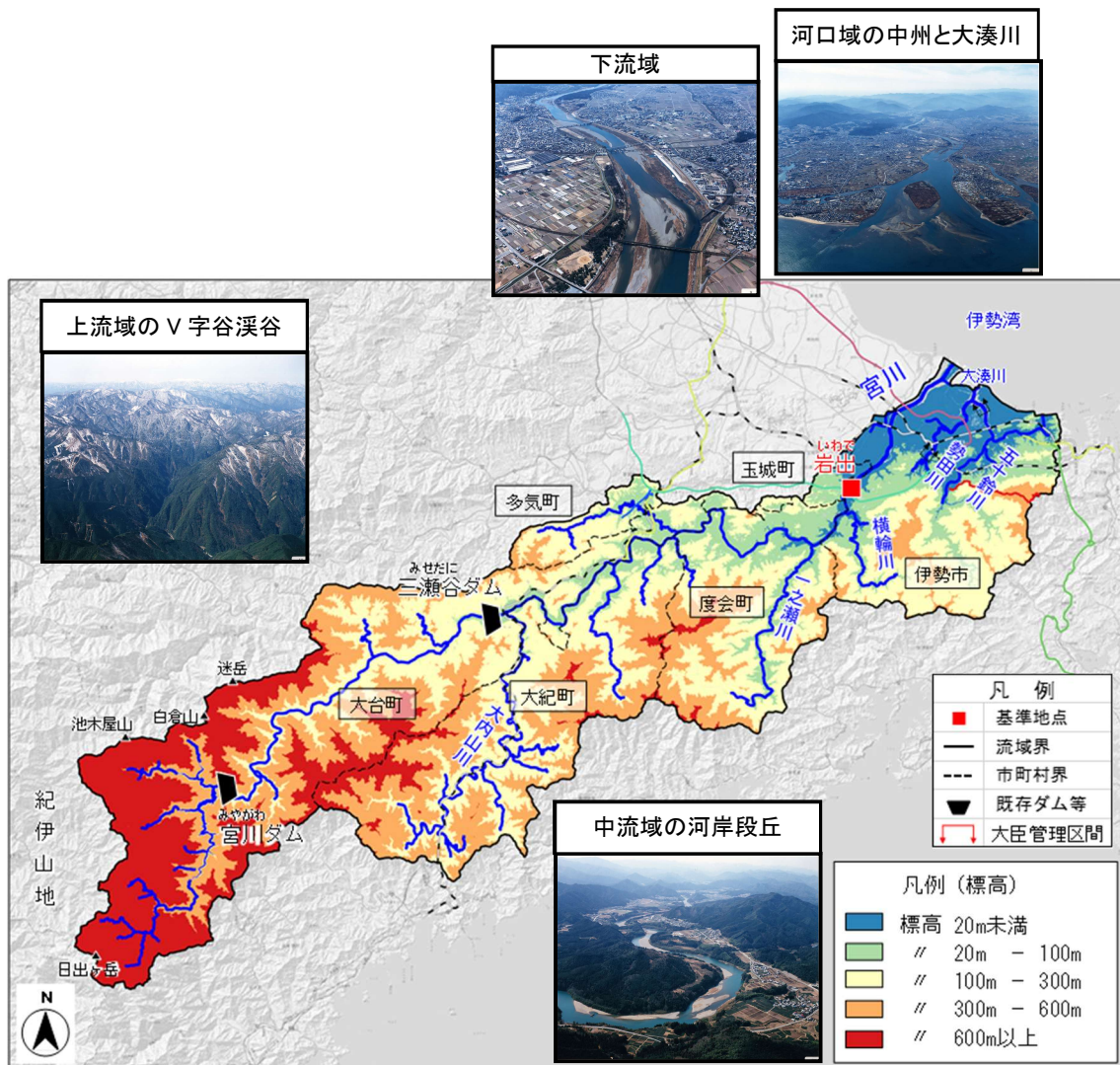


図 1-2 宮川流域地形図

1.3. 地質

宮川流域は、^{くしだ}櫛田川沿いに存在する中央構造線の南側に位置し、伊勢湾に面する平野部を除けば古い時代の地層からなる。

流域の大部分は中・古生代の^{さんぽがわ}三波川帯及び^{ちちぶ}秩父帯に属し北側と南側で分けられるが、最上流部のごく一部と大内山川上流部に^{しまんと}四万十帯が存在する。宮川の両岸には第四紀の段丘堆積層、下流の低地には沖積堆積物が分布している。



出典：1/50万地質図 京都工業技術院地質調査所 昭和57年12月20日発行

図 1-3 宮川流域地質図

1.4. 気候・気象

流域は、年平均気温16℃程度（小俣地点^{おぼた}）で温暖な気候を示している。宮川の平均年降水量は源流部から上流部では約2,500mm～3,500mm以上、中流部から下流部では約2,000mm～2,500mmと多く、特に日本屈指の多雨地帯である大台ヶ原を持つ源流部は、古くから全国有数の多雨地帯として知られている。過去の記録では、年間降水量8,214mm（大正9年（1920年））、月降水量3,514mm（昭和13年（1938年））、日降水量1,011mm（大正12年（1923年））という記録（大台ヶ原：奈良県気象年報）がある。

夏季に熊野灘で発生する南東からの季節風が湿った空気を伴って大台ヶ原付近に雨雲を形成することから、多量の雨をもたらす原因となっている。

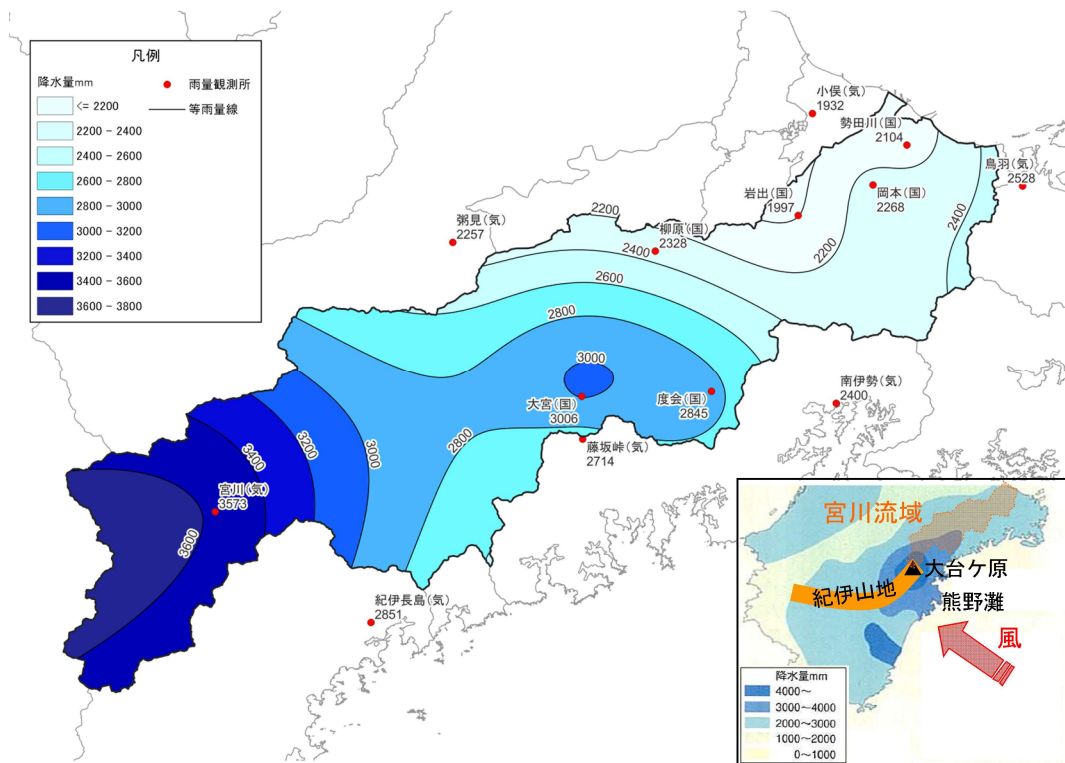


図 1-4 平均年降水分布図（平成 23 年～令和 4 年平均）

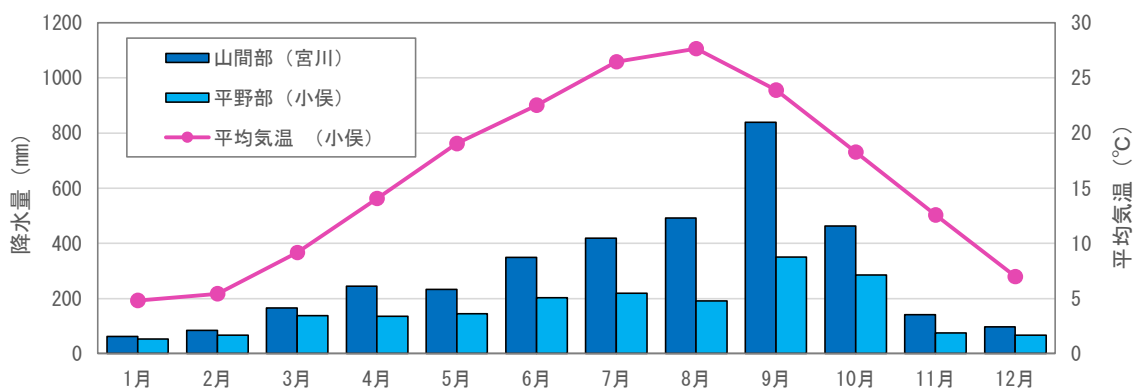


図 1-5 月別平均気温（小俣地点）・降水量（小俣・宮川地点）（平成 23 年～令和 4 年平均）

2. 流域及び河川の自然環境

2.1. 流域の自然環境

(1) 自然環境の概要

宮川流域は、源流部、上流部の山地、中流部の丘陵地、下流部の平野、河口部に大きく分けられ、植生や気候、土地利用などもこれらの区分によってそれぞれ異なる特徴を示す。

① 源流部（源流部～宮川ダム）

標高500m以上の山々からなる渓谷区間を流れ、複数の滝をもつ。平均年間降水量は3,000mm以上で全国有数の多雨地帯である。植生は、ブナ-ミズナラ群落、アカシデ-イヌシデ群落等の自然林、スギ・ヒノキ・サワラ植林やシイ・カシ二次林が見られる。

② 上流部（宮川ダム～粟生頭首工）

標高100～500mの低山地のV字谷を蛇行して流れ、平均年間降水量は2,500～3,000mm程度である。スギ・ヒノキ・サワラ植林等の人工林による山林地が大半を占めている。

③ 中流部（粟生頭首工～岩出地点）

標高300m以下の丘陵地に河岸段丘が形成され、平均年間降水量は2,000～2,500mm程度である。蛇行区間には瀬淵、水裏部には礫河原が見られアカザ、カマキリ等が生息している。スギ・ヒノキ等の人工林の他、段丘面は水田や茶畑に利用されている。

④ 下流部（岩出地点～河口からの距離3km付近）

標高100m以下の扇状地形であり、沿川は住宅地、商業地、工場、水田・畑当の耕作地となっている。河川内は瀬淵が連続し、アユの産卵床が見られ、ワンド・たまりにはヤリタナゴ等が生息している。高水敷にはムクノキ-エノキ群集等の河畔林が生育している。

⑤ 河口部（河口からの距離3km付近～河口）

河口には三角州が形成されている。地質は沖積層が広がり農地や伊勢市の中心市街地として利用されている。干潟は、シギ・チドリ等渡り鳥の集団中継地として利用されている。

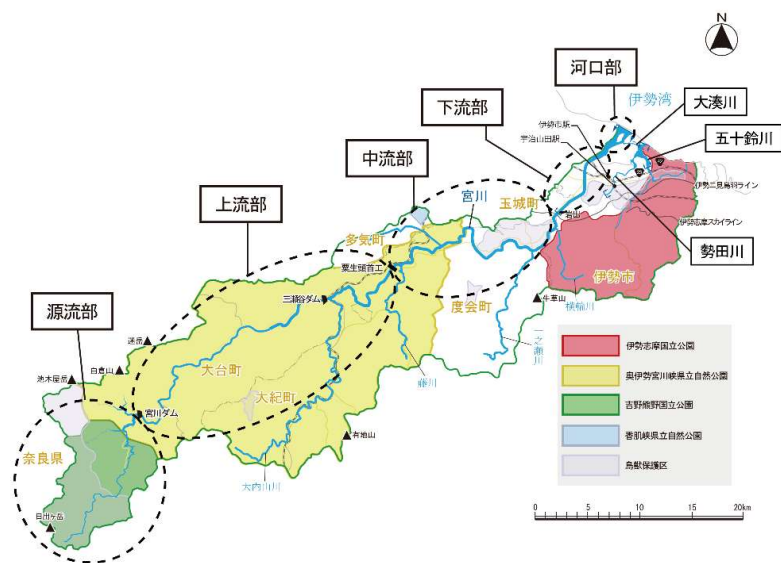


図 2-1 流域分布図

(2) 流域及び河川の自然環境

1) 源流部

流域の自然環境は、宮川ダムの上流に刻まれた大杉溪谷が特徴的で落差 135m の千尋滝^{せんびろたき}をはじめニコニコ滝・七ツ釜滝^{ななつがま}・堂倉滝^{どうくら}等の大小 100 余を数える滝が続き、溪谷を挟んで屹立する大日^{だいにちぐら}・平等^{びようどうぐら}嶺といった岩壁と合わせて、豪壮な早壮年期地形を形成している。周辺は、吉野熊野国立公園に属し溪谷一帯が国の天然記念物にも指定されており、ブナ-ミズナラ群落、アカシデーヌシデ群落等が分布し、宮川ダム周辺にはスギ・ヒノキ・サワラ植林やシイ・カシ二次林が分布している。国の天然記念物に指定されているニホンカモシカ・ヤマネ、県の天然記念物に指定されているオオダイガハラサンショウウオなど貴重な動物が生息している。宮川ダムから上流の約 11km にわたって、大台ヶ原・日出ヶ岳に至る登山道が開かれ多くの登山客に利用されている。



大杉谷 (大台町大杉)

大杉谷溪谷のうち約 565ha の国有林で、標高 1,300m～1,400m の間は暖温帯性常緑広葉樹林が広がり、本州南部における原生林として貴重である。昭和 43 年に国の天然記念物に指定されている。



大杉谷のオオスギ (大台町大杉)

大杉神社の御神木として祀られ、樹齢約 1,200 年と推定される。旧村がひらかれる以前から成育しこの地が大杉谷と呼ばれたのはこの木の存在によるとも云われている。昭和 30 年に県の天然記念物に指定されている。

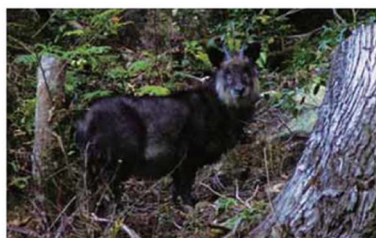
周囲：約 9.2m 高さ：約 40m



大淵寺スダジイ (大台町久豆)

寺の境内にある樹齢 300 年以上と推定される巨樹。大淵寺がこの地に移転される前から存在していたと思われる、かつてこの周辺は巨樹の森であったことをうかがわせるものとして貴重な存在である。平成 10 年に県の天然記念物に指定されている。

周囲：約 6.3m 高さ：約 20m



ニホンカモシカ

【出典：三重県レッドデータブック 2015】



ヤマネ

【出典：三重県レッドデータブック 2015】



オオダイガハラサンショウウオ

【出典：三重県レッドデータブック 2015】

2) 上流部

上流域は、低山地のV字谷を蛇行して流れ基盤岩の崖が溪谷美を創り出し一帯は、奥伊勢^{おくいせ}宮川峡^{みやがわきょう}県立公園として指定されている。山地の斜面はスギ・ヒノキ・サワラ植林等の人工林で大半が覆われている。川岸の岸壁にはこの付近を北限とするユリ科草本やアカネ科木本のほかシダ植物、コケ植物が群生し、貴重な暖地性の川岸岩壁植物群落として県の天然記念物に指定されている。河川には、アジメドジョウやカジカの他、国の天然記念物に指定されているネコギギが生息している。



上流域の人工林（大台町）

上流域の山地はスギやヒノキ等の人工林に覆われている。



ネコギギ

【出典：三重県レッドデータブック 2015】

宮川では本川の上流から中流部の他、支川に生息が確認されている。国指定の天然記念物。



アジメドジョウ

【出典：三重県鈴鹿水産研究室】

滝谷・檜原の川岸岩壁植物群落（大台町滝谷^{たきや}）この付近を北限とするユリ科草本やアカネ科木本のほかシダ植物、コケ植物が群生し、貴重な暖地性の川岸岩壁植物群落が存在。平成 11 年に県の天然記念物に指定されている。



カジカ（大卵型）

【出典：三重県 河川水辺の国勢調査】

3) 中流部

中流域は、台地から丘陵部となり斜面部はスギ・ヒノキ・サワラ植林等の人工林の他、シイ・カシ二次林が多く見られる。河岸段丘面の平坦地には地域の特産品である茶畑が分布する。河川には瀬・淵が見られ水裏部には河原が形成され、スナヤツメ類、アカザ、カマキリ等が生息している。



中流域の茶畑（度会町）

中流域では、この付近の特産品であるお茶の畑が多く存在し、中流域の特徴的な風景が形成されている。



中流域の河原（度会町）

中流域は瀬と淵が連続し水裏部に河原が形成され、中流域の特徴的な景観である



スナヤツメ



アカザ



カマキリ

4) 下流部

下流域は、平地部となり堤内地は人口の集中する伊勢市の市街地となる。沿川は住宅地、商業地、工場のほか水田、畑等の耕作地として利用されている。河川は瀬淵が連続して見られ、水際にはワンドやたまりが形成され、瀬はアユの産卵場、ワンドはヤリタナゴ、アブラボテ等のタナゴ類、ギンブナ、ミナミメダカなどの緩流を好む魚類が生息している。砂礫河原にはイカルチドリ、コチドリ等の鳥類が生息している。砂州上にはツルヨシ群集が多く出現し、水際にはヤナギ林、高水敷にはムクノキ-エノキ群集等の河畔林が見られ、アカネズミ等の小動物、樹林性のアオジ、メジロ、ホオジロ等の鳥類やゴマダラチョウ等の昆虫類が生息している。



下流域のツルヨシ群集 (伊勢市)
下流域の水際植生はツルヨシ群集に代表される。



下流域の砂礫河原 (伊勢市)
下流域では冠水頻度に応じ砂礫河原が広がっている。



ワンドと瀬 (伊勢市)

5) 河口部

水際の塩沼地にシオクグやアイアシ等の塩沼植物群落や、ヨシ群落が広く分布し、オオヨシキリ等の繁殖地やオカミミガイ等の塩生湿地に生息する底生動物の生息地となっている。河口付近の干潟には、ヤマトオサガニ等のカニ類、ゴカイ類等の干潟特有の生物が生息しているとともに、シロチドリ等のシギ・チドリ類の渡りの集団中継地、カモ類の集団越冬地となっている。



宮川河口部 (伊勢市)



塩沼植物群落 (伊勢市)
河口部の水際及び中州に形成されている。



シロチドリ
干潟に生息する代表的な鳥類



オオヨシキリ

6) 勢田川の自然環境

勢田川は流域の都市化により水質悪化が見られていたが、浄化用水の導水や地域住民による水質改善の取組が行われており、近年は環境基準を満足している。また都市周辺の歴史的町並みと調和した護岸整備が進められている。直轄区間の最上流部の八束橋周辺にツルヨシ等の植生が一部見られるほか、干潮時には干潟が見られ水鳥が利用している。



とおりゃん瀬 (伊勢市)

住民主体のワークショップによりつくられた水質浄化施設。勢田川の水質は改善傾向となっており、本来の目的は達成されたことから、洪水流下能力確保のため令和4年に撤去された。



八束橋周辺のツルヨシ群集 (伊勢市)
干潮時に出現する干潟には水鳥の姿も見られる



かわさき河崎周辺 (伊勢市河崎)
歴史的まちなみと一体となって整備され、多くの観光客が訪れる

7) 五十鈴川・大湊川の自然環境

五十鈴川の下流部は広い水面が広がりまとまった干潟が見られる。中流部は伊勢神宮内宮を流れ、古くから^{みずぎ}禊の川として利用されてきた。伊勢神宮の内宮の裏山一带に広がる^{ぐらいきりん}宮域林は数百年を経過した神宮スギに覆われ常緑広葉樹が混交し貴重な自然環境が維持されている。また五十鈴川にかかる内宮の入り口である^{うじぼし}宇治橋は観光名所となっている。

大湊川は、両岸に護岸が整備されており、わずかに干潟が形成されている。



河口部の干潟 (伊勢市)



宇治橋 (伊勢市宇治館町)

(3) 動植物の生息状況

1) 宮川流域に生息・生育する生物

宮川の大正管理区間は河口部には干潟や塩沼地、その上流部には砂州や湿地、ワンド、河畔林など様々な環境が見られる。宮川流域ではこれらに相応するように多様な生物が生息・生育している。

①植物

宮川の主要な植物群落の分布状況は、河口部周辺では、面積的には小さいものの、塩沼地性植生であるヨシ群落、ナガミノオニシバ群集のほか、砂丘性草地であるギョウギシバ群落、ケカモノハシ群落が見られる（0～3k）。これより上流側では、ツルヨシ群落が広い面積で分布するとともに、冠水頻度に応じてヤナギタデ群落やオギ群落等の水辺に適応した様々な植生が見られ、宮川の河川を特徴づけている（3～11.6k）。また、7.5kより上流側は自然河岸となり、水域から陸域（樹林帯）までの連続性が保たれた自然度の高い環境となっている。このような連続性の保たれた環境では、水際付近にはツルヨシ等の水辺・湿地性草地やヤナギ低木林が分布しており、河岸の斜面にはムクノキ・エノキ群集が多くを面積を占めている。

中流域に差し掛かると、水辺にはツルヨシ群集やオギ群落等、河岸斜面にはスギ・ヒノキ植林が分布しており、周辺には水田や茶畑等の耕作地が見られる。さらに、上流側に移行するにつれて、河原が狭くなるとともに河岸斜面にはシイ・カシ二次林が分布する。源流部となる大台ヶ原周辺には、ブナ・ミズナラ群落やウラジロモミ・ブナ群集、アカシデ・イヌシデ群集といった自然植生が見られる。

五十鈴川や勢田川、大湊川は、護岸整備が進んでおり、植生の成立は一部に限られている。しかし、五十鈴川では塩沼地植生であるギョウギシバ群落、ケカモノハシ群落等、勢田川では直轄区間上流端付近でツルヨシ群集等が分布している。ただし、大湊川ではこれらの河口域周辺に特徴的な植生は見られない。

②哺乳類

宮川に生息する哺乳類としては、アカネズミ、カヤネズミ、タヌキ、キツネなどが確認されている。これらの種の多くは、河川域の広い範囲を生息場所として利用しているが、自然河岸となる度会橋上流側（7.5k付近）における利用状況が多い傾向が見られている。

③鳥類

宮川の河口部周辺は、広大な開放水域を有することから、ヒドリガモやマガモ等のカモ類が多数生息しているほか、カモメ類やカモ類の集団越冬地となっている。また、干潟は、シロチドリをはじめとしたシギ・チドリ類が餌場として利用している。河口部から下流域の水際に帯状に分布するヨシ群落等では、オオヨシキリ、カワラヒワ等の草地性鳥類が生息し、オオヨシキリは繁殖場所としても利用している。このほか、下流域に見られる砂礫河原ではイカルチドリ、ワンド等の止水環境ではカイツブリ等の水鳥が生息として利用しているほか、河岸斜面に広がる樹林帯はウグイスやアオジ、メジロ、ホオジロ等の樹林性鳥類の生息場所となっている。

これらの種に加えて、開放水域にはカワウ、干潟や砂礫河原の水際にはアオサギやダイサギ等のサギ類のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴが採餌場所等として利用している。これらは、いずれも大型の鳥類で河川生態系の上位に位置する種である。



オオヨシキリ



シロチドリ



イカルチドリ



ミサゴ

④爬虫類

宮川に生息する爬虫類としては、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ニホンカナヘビ、シマヘビなどが確認されている。ニホンイシガメ等のカメ類は、ワンド等の止水的な環境を生息場所として利用しており、ニホンカナヘビについては河川敷に広がる草地を中心に広い範囲を生息場所として利用している。

⑤両生類

宮川に生息する両生類としては、ニホンアマガエルやトノサマガエル、ツチガエルなどが確認されている。ただし、いずれの種についても卵・幼生の確認は少ない状況にあることから、これらの種は隣接する水田地帯を含めた広い範囲を生息環境として利用しているものと考えられる。

⑥魚類

宮川の河口部周辺には汽水・沿岸性魚類であるマハゼやセスジボラ等のほか、キセルハゼやチクゼンハゼ、クボハゼといった種が生息している。下流域ではオイカワやゴクラクハゼ等が広い範囲に生息しているほか、当該区間に特徴的なワンド等の止水環境には、ヤリタナゴ、アブラボテ等のタナゴ類が生息している。また、下流域から中流域にかけて見られる瀬では、アカザやカマキリ、ウツセミカジカといった種が生息している。このほか、中流域にはウグイやシマヨシノボリ、上流域にはアブラハヤ、カワヨシノボリ、アジメドジョウが生息しているほか、宮川ダム下流側を中心に国の天然記念物であるネコギギの生息が報告されている。

回遊性種としては、ニホンウナギ、ウグイ、アユ、カマキリ、ウツセミカジカ、カワアナゴ、スミウキゴリなどの種が確認されている。このうち、海域から河川中上流域までと広範囲を移動する種としては、ウナギ、ウグイ、アユの3種があげられ、アユについては主に久具都比売橋から度会橋に至る区間の瀬を産卵場所として利用している。

五十鈴川にはオイカワやビリンゴ、勢田川にはボラ等が生息している。



ヤリタナゴ



アカザ



アジメドジョウ

【提供：三重県鈴鹿水産研究室】



ネコギギ

【出典：三重県レッドデータブック 2015】



カワアナゴ

⑦昆虫類

宮川に生息する昆虫類は、河道内に見られるヨシやツルヨシ等の水辺・湿地性草地、ヤナギ林、エノキ等からなる樹林等の植生環境や、砂礫河原のような裸地的環境といった様々な環境を反映した種が生息している。水際付近に広がるツルヨシ等の草地には、アシナガグモやトビイロマルハナノミ等の草地性種が生息しているほか、点在するヤナギ林では、ヤナギ類を食樹とするヤナギハムシが生息している。また、度会橋の上流側にはまとまった樹林帯が見られ、アオバハゴロモやゴマダラチョウ等の樹林性種が生息している。このほか、砂礫河原にはノグチアオゴミムシ等が生息している。

⑧底生動物

宮川の河口部周辺では、汽水域であることを反映して、ゴカイ類やヒロクチカノコガイ、ウミニナ等のマキガイ類、アリアケモドキ等の甲殻類が多く生息している。特に河口部の環境を特徴づける干潟ではヤマトオサガニやチゴガニ等、ヨシ原ではオカミミガイ等が生息している。

下流域ではミズレヌマエビ等の甲殻類のほか、ヤマトシジミ等が生息しており、礫底の瀬にはエルモンヒラタカゲロウ、ウルマーシマトビケラ等が生息している。このほか、当該区間に特徴的なワンド等の止水環境には、タナゴ類の産卵基盤となるカラスガイ族が生息している。また、中流域から上流域にかけては、発達した礫底の瀬が多く見られることから、このような環境に生息するカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類等が多く確認されている。

回遊性種としては、テナガエビ、ミズレヌマエビ、ヒラテテナガエビ、モクズガニの4種が確認されている。このうち、前者の2種は主に海域から河川下流域を移動するが、後者2種については海域から河川中上流域までと広範囲を移動する。

五十鈴川にはミズレヌマエビ、テナガエビ、勢田川にはケフサイソガニ、ゴカイ、ミズレヌマエビ、アカテガニ等が生息している。



オカミミガイ



ウミニナ



アリアケモドキ

⑨ 外来生物

宮川本川や支川では、特定外来生物として、魚類ではカダヤシ・ブルーギル・オオクチバス、植物ではアレチウリ・オオキンケイギクが確認されており、在来種の生息・生育・繁殖環境への影響が懸念される。

また、宮川上流部では国内外来種であるギギの生息・繁殖域が広がっており、在来種である絶滅危惧種で国指定の天然記念物でもあるネコギギの生息・繁殖環境への影響が懸念されている。



オオクチバス
(特定外来生物)



アレチウリ
(特定外来生物)



ギギ
(国内外来種)

2) 宮川水系における貴重な種

宮川水系における貴重な種は、河川水辺の国勢調査等における現地調査確認種をもとに以下の基準で選定した。

【「重要種」の選定に用いた文献】

- ・「文化財保護法」「文化財保護条例」における国、都道府県、市町村指定天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種、緊急指定種
- ・環境省レッドリスト 2020 掲載種
- ・地方版レッドデータブック
三重県レッドリスト 2024
- ・「三重県自然環境保全条例」における三重県指定希少野生動植物種

既往の河川水辺の国勢調査等により確認された種のうち、植物 29 種、鳥類 28 種、哺乳類 1 種、爬虫類 2 種、両生類 6 種、魚類 33 種、昆虫類等 51 種、底生動物 78 種が重要種として確認された。

【確認場所の区分】

○宮川

- ・河口域：0～3k
- ・下流域：3～11.6k
- ・中流域：11.6k～粟生頭首工
- ・上流域：粟生頭首工～宮川ダム
- ・源流域：宮川ダム上流

※魚類の重要種数の留意点

- ・ヒガイ類、メダカ類については、重要種の可能性があるため一覧表に掲載するが、種を確定できない点を考慮し、重要種数にはカウントしていない。

■宮川で確認された植物の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所				
		宮川		五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域			
ヌカボシクリハラン	三重R(VU)		●			
エビネ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
アキザキヤツシロラン	三重R(VU)		●			
フサスゲ	三重R(EN)		●			
サワヒメスゲ	三重R(VU)		●			
ヌカスゲ	三重R(CR)		●			
キシュウナキリスゲ	環境R(VU),三重R(VU)		●			
ナガボテンツキ	三重R(EN)	●	●			
アイアシ	三重R(VU)		●			
ナガミノオニシバ	三重R(NT)	●	●	●		
タコノアシ	環境R(NT),三重R(VU)		●			
ホザキノフサモ	三重R(VU)		●			
フジカンゾウ	三重R(NT)		●			
バクチノキ	三重R(NT)		●			
ヒトツバハギ	三重R(CR)		●			
キヌヤナギ	三重R(EN)		●			
ミズタガラシ	三重R(NT)		●			
ハマサジ	環境R(NT),三重R(NT)	●	●	●		
ヤナギイノコヅチ	三重R(NT)		●			
ハママツナ	三重R(NT)	●	●	●		
ツリフネソウ	三重R(NT)		●			
カラタチバナ	三重R(NT)		●			
ヒロハコンロンカ	三重R(VU)		●			
カワヂシャ	環境R(NT)		●			
コムラサキ	三重R(VU)		●			
フクド	環境R(NT),三重R(VU)	●	●	●		
ハマニガナ	三重R(NT)	●				
ウラギク	環境R(NT),三重R(VU)		●			
アシタバ	三重R(NT)		●			

国指・・・国指定天然記念物

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R・・・環境省レッドリスト2020 記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類

CR+EN・・・絶滅危惧I類 VU・・・絶滅危惧種II類

NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足

LP・・・絶滅のおそれのある地域個体群

三重R・・・「三重県レッドリスト2024」記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類

VU・・・絶滅危惧種II類 NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足

出典：平成7・8、12、17、27年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系植物調査報告書

平成16年度 勢田川浄化事業実施業務報告書

■宮川で確認された鳥類の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所				
		宮川		五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域			
コクガン	国指(天然),環境R(VU),三重R(VU)	●				
ツクシガモ	環境R(VU),三重R(VU)					
ヒメウ	環境R(EN),三重R(EN)		●			
ゴイサギ	三重R(DD)	●	●		●	
ササゴイ	三重R(GR)	●	●		●	
チュウサギ	環境R(NT),三重R(VU)	●	●	●	●	
クロサギ	三重R(NT)	●				
ナベヅル	環境R(VU),三重R(VU)					
クイナ	三重R(DD)		●			
ケリ	環境R(DD)	●	●		●	
イカルチドリ	三重R(VU)	●	●			
シロチドリ	環境R(VU),三重R(GR[繁殖]EN[越冬]),希少	●	●			
ミヤコドリ	三重R(EN)	●				
オオソリハシシギ	環境R(VU)	●		●		
ダイシャクシギ	三重R(VU)	●	●			
ミュビシギ	三重R(EN)					
ハマシギ	環境R(NT),三重R(EN)	●	●	●	●	
オオセグロカモメ	環境R(NT)	●	●			
コアジサシ	環境R(VU),三重R(GR)	●	●			
ミサゴ	環境R(NT),三重R(GR)	●	●	●	●	
ハチクマ	環境R(NT),三重R(GR)		●			
チュウヒ	環境R(EN),三重R(GR)	●	●	●		
ハイトカ	環境R(NT),三重R(NT)					
オオタカ	環境R(NT),三重R(EN)		●			
サシバ	環境R(VU),三重R(EN),希少		●			
ヤマセミ	三重R(VU)		●			
ハヤブサ	環境R(VU),三重R(GR)		●			
サンショウクイ	環境R(VU),三重R(NT)	●	●			

国指・・・国指定天然記念物

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R・・・環境省レッドリスト2020 掲載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 VU・・・絶滅危惧II類 CR+EN・・・絶滅危惧I類 NT・・・準絶滅危惧 DD・・・情報不足 LP・・・絶滅のおそれのある地域個体群

三重R・・・「三重県レッドリスト2024」記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類 VU・・・絶滅危惧II類 NT・・・準絶滅危惧 DD・・・情報不足

希少：三重県指定希少野生動植物

出典：平成6・7、11、16、21、令和元年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系鳥類調査報告書
平成16年度 勢田川浄化事業実施業務報告書

■宮川で確認された両生類・爬虫類・哺乳類の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所				
		宮川		五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域			
アカハライモリ	環境R(NT)		●			
ニホンヒキガエル	三重R(NT)		●			
ニホンアカガエル	三重R(NT)		●			
ヤマアカガエル	三重R(NT)		●			
トノサマガエル	環境R(NT)		●			
ナゴヤダルマガエル	環境R(EN),三重R(EN)		●			
ニホンイシガメ	環境R(NT),三重R(VU)		●			
ニホンスッポン	環境R(DD),三重R(VU)		●			
ニホンリス	三重R(NT)		●			

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R・・・環境省レッドリスト2020 掲載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 VU・・・絶滅危惧II類

CR+EN・・・絶滅危惧I類 NT・・・準絶滅危惧 DD・・・情報不足 LP・・・絶滅のおそれのある地域個体群

三重R・・・「三重県レッドリスト2024」記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類

VU・・・絶滅危惧種II類

NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足

出典：平成5・6、10、14・15、25、令和5年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

■宮川で確認された魚類の重要種一覧表(1/2)

種名	指定区分	確認場所						
		宮川				五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域	中流域	上流域			
スナヤツメ類	環境R(※VU:スナヤツメ北方種、南方種),三重R(VU)		●	●			●	
ニホンウナギ	環境R(EN),三重R(EN)	●	●	●			●	
ヤリタナゴ	環境R(NT),三重R(VU)		●					
アブラボテ	環境R(NT),三重R(EN)		●	●			●	
イチモンジタナゴ	三重R(CR)		●					
シロヒレタビラ	環境R(EN),三重R(CR)		●					
カワヒガイ	環境R(NT),三重R(EN)		●	●				
ヒガイ類	環境R(※NT:カワヒガイ),三重R(※EN:カワヒガイ)		●					
ゼゼラ	三重R(CR)		●					
ズナガニゴイ	三重R(EN)		●			●		
イトモロコ	三重R(VU)		●	●			●	
コウライモロコ	三重R(VU)		●					
ドジョウ類	環境R(※NT:ドジョウ),三重R(※NT:ドジョウ)		●					
トウカイコガタスジシマドジョウ	環境R(EN),三重R(EN)		●					
アジメドジョウ	環境R(VU),三重R(EN)		●	●	●		●	
ホトケドジョウ	環境R(EN),三重R(VU)		●					
ネコギギ	国指,環境R(EN),三重R(CR),希少		●					
アカザ	環境R(VU),三重R(NT)		●	●	●		●	
シラウオ	三重R(EN)	●	●					
ミナミメダカ	環境R(VU),三重R(NT)		●	●			●	●
メダカ類	環境R(※VU:ミナミメダカ),三重R(※VU:ミナミメダカ)		●					
カマキリ	環境R(VU),三重R(VU)	●	●	●			●	
ウツセミカジカ(淡水性両側回遊型)	環境R(EN),三重R(VU)		●					
ドンコ	三重R(NT)		●					
カワアナゴ	三重R(VU)	●	●	●			●	●

■宮川で確認された魚類の重要種一覧表(2/2)

種名	指定区分	確認場所						
		宮川				五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域	中流域	上流域			
ヒモハゼ	環境R(NT),三重R(NT)	●						
チワラスボ	環境R(EN),三重R(CR)	●						
トビハゼ	環境R(NT),三重R(CR)	●						
アシシロハゼ	三重R(NT)	●	●			●		
マサゴハゼ	環境R(VU),三重R(NT)	●						
ビワヨシノボリ	環境R(DD)		●					
チクゼンハゼ	環境R(VU),三重R(EN)	●						
クボハゼ	環境R(EN),三重R(EN)	●						
キセルハゼ	環境R(EN),三重R(CR)	●						
エドハゼ	環境R(VU),三重R(NT)	●						

国指・・・国指定天然記念物

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R・・・環境省レッドリスト2020 記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類
VU・・・絶滅危惧種II類 NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足
LP・・・絶滅のおそれのある地域個体群

三重R・・・「三重県レッドリスト2024」記載種

EX・・・絶滅 EW・・・野生絶滅 CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類
VU・・・絶滅危惧種II類 NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足

希少・・・三重県指定希少野生動植物種

出典：平成6・7、9、14、19、25、令和元年、5年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系魚介類調査報告書

第2回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書

第3回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書

第4回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書

昭和59年度 宮川水系河口部現況調査報告書

平成6、9、14、19年度 河川水辺の国勢調査（三重県調査）

平成15、16年度 勢田川浄化事業実施業務報告書

■宮川で確認された昆虫類等の重要種一覧表(1/2)

種名	指定区分	確認場所				
		宮川		五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域			
ワスレナグモ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
イサゴコモリグモ	三重R(DD)		●			
オビジガバチグモ	三重R(DD)		●			
セスジイトンボ	三重R(NT)	●	●			
アオハダトンボ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
ネアカヨシヤンマ	環境R(NT),三重R(VU)		●			
タベサナエ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
マイコアカネ	三重R(DD)	●	●			
ミヤマアカネ	三重R(NT)		●			
コバネコロギス	三重R(NT)		●			
カワラバッタ	三重R(VU)		●			
シロヘリツチカメムシ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
コオイムシ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
クモガタヒョウモン	三重R(VU)		●			
エンスイミズメイガ	三重R(DD)		●			
スゲドクガ	環境R(NT)		●			
コシロシタバ	環境R(NT)		●			
カギモンハナオイアツバ	環境R(NT)		●			
キシタアツバ	環境R(NT)	●	●			
アシナガムシヒキ	三重R(VU)		●			
オオハチモドキバエ	三重R(NT)		●			
コアトワアオゴミムシ	三重R(EN)		●			
アオヘリアオゴミムシ	環境R(GR),三重R(EN)		●			
スナハラゴミムシ	環境R(VU),三重R(DD)		●			
オオツクリゴミムシ	環境R(NT),三重R(VU)		●			
ウミホソチビゴミムシ	環境R(NT),三重R(EN)		●			
イグチケブカゴミムシ	環境R(NT),三重R(EN)		●			
ヒョウタンゴミムシ	三重R(VU)	●				
クロゲンゴロウ	環境R(NT),三重R(VU)		●			
シマゲンゴロウ	環境R(NT),三重R(EN)		●			
キベリマメゲンゴロウ	環境R(NT),三重R(NT)		●			
コオナガミズスマシ	環境R(VU),三重R(NT)		●			
コガシラミズムシ	三重R(VU)		●			
スジヒラタガムシ	環境R(NT),三重R(DD)		●			
コガムシ	環境R(DD),三重R(NT)		●			
コガタガムシ	環境R(VU),三重R(VU)		●			
シジミガムシ	環境R(EN)	●	●			
ヤマトモンシデムシ	環境R(NT),三重R(EN)		●			
コクロシデムシ	三重R(VU)		●			
コスジマゲソコガネ	三重R(VU)		●			
ヨコミゾドロムシ	環境R(VU)	●				
ホソクロナガタマムシ	三重R(GR)		●			
スナサビキコリ	三重R(VU)	●				
ニセキベリコバネジョウカイ	三重R(EN)		●			

■宮川で確認された昆虫類等の重要種一覧表(2/2)

種名	指定区分	確認場所				
		宮川		五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域			
クロスジイッカク	三重R(NT)		●			
ホソハマベゴミムシダマシ	三重R(CR)	●				
ガガブタネクイハムシ	三重R(EN)		●			
ヤマトアシナガバチ	環境R(DD)		●			
モンスズメバチ	環境R(DD),三重R(NT)		●			
フタモンクモバチ	環境R(NT),三重R(DD)		●			
キンモウアナバチ	三重R(NT)	●	●			

国指……国指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R…環境省レッドリスト2020 記載種

EX…絶滅 EW…野生絶滅 CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類
VU…絶滅危惧種II類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足
LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重R…「三重県レッドリスト2024」記載種

EX…絶滅 EW…野生絶滅 CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類
VU…絶滅危惧種II類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成4、8、13、18、28年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系陸上昆虫調査報告書

■宮川で確認された底生動物の重要種一覧表(1/2)

種名	指定区分	確認場所					
		宮川			五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域	中流域			
ツボミガイ	環境R(NT)	●					
カノコガイ	三重R(NT)		●				
ミヤコドリガイ	環境R(NT)	●					
オオタニシ	環境R(NT)		●				
ウミナ	環境R(NT)	●					
イボウミナ	環境R(VU),三重R(VU)	●					
タケノコカワニナ	環境R(VU),三重R(VU)		●				
クロダカワニナ	環境R(NT),三重R(NT)		●				
フトヘナタリガイ	環境R(NT)	●					
ヘナタリガイ	環境R(NT)	●					
カワアイガイ	環境R(VU)	●					
サザナミツボ	環境R(NT),三重R(VU)	●					
ワカウラツボ	環境R(VU),三重R(VU)	●					
クイロカワザンショウガイ	環境R(NT)	●					
ツブカワザンショウガイ	環境R(NT)	●					
ムシヤドリカワザンショウガイ	環境R(NT)	●					
ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	環境R(NT)	●					
エドガワミズゴマツボ	環境R(NT)	●	●				
クレハガイ	環境R(NT),三重R(NT)	●					
コヤスツラガイ	環境R(NT),三重R(DD)	●					
カミスジカイコガイダマシ	環境R(VU),三重R(NT)	●					
ヌカルミクチキレガイ	環境R(NT)	●					
オカミミガイ	環境R(VU),三重R(VU)	●					
クイロコミミガイ	環境R(VU),三重R(VU)	●					
モノアラガイ	環境R(NT)		●				
カワコザラガイ	環境R(OR)		●				
ヒラマキミズマイマイ	環境R(DD)		●				
ウネナシトマヤガイ	環境R(NT)	●					
ヤマトシジミ	環境R(NT)	●	●				
マシジミ	環境R(VU)		●				
ハマグリ	環境R(VU),三重R(NT)	●					
ユウシオガイ	環境R(NT)	●					
トガリユウシオガイ	環境R(NT),三重R(NT)	●					
サクラガイ	環境R(NT),三重R(NT)	●					
オチバガイ	環境R(NT)	●					
ハザクラガイ	環境R(NT)	●					
アシベマスオガイ	環境R(DD)	●					
クチバガイ	環境R(NT)	●					
ヒメマスオガイ	環境R(VU),三重R(VU)	●					
オオノガイ	環境R(NT),三重R(NT)	●					
クシケマスオガイ	環境R(NT),三重R(NT)	●					
ヒメヌマエビ	三重R(NT)		●		●		
ミナミヌマエビ	三重R(DD)		●	●		●	
ヌカエビ	三重R(VU)						
ウモレベンケイガニ	三重R(VU)	●					
クシテガニ	三重R(EN)	●					
ベンケイガニ	三重R(DD)		●				
ハマガニ	三重R(DD)	●	●				
ヒメアシハラガニ	三重R(NT)	●					
ヒメケフサイソガニ	三重R(NT)	●					

■宮川で確認された底生動物の重要種一覧表(2/2)

種名	指定区分	確認場所					
		宮川			五十鈴川	勢田川	大湊川
		河口域	下流域	中流域			
ウモレマメガニ	三重R(VU)	●					
トリウミアカインモドキ	三重R(NT)	●					
ムツハアリアケガニ	三重R(NT)	●					
アリアケモドキ	三重R(DD)	●	●		●		
オサガニ	三重R(NT)	●					
ハクセンシオマネキ	環境R(VU),三重R(NT)	●					
シオマネキ	環境R(VU),三重R(CR)	●					
セスジイトンボ	三重R(NT)		●				
キロサナエ	環境R(NT),三重R(VU)		●				
ホンサナエ	三重R(NT)		●				
タバサナエ	環境R(NT),三重R(NT)		●				
キロヤマトンボ	環境R(NT),三重R(VU)		●				
エゾトンボ	三重R(DD)		●				
マイコアカネ	三重R(DD)		●				
オオアメンボ	三重R(NT)		●				
コオイムシ	環境R(NT),三重R(NT)		●				
ビワアシエダトビケラ	環境R(NT)		●				
キボシケシゲンゴロウ	環境R(DD),三重R(VU)		●				
キボシツブゲンゴロウ	環境R(NT),三重R(VU)		●				
ケベリマメゲンゴロウ	環境R(NT),三重R(NT)		●				
オオヒメゲンゴロウ	三重R(EN)		●				
ツマキレオナガミズスマシ	環境R(VU)		●				
コオナガミズスマシ	環境R(VU),三重R(NT)		●				
オナガミズスマシ	三重R(VU)		●				
クビボソコガシラミズムシ	環境R(DD),三重R(CR)		●				
ガムシ	環境R(NT),三重R(CR)		●				
ヨコミゾドロムシ	環境R(VU)		●				
ヘイケボタル	三重R(NT)		●				

国指……国指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種及び緊急指定種

環境R…環境省レッドリスト2020 記載種

EX…絶滅 EW…野生絶滅 CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類
 VU…絶滅危惧種II類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足
 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重R…「三重県レッドリスト2024」記載種

EX…絶滅 EW…野生絶滅 CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類
 VU…絶滅危惧種II類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成4、9、14、20、25、30、令和5年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系底生動物調査報告書

平成6・7、9、14年度 河川水辺の国勢調査 宮川水系魚介類調査報告書

平成6年度 三重四川河川水辺の国勢調査業務委託その2 カワヒバリガイ等生息状況調査報告書

平成9年度 宮川水系水生生物生態調査事業報告書

平成6年度 一級河川大内山川中小河川改修工事河川水辺の国勢調査業務委託報告書

平成9年度 一級河川宮川（他一河川）河川調査委託（水辺の国勢調査）報告書

平成10年度 宮川水系水生生物生態調査事業報告書

平成15年度 勢田川浄化事業実施業務報告書

平成16年度 勢田川浄化事業実施業務報告書

2.2. 特徴的な河川景観や文化財等

宮川流域には、吉野熊野国立公園をはじめ伊勢志摩国立公園、奥伊勢宮川峡県立自然公園、香肌峡県立自然公園があり、優れた自然環境が存在している。

源流域では、大小さまざまな滝が存在し切り立った断崖がおりなす自然美をもつ大杉谷が景勝地として知られている。特に高さ 110m もの岸壁から宮川を見下ろす大日嵩、135m もの落差を誇る千尋滝や日本の滝百選※に選ばれている七ツ釜滝が有名である。

宮川上流域をはじめ支川大内山川の大滝峡は景勝地として特徴的な溪流景観が形成されている。

宮川流域は、伊勢神宮を中心とした歴史、文化に深く関わり、古代から大和と伊勢を結ぶ街道が流域内を通り交通の要衝でもあった。このようなことから、宮川流域には多くの遺跡や文化財が存在し、このうち国及び県指定の史跡、名勝、天然記念物は 20 件（うち、国指定 5 件、県指定 15 件）、文化財は 94 件存在する。

※ 日本国内の 517 の滝から公募により選定された滝。1990 年に旧環境庁・林野庁の後援により緑の文明学会、グリーンルネッサンス、緑の地球防衛基金の 3 団体の主催により選定会が行われた。



七ツ釜滝（大台町大杉）

七つの滝と滝壺が連続している。森林は七ツ釜滝付近から上流が温帯林、下流が暖帯林となっており、狭い地帯で二つの気候帯が見られるのは珍しい。



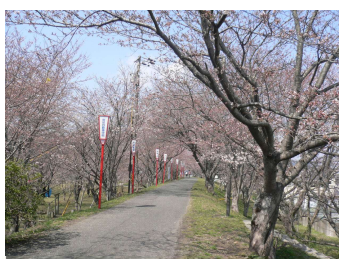
大内山川 大滝峡（大紀町滝原）

滝原ダム下流に存在し、キャンプ場が隣接する。桜の名所としても有名。



二見浦（伊勢市二見町）

古くから伊勢神宮の神領とされ、神宮に納める塩の調進などが行われた。飛島など多くの岩礁が点在し、風光明媚である。



宮川堤（伊勢市中島町・宮川町）

宮川堤公園右岸一帯の堤防上にソメイヨシノ等の桜が植えられ桜の名所として市民に親しまれている。昭和 12 年に県名勝の指定を受けた。



北島具教三瀬館跡（大台町上三瀬）

【出典：大台町勢要覧】

元龜 3 年 (1572) から天正 4 年 (1576) までの 4 年間の居所跡で、県指定の史跡となっている。

表 2-1 宮川流域の史跡、名勝、天然記念物指定一覧

No.	名称	指定区分	指定年月日	所在地
1	離宮院跡	国史跡	1924(T13)12.09	伊勢市小俣町本町
2	旧豊宮崎文庫	国史跡	1923(T12)03.07	伊勢市岡本3丁目
3	旧林崎文庫	国史跡	1954(S29)12.25	伊勢市宇治今在家町
4	朝熊山経塚群	国史跡	1966(S41)04.15	伊勢市朝熊町
5	二見浦	県名勝	1936(S11)01.22	伊勢市二見町茶屋
6	宮川堤	県名勝	1937(S12)06.30	伊勢市中島町・宮川町
7	松下社の大樟	県天然記念物	1937(S12)11.10	伊勢市二見町松下
8	鷲嶺の水穴	県天然記念物	1965(S40)12.09	伊勢市矢持町
9	覆盆子洞	県天然記念物	1968(S43)03.18	伊勢市矢持町
10	小川郷の火打石	県天然記念物	1938(S13)03.17	度会町火打石
11	大内山の一里塚	県史跡	1955(S30)04.07	大紀町大内山字
12	大平山の躑躅	県名勝	1939(S14)03.25	大紀町崎
13	七保のおはつきいてふ	県天然記念物	1936(S11)01.22	大紀町野原
14	北畠具教 三瀬館跡	県史跡	1941(S16)05.02	大台町上三瀬
15	三瀬砦跡	県史跡	1975(S50)03.27	大台町下三瀬
16	大杉谷	国天然記念物	1972(S47)12.13	大台町大杉
17	滝谷・檜原の川岸岩壁植物群落	県天然記念物	1999(H11)03.17	大台町滝谷
18	池ノ谷のモリアオガエル繁殖池	県天然記念物	2003(H15)03.17	大台町大字桧原
19	大淵寺スダジイ	県天然記念物	1998(H10)03.17	大台町久豆
20	大杉谷の大スギ	県天然記念物	1955(S30)04.07	大台町大杉
21	熊野参詣道 伊勢路(ツヅラト峠道)	国史跡	2002(H14)12.19	度会郡大紀町大内山字志子谷

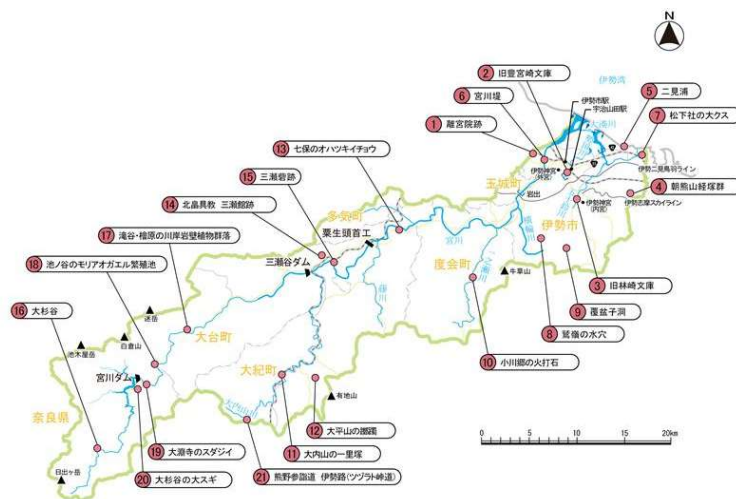


図 2-2 宮川流域の史跡・名勝・天然記念物位置図

○旧豊宮崎文庫、旧林崎文庫（伊勢市岡本町、伊勢市宇治今在家町^{うじいまざいけちやう}）

江戸時代、神宮の神職により、神官及び一般の人々の学習機関として慶安元年(1648年)外宮に豊宮崎文庫、貞享^{じょうきやう}3年(1686年)内宮に林崎文庫が創立された。設立にあたり、山田奉行所から豊宮崎文庫に二百両、林崎文庫に百五十両の運営資金が^{かし}下賜されているが、事実上両文庫が山田奉行の監督下に入ったことを意味する。

明治時代初年(1868年)までの約200年続き、その間、全国から多くの学者が訪れ文庫で講義をした。文庫に納められた書物は明治4年(1871年)の神宮改正にともない神宮文庫に納められている。



旧林崎文庫（伊勢市宇治今在家町）
宇治橋の近くに建物が現存している。
昭和29年に国の史跡として指定。



旧豊宮崎文庫（伊勢市岡本町）

講堂は明治11年の火災で消失したが、跡地は外宮前の岡本に残され、現在は市立郷土資料館がある。大正12年に国の史跡として指定。

○大杉谷

日本屈指の多雨地帯、大台ヶ原山の東側山腹の天然の大峡谷である。秩父古生層の硬い岩盤が莫大な降雨によって侵食され形成された、きわめて複雑な地形のV字谷である。大日^{だい}ヶ^にから^ち上^ぐ流^ら部^らは特に谷が深い峡谷となり、落差とスケールの大きい千尋滝、ニコニコ滝、七ッ釜滝、^{ひかりたき}光^{たき}滝、^よ隠^れ滝、^よ与^八郎^{たき}滝、堂倉滝の大杉谷七瀑布や深い淵・そびえた^{ぐら}高^らなど鬱蒼とした樹林帯は日本の秘境とも言える。



大杉谷（大台町）

七ッ釜滝付近を境に下流側が暖帯性常緑広葉樹、上流側が冷温帯性落葉広葉樹となる植生も珍しい。

国の天然記念物に指定されている。

おかしらしんじ
○御頭神事

もと外宮の神楽役人が山田の産土八社で行ったが、今は宮川流域の各地で、正月の火祭りとして行われている。なかでも伊勢市（旧御園村）の高向大社の神事が国の重要無形民俗文化財に指定された。

御頭とは獅子の神様のことであり、村中を廻る獅子に対して村人はククメモノ（洗米のおひねり）をあげる風習がある。

度会町棚橋の御頭は雄でダイジョウ、対岸の下久具の御頭は雌でオサキという名がある。



御頭神事（伊勢市）

獅子舞のことであり、古くから各地で行われてきた。

きひ しらいしも
○お木曳き行事・お白石持ち行事

遷宮に関連した地域住民の奉仕で、お木曳きとは、御用材を御杣山（造宮材を切り出す山）から五十鈴川口の大湊の貯木場に納め、内宮分は五十鈴川を遡航して宮中に運び（川曳き）、外宮分は宮川を遡り、上の渡し付近から陸に引き上げ、御用材を車に乗せ陸上輸送する（陸曳き）ことをいう。

また、お白石持ちとは、両宮の正殿の御敷地に敷き詰める白石を奉納することで、こぶし大の白石（石英岩）が宮川の河原で拾い集められる。

両行事とも流域住民のみで行っていたが、現在では全国から行事参加者を受け入れている。



川曳き（伊勢市）

御用材を五十鈴川を利用して運搬する。

○かんこ踊り

「かんこ」とは羯鼓と呼ばれる小さな太鼓に由来。毎年、盆供養として踊られ、赤熊と呼ばれる白馬の尾の毛で作られた被りものをかぶり、黒と白の縞模様の衣装にわらの腰みのを着け、胸に吊るした羯鼓を打鳴らしながら舞う。伊勢市佐八町、円座町のかんこ踊りは、県の無形民俗文化財に指定。



かんこ踊り（伊勢市）

かんこ踊りは、石川県、福井県にも見られるが、特に三重県は多く、各地で行われている。

2.3. 河川にまつわる歴史・文化

流域の歴史は先土器時代に始まり、大台町東部と玉城町では数々の遺跡が発掘されている。縄文時代に入ると遺跡は点々と広がりを見せ、弥生時代中期までには上流域の大台町にまで分布している。

古墳時代後半のものとしては、宮川の右岸、伊勢神宮外宮の裏山にあたる高倉山^{たかくら}（116m、伊勢市）の山頂付近に全国有数の横穴式石室をもつ高倉山古墳がある。

飛鳥時代以降、下流域には宮川の形成する肥沃な耕地を基盤とする集落が各地に所在した。また、流域は伊勢神宮との関係が深く、宮川左岸の伊勢市小俣町に所在する離宮院跡^{りきゅういん}は多気郡明和町の斎宮跡^{いつきのみや}とともに伊勢神宮関連遺跡の一つとして重要である。宮川中流部の大紀町にある滝原宮は内宮の別宮として知られており、流域の神宮との係わりを一層強く印象づけている。



滝原宮（大紀町滝原）

内宮の別宮。古来伊雑宮^{いざわのみや}とともに内宮の遙宮^{とのおのみや}（本宮から離れた宮殿）として崇敬を集め、域内は神杉が茂る自然林のすばらしい景観である。



離宮院跡（伊勢市小俣町）

天皇に代わって伊勢神宮に仕えた未婚の皇族女性・斎王が、祭祀のために斎宮（現在の明和町）から伊勢神宮へと赴く際に宿泊した場所。現在は国の史跡指定を受け、離宮院公園として整備されている。

① 宮川の舟運

宮川の舟運は、古い記録によれば伊勢神宮の遷宮のための御用材を阿曾山（大台町）から川を利用して伊勢へ運んでいた。

その後、江馬山（旧宮川村）、大杉山（旧宮川村）からも遷宮用材は運び出され一般の材木運搬も宮川が頼りであった。三瀬谷までは、丸太の一本流し、そこでセリにかけ筏に組み、筏師が乗って川を下っていった。水量の多い時期は丸一日で伊勢まで届くが、少ないときは3日くらいかかったという。一方、生活物資の木炭・薪・茶などを上流から、下流からは米・塩・日用雑貨が鵜飼船で運ばれていた。材木の筏流しはトラックで陸送に代わる昭和23年（1948年）ごろまで行われていたという。

勢田川沿いは、室町時代中頃に川のほとりの葦原を埋め立てて町がつくられた。この町は「河崎」といい「伊勢の台所」として栄えた問屋街で江戸時代から昭和初期までの長い間、勢田川の水運を利用して、米や魚の卸売り権を得た商人たちが行き交っていた。

現在では、勢田川の水運として河崎「川の駅」～二軒茶屋「川の駅」～神社「海の駅」～大湊「海の駅」を結ぶ遊覧船が運航されており、川に沿って石段の残る昔ながらの商家や蔵をみることができる。

② 宮川の渡し

伊勢参り全盛期の江戸時代には、日本の津々浦々から街道が通じ、それらの道が合流し神都・伊勢に入る直前に宮川を渡ることとなっていた。往時には宮川の交通の要所には「渡し」があり伊勢神宮の参宮道に直結するだけでも「桜の渡し」「柳の渡し」「磯の渡し」が知られている。

宮川が増水すればたちまち川は通行止めとなり、旅人は不自由し、山田奉行所（伊勢市）が宮川の治水に采配をふるっていた。

明治以降、宮川の各渡し場には近代工法による橋が次々と架けられ、最近まで生活に使われていた「上久具の渡し」（度会町）が、久具都比売橋完成の平成6年（1994年）3月を最後に廃止され、宮川の渡しの歴史に終止符を打った。



図 2-3 「宮川東岸」

○上條の渡し跡

昭和 18 年（1943 年）まで利用されていた。現在はラブリーパークの一番河口側の樋門に東屋が整備され、清々しい絶景ポイントとして親しまれている。



上條の渡し跡（伊勢市）

○磯の渡し跡

他の渡しが旅人中心に利用されていたのに比べ、鮎や小魚を背負った行商の女性や学生など、地元の人の利用が多かった。昭和 27 年（1952 年）に豊浜大橋が開通するまで重要な交通手段だった。

○桜の渡し跡（宮川の渡し）

柳の渡しの「上の渡し」に対し、「下の渡し」という。現在でも神宮への御用材を運ぶ陸曳きの起点として利用されている。

○柳の渡し跡

桜の渡しの「下の渡し」に対し、「上の渡し」ともいう。山越えの伊勢本街道と熊野街道を通る人、大和・紀州から初瀬街道を通る人が利用した。

○上久具の渡し跡

宮川の最後の渡し場として人々を運び、物資輸送の重要なルートであったが、平成 6 年（1994 年）3 月に久具都比売橋の完成と共に廃止された。

○田口の渡し跡

人々を運び、物資輸送の重要なルートであったが、田口大橋の完成と共に廃止された。

○下三瀬の渡し跡

大台町下三瀬と旧大宮町三瀬川をつなぐ渡し場であり、熊野街道に近い、伊勢神宮へ参る人と熊野三山へ参る人が往来した。

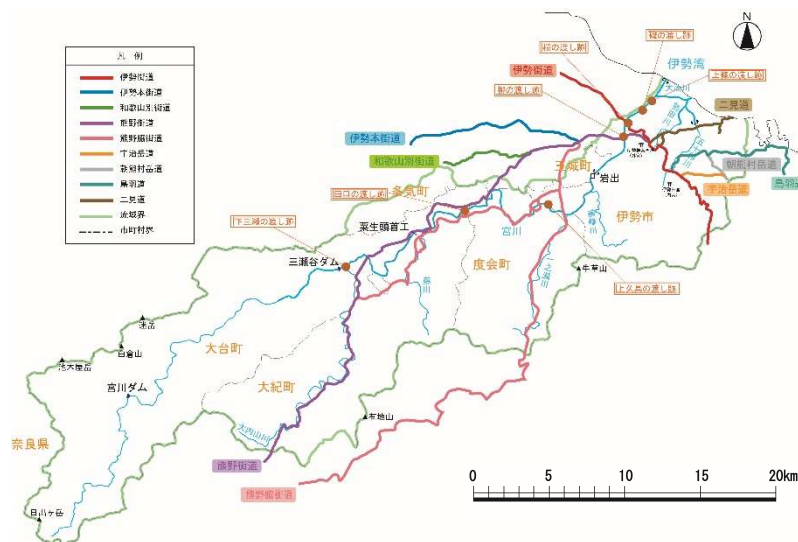


図 2-4 街道・渡し位置図

③ 伊勢神宮

伊勢神宮は五十鈴川のほとり宇治の里に造営された皇大神宮（内宮）と、宮川のほとり山田の里に造営された豊受大神宮（外宮）の2正宮をはじめ、14の別宮と109社の摂社・末社・所管社から成り、正式には単に「神宮」と称する。

古くから歴代皇室の厚い信仰と保護を受け、武家時代に入っても神域として自治権を与えられ、全国各地からお伊勢参りが公認され定着するなど非常に特殊な発展を遂げた。

宮川は神宮と密接に結びつき、宮川本川は遷宮時における用材の運搬や河原の白石を使用するなど祭事との関わりが深い。支川五十鈴川は神聖な川として内宮参拝者の禊場（御手洗場）とされており、倭姫命が御裳のすそを濯いだことから「御裳濯川」とも呼ばれている。勢田川は、古くから神宮参拝者の海路であり明治5年（1872年）5月には明治天皇が勢田川を通過して船参宮をされている。



内宮（伊勢市宇治館町）
正しくは皇大神宮といい、天照大神が祀られている。約二千年前の第11代垂仁天皇の即位二十六年に現在の五十鈴川のほとりに鎮座されたと伝えられている。



外宮（伊勢市豊川町）
正しくは豊受大神宮といい、豊受大神が祀られている。皇大神宮鎮座より約500年後の481年天照大御神のお告げにより丹波の国から度会山の山田原に迎えられたと伝えられている。

○お伊勢参り

「伊勢に行きたい伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と全国に流布した伊勢音頭でも歌われるほど、古来より民俗信仰の対象であった伊勢参宮は江戸時代中期、街道や宿場の整備で交通の便が良くなったこと、農民の生活水準が向上したこと、商人的性格を持った神主・御師の活躍などにより盛行をきわめた。特に慶安三年（1650年）、宝永二年（1705年）、明和八年（1771年）、文政十三年（1830年）の4回は数百万人規模の参宮者であったといわれる。街道筋には施行所が設置され多くの人々の手助け（おかげ）や両神宮の神様の「おかげ」で無事参宮ができたことから通称「おかげ参り」とも言われる。

神宮領内に入る宮川の渡しは、渡し賃を無料にし、積極的に参宮客を受け入れた。

物見遊山を兼ねたお伊勢参りは、抑圧された生活から人々を解放し、知見を広める絶好の機会となり、神宮周辺の経済を潤し、文化交流の役割を担った。

○^{しきねんせんぐう}式年遷宮

神宮では20年ごとに新殿を造営し、旧殿から新殿へ神体を移す祭祀を行う。始まりは持統天皇4年(690年)といわれ、これ以後20年に一度の遷宮が慣例となっていたが、武士が台頭した15世紀頃約100年中絶した。以後は^{かんじんひじり}勸進聖の活躍や、織田信長、豊臣秀吉、徳川家の寄進があり復活、今日におよんでいる。

○^{じんぐうしんでん}神宮神田

五十鈴川の水を引き入れ、神宮で1年間に用いられる祭典御料のお米が、清浄に作られている。広さは約3万m²で、^{やまとひめのみこと}倭姫命がお定めになったと伝えられている。神田中央に祭場があり、^{げしゅさい}神田祭(下種祭・^{おたうえはじめ}御田植初・^{ぬいぼさい}抜穂祭)が古代ゆかしく行われる。

○^{みしお}御塩浜・^{みしお}御塩殿

伊勢市二見町^{じんぐうごりょう}神宮御料の^{みしお}御塩は、毎夏土用の時期、五十鈴川が伊勢湾に注ぐ直前に位置する^{しおあい}潮合という場所から汲み入れた海水を御塩浜に撒いて濃度の高い塩水を作り、それを御塩焼所で一昼夜煮詰めて荒塩とする。これを10月と3月の2回、御塩殿で三角錐形の土器に詰めて焼き固め堅塩にして、「^{みしおみち}御塩道」と呼ばれる道筋を通り外宮に運び、祭典の御料に充てる。御塩殿左方には内宮所管社の御塩殿神社が鎮座し、毎年10月5日には御塩殿祭が執り行われる。



御塩殿祭(10月5日)(伊勢市二見町)

○^{じんぐうみその}神宮御園

二見町溝口にあり、伊勢神宮に供える野菜・果樹などを清流五十鈴川の水を用いて無農薬栽培している御園。栽培品目は70種類以上に及び、各祭典の品目・数量、また盛る器の大きさに合わせるよう細心の注意が払われている。また、毎年春分の日には、域内の祭場で御園祭が執り行われる。

④ 山田奉行所跡

伊勢神宮領の警衛と訴訟、式年遷宮の統轄、宇治山田等の自治体の監督などの機能を持っていた。豊臣秀吉が外宮権の^{ねぎじょうぶだゆう}禰宜上部大夫を奉行に任命したのが起源とされ、江戸幕府が^{おんごくぶぎょう}遠国奉行として引継ぎ明治元年(1868年)まで続いた。名奉行として有名な^{おおおかせんのかみただすけ}大岡越前守忠相は正徳2年(1712年)から6年間在任し、懸案であった神領と紀州藩(和歌山)の境界を定めたことで知られる。



山田奉行所跡 (伊勢市)

奉行所の跡を一部復元した記念館が近傍にある。

⑤ 松井孫右衛門人柱堤

かつて宮川は「暴れ宮川」と呼ばれ、毎年のように堤防が決壊し住まいや田畑が流された。この惨状を見かねた松井孫右衛門は住宅と堤防を守り、川を静めるために自らが人柱となって堤防の下に身を埋めたといわれている。現在では春と孫右衛門の命日の8月25日に孫右衛門の感謝祭が行われる。



松井孫右衛門人柱堤

(伊勢市^{つとく}久留)

かつて宮川の堤防は洪水のため度々決壊し、人々を悩ませた。

⑥ 大湊

宮川、勢田川、五十鈴川の河口の三角州にある港町で、古くから伊勢神宮への外港であった。

全国から貢進される^{しんせんこめ}神饌米、^{おにえ}御贄は船で大湊に集められ、ここから川路で神宮に運ばれた。また、塩の生産や海産物の集積地として栄え、御塩を神宮に供進し、神宮の経営を支える基盤となっていた。

天然の良港であり、宮川河口に位置し、貯木に適した広い場所を確保することが出来ることから、宮川上流の木材の貯木場となり、豊富な木材と、海運による^{かいせん}廻船の増大から商港から造船業へ転換した。



現在の大湊 (伊勢市大湊町)

⑦ 河崎 (勢田川)

戦国時代の末頃から、町の中心を流れる勢田川を利用した水運が活発化し、伊勢平野の農産物、志摩の海産物が勢田川を遡り、河崎で陸揚げされ、伊勢神宮の周辺の経済の中心となった。しかし戦後になって物資の輸送手段が水上輸送から、陸上輸送に変わるにつれ、衰退していった。

現在、伊勢の町屋に特徴的な妻入りの母屋と土蔵が連なった、^{せこみち}世古道^{*}と河岸に通じる伝統的な町並みが保存されている。

※ 世古道：表通りから入り込んだ細い小路のこと



河崎 (伊勢市河崎)

江戸時代には米と魚の卸売り専売権を認められ、明治時代に至っても巨大な問屋街として繁栄した。

2.4. 河川環境に関わる地域の活動

(1) 宮川流域ルネッサンス事業

宮川流域をめぐる水量の確保や水資源の有効活用などの水問題、水質浄化や保水力豊かな森林の整備などの環境問題、自然環境と調和した産業の推進などの地域振興問題と広範囲にわたる課題に対して、平成9年度（1997年度）より三重県が「宮川流域ルネッサンス事業」の取り組みを始めている。共通の理念・計画に基づき、流域住民と一緒に、総合的、一体的に取り組んでいる。

[事業の経緯]

- 平成9年(1997年) 「宮川と共に生きる会」設立：宮川流域ルネッサンス事業スタート
- 平成10年(1998年) 宮川流域ルネッサンスビジョン策定
- 平成11年(1999年) 基本計画、第1次実施計画策定
- 平成12年(2000年) 宮川流域ルネッサンス協議会設立
- 平成14年(2002年) 宮川流域ルネッサンス円卓会議スタート
- 平成15年(2003年) 第2次実施計画:宮川流域エコミュージアム全国大会開催
- 平成16年(2004年) 宮川流域エコミュージアム推進計画策定
- 平成19年(2007年) 第3次実施計画

①宮川流域ルネッサンス協議会

宮川と共に生きるため、住民、企業、行政が協働して、地域の豊かな自然、歴史・文化を保全・再生しながら地域の活性化を図る宮川流域ルネッサンス事業を推進し、魅力ある地域を築くことを目的として平成12年（2000年）6月9日に設立された。

地域に根ざした活動を推進するため、流域14市町村、国、県が連携し、快適な環境づくりの推進に広域的に取り組んでいることを認められ、平成14年（2002年）11月29日にアメニティあふれるまちづくり優良地方公共団体として環境大臣より表彰されている。

現在は流域7市町（伊勢市、多気町、大台町、玉城町、大紀町、度会町、明和町）、三重県により構成されている。

②主な活動

○流域情報誌の発行

「住民・企業・行政でつくる」をモットーに、公募住民で構成されたスタッフにより流域情報誌を作成し流域全世帯へ配布している。

○宮川流域案内人養成事業

宮川流域エコミュージアムの中心的な役割を担う、流域案内人が流域の魅力を伝え、保存継承していくために週末を中心に行事を開催している。

また、専門員が常駐し、宮川流域案内人をバックアップする体制も整えている。

○宮川流域いっせいチェック

住民スタッフが、流域の約 50 ポイントで継続して水環境調査をしている。水質が良くなることだけでなく、毎月川を見つめることで川への関心が高まることを期待している。

○宮川流域子ども川サミット

宮川流域ルネッサンス協議会では、様々な体験活動をとおして宮川流域の子どもたちの交流を図り、自然や地域の大切さなどを理解することを目的として、宮川流域子ども川サミットを開催している。

○宮川流域エコミュージアム

エコミュージアムとは、地域の環境をそれらが本来ある場所で保全し、地域全体を博物館と考え、住民自らが魅力的な地域づくりを行うことで、地域経済の活性化や地域振興を図るもので、宮川流域エコミュージアムは、かけがえのない地域の記憶をみつめ、未来を創造していく「生きた博物館」としての取組を行っている。



親子デイキャンプ (H27)



川サミット (H27)



川と海のクリーン大作戦 (R1)



宮川上流の鮎釣り (R1)

図 2-5 活動状況写真

(2) 伊勢市環境会議

伊勢市では、平成 25 年 (2013 年) に市民や団体等からなる「伊勢市環境会議」を設立し、勢田川七夕大そうじ、勢田川の水質浄化実験等を通じた水質改善に向けた活動を行っている。

2.5. 自然公園等の指定状況

宮川流域は、上流域の全域及び中流域の一部と下流域の伊勢市のほぼ全域が国定公園・県立自然公園に指定されている。中・上流域内にはこれらの自然環境を活かした美しい渓谷・溪流が存在し県内外からの観光客で賑わう。下流域では、伊勢神宮が観光資源の中心となり全国から多くの観光客が訪れている。

また、流域内では16箇所が鳥獣保護区に指定されている。

表 2-2 宮川流域内の自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	主な観光資源	公園面積
伊勢志摩国立公園	S21. 11. 20	伊勢市、鳥羽市、 度会郡南伊勢町、志摩市	伊勢神宮、 二見海岸	55,544ha
吉野熊野国立公園	S11. 2. 1	尾鷲市、熊野市、多気郡大 台町、度会郡大紀町、北牟 婁郡紀北町、南牟婁郡御 浜町、南牟婁郡紀宝町	大杉谷、日出ヶ岳	17,065ha (三重県の み)
香肌峡県立自然公園	S28. 10. 1	松阪市、多気町	香肌峡、蓮ダム、奥香肌 峡	31,262ha
奥伊勢宮川 峡県立自然 公園	S42. 8. 1	多気郡大台町、度会郡大 紀町	三瀬谷ダム、大滝峡、大 平山のツツジ、宮川ダ ム、龍原宮	48,667ha

資料：三重県土地利用規制図説明資料 土地利用規制の地域区分の概要 2000 三重県ほか
三重県の環境と森林 HP

<https://www.pref.mie.lg.jp/MIDORI/HP/shizen/04808001189.htm>

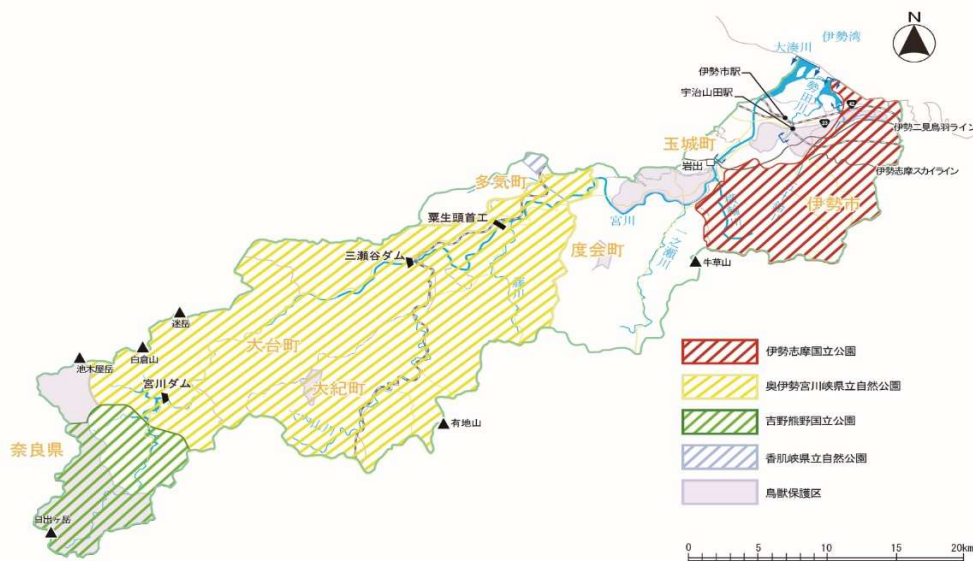


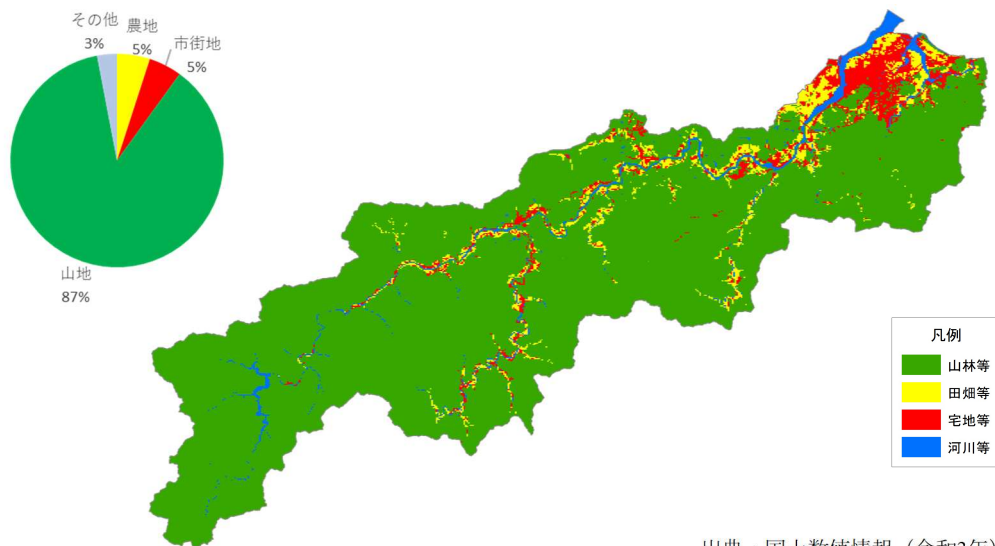
図 2-6 自然公園等の指定状況

3. 流域の社会状況

3.1. 土地利用

宮川流域内の土地利用状況は、山地等が約87%、水田や畑地等の農地が約5%、宅地等の市街地が約5%、その他が約3%であり市街地は下流の伊勢市に集中している。

源流域及び上流域は国立公園及び県立公園に指定されており、森林面積の比率が高い。



出典：国土数値情報（令和3年）

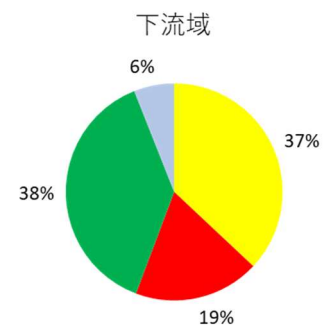
図 3-1 宮川流域の土地利用状況

表 3-1 宮川沿川市町の土地利用状況（私有地）

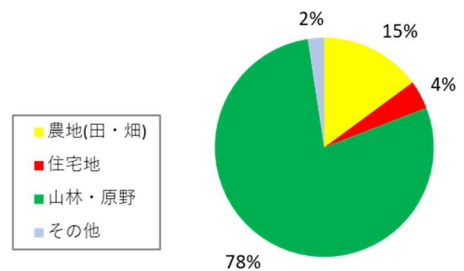
単位：ha

	市町名	農地(田・畑)	住宅地	山林・原野	その他	合計
下 流 域	伊勢市	3,160	2,018	3,982	594	9,754
	玉城町	1,462	326	799	158	2,746
	小計	4,622	2,344	4,781	752	12,499
中 ・ 上 流 域	度会町	837	188	4,644	162	5,831
	大台町	641	257	7,529	141	8,569
	多気町	1,877	513	4,149	220	6,758
	大紀町	754	206	5,289	141	6,389
	小計	4,109	1,164	21,611	665	27,548

出典：令和5年刊 三重県統計（三重県）総面積及び地目別私有地面積（評価総地積）—市町—



中・上流域



3.2. 人口

宮川流域は、伊勢市、玉城町、度会町、多気町、大台町、大紀町の1市5町で構成されており、沿川市町人口は約18万人（令和2年（2020年））となっている。沿川市町の人口推移を見てみると下流域の伊勢市（旧市町村含む）に人口が集中しているが、全体として微減傾向にある。一方、高齢化率は約33%と年々進行している。

表 3-2 宮川沿川 6 市町人口の変遷

市町名	H2	H7		H12		H17		H22		H27		R2		
	人口	人口	増減	人口	増減	人口	増減	人口	増減	人口	増減	人口	増減	
下流域	伊勢市	138,298	138,404	106	136,173	-2,231	135,030	-1,143	130,271	-4,759	127,817	-2,454	122,765	-5,052
	伊勢市	104,164	102,632	-1,532	100,145	-2,487	-	-	-	-	-	-	-	
	旧二見町	8,889	8,865	-24	8,978	113	-	-	-	-	-	-	-	
	旧小俣町	17,074	18,300	1,226	18,125	-175	-	-	-	-	-	-	-	
	旧御園村	8,171	8,607	436	8,925	318	-	-	-	-	-	-	-	
玉城町	12,348	13,313	965	14,284	971	14,831	547	15,297	466	15,431	134	15,041	-390	
中・上流域	度会町	9,075	9,077	2	9,218	141	9,057	-161	8,692	-365	8,309	-383	7,847	-462
	大台町	12,144	11,758	-386	11,399	-359	11,099	-300	10,416	-683	9,557	-859	8,668	-889
	大台町	7,770	7,573	-197	7,332	-241	-	-	-	-	-	-	-	
	旧宮川村	4,374	4,185	-189	4,067	-118	-	-	-	-	-	-	-	
	多気町	15,691	15,644	-47	16,149	505	15,793	-356	15,438	-355	14,878	-560	14,021	-857
	多気町	10,106	10,226	120	10,868	642	-	-	-	-	-	-	-	
	旧勢和村	5,585	5,418	-167	5,281	-137	-	-	-	-	-	-	-	
	大紀町	12,580	11,921	-659	11,334	-587	10,788	-546	9,846	-942	8,939	-907	7,815	-1,124
	旧大宮町	5,804	5,520	-284	5,242	-278	-	-	-	-	-	-	-	
	旧紀勢町	5,055	4,811	-244	4,488	-323	-	-	-	-	-	-	-	
旧大内山村	1,721	1,590	-131	1,604	14	-	-	-	-	-	-	-		
合計	200,136	200,117		198,557		196,598		189,960		184,931		176,157		

出典：国勢調査

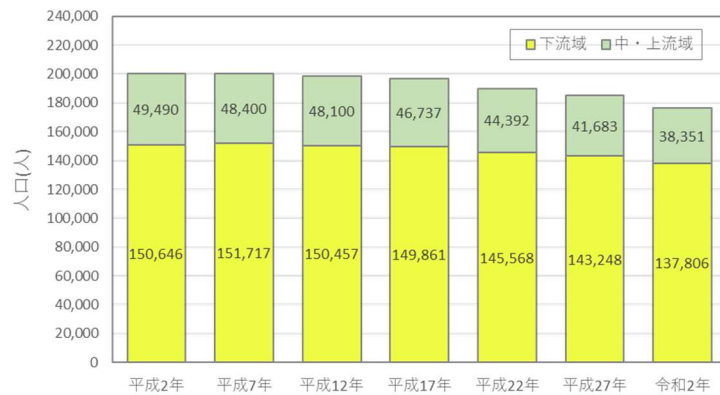


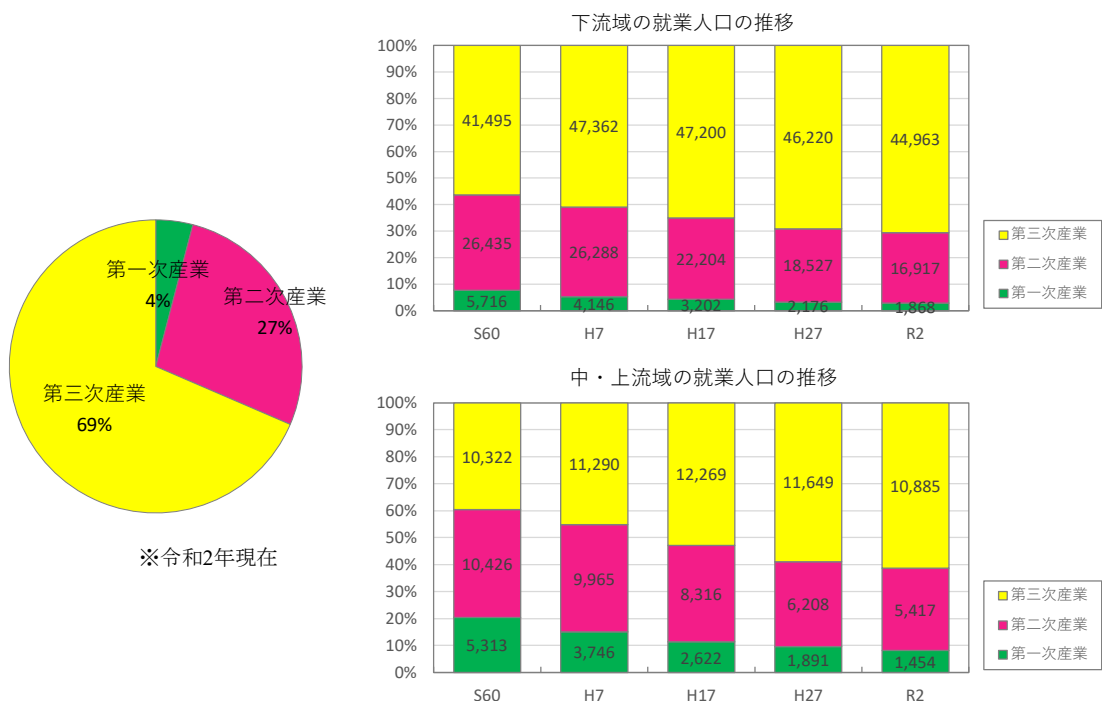
図 3-2 沿川市町人口と高齢化率の変遷

3.3. 産業経済

宮川沿江市町の産業分類別の就業者数をみると産業の中心は宮川下流域の大半を占める伊勢市で、古くから神宮参拝者を対象とする旅客産業を主体に発展してきたため、第三次産業の就業者の比率が高い。

工業は、輸送用機器、機械器具、食料品、繊維工業等が主であるが、近代工業の進展にともない左岸周辺及び海岸地域を開発整備し、市内工業の団地化、近代工業の誘致にも力を入れている。商業面では、市内観光客を対象とした旅館・みやげ物店や旅客輸送の経済活動が活発である。

農林水産業については、伊勢ひじきのブランドのひじきが全国的に有名であり、その他に特産のあさりがある。



出典：国勢調査

図 3-3 沿江市町産業別就業産業者人口の構成比

3.4. 交通

宮川流域の交通の歴史は、伊勢参宮と密接に関わっている。大和から伊勢への道は古くは倭姫の巡行伝説ともつながり、中世には畿内を結ぶ道として、江戸時代には幕府の公道として参宮道が整備された。

全国各地から陸路で伊勢に入るためには、宮川を渡らなければならず、かつては橋が無かったため人々は渡し船で渡った。増水時にはすぐに足止めとなり参拝客は難儀をすることが多かったため、「お伊勢さんほど大社はないがなぜに宮川橋がない」と歌われたほどであった。明治30年（1897年）に参宮鉄道（現在のJR参宮線）が開通、その後、明治44年（1911年）に度会橋、大正8年（1919年）には宮川橋と近代橋が次々と開通し、最近まで生活に使われていた「上久具の渡し」（度会町）が、久具都比売橋完成の平成6年（1994年）3月を最後に廃止され、宮川の渡しの歴史に終止符を打った。

現在は、JR参宮線及び近鉄山田線・鳥羽線が津、名古屋、大阪方面を結ぶ大動脈となり、また、伊勢自動車道、紀勢道の開通によりさらに交通の利便性が高くなっている。

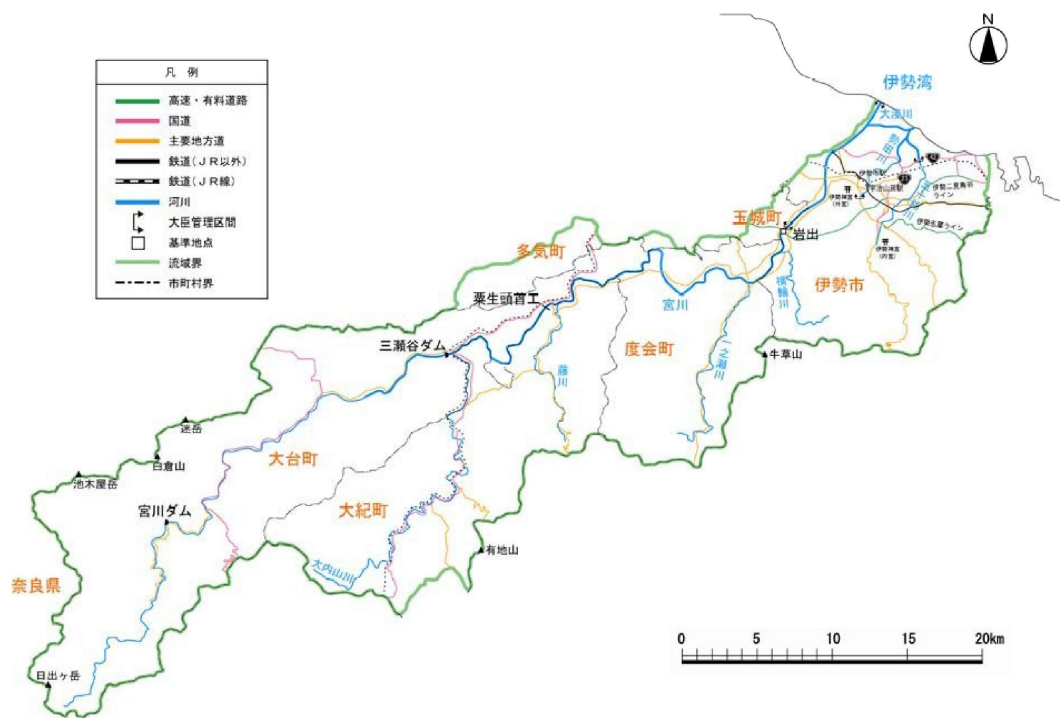


図 3-4 宮川流域内の交通網図

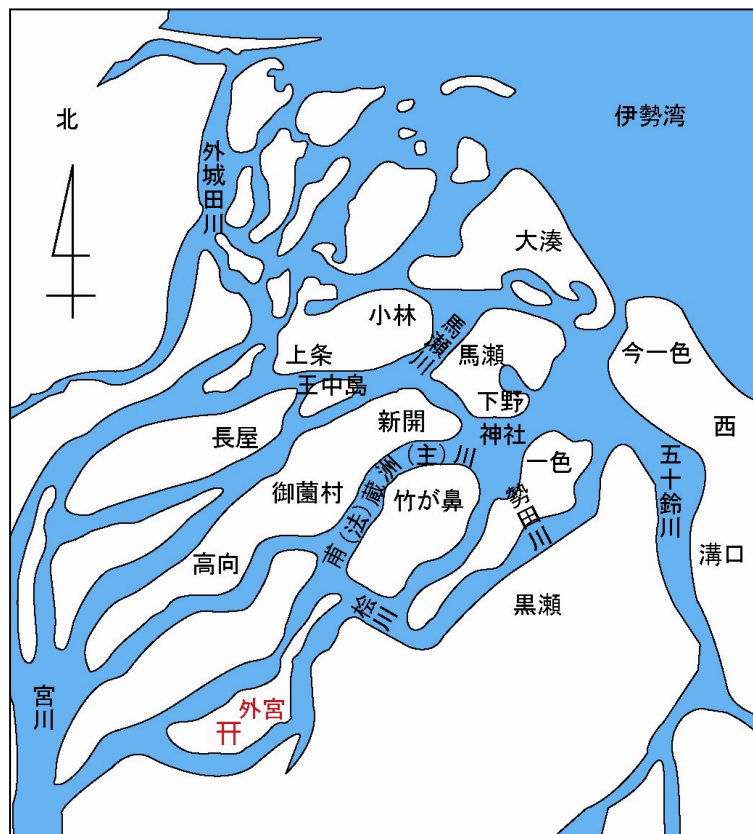
4. 水害と治水事業の沿革

4.1. 既往洪水の概要

宮川の上流域は有数の多雨地帯で古くから暴れ河川として知られ、かつては伊勢神宮（外宮）近くを宮川が流れるなど複雑な流路形態であったことから下流域の住民は度重なる洪水に見舞われ、洪水の度に落橋や破堤による大被害を受けてきた。

宮川の洪水記録として古文書に記載されているのは、8世紀頃からであり、大同4年（809年）には堤防が破堤し大きな被害があったとの記述が残されている。

人々は宮川の自然の恩恵を受け豊かな水田を開拓するとともに、輪中や堤防を築き、洪水から人命や家屋、水田などを守ってきた。宮川の堤防の歴史は古く、その昔平清盛が人工の堤を築いたという記録が残るほか、度重なる洪水を治めるために自ら人柱に身を供したという悲話も伝えられる。



※神宮文庫蔵書古文書をもとに作成

図 4-1 宮川の旧流路

表 4-1 宮川における洪水の歴史（昭和以降）

年月	成因	流量（岩出）	被害状況
昭和13年8月	低気圧による豪雨	約8,400m ³ /s	宮川下流に於いて堤防決壊による城田村、御菌村及び宇治山田市附近での浸水が発生。
昭和34年9月	伊勢湾台風 （台風第15号）	約4,700m ³ /s	伊勢市で公共施設、人家の被害は激しく、被災者は9万人に達した。
昭和49年7月	台風第8号及び集中豪雨	約5,200m ³ /s	被災家屋数14,149戸（全壊1戸、床上3,224戸、床下10,924戸）、浸水面積3,051ha
昭和57年8月	台風第10号	約6,000m ³ /s	被災家屋数2,527戸（全半壊15戸、床上453戸、床下2,059戸）、浸水面積974ha
平成2年9月	台風第19号	約6,500m ³ /s	被災家屋数76戸（床下76戸）、浸水面積0.5ha
平成6年9月	台風第26号	約7,300m ³ /s	被災家屋数99戸（床上27戸、床下72戸）、浸水面積105ha
平成10年5月	低気圧	約3,300m ³ /s	被災家屋数22戸（床下22戸）、浸水面積3.2ha
平成16年9月	台風第21号	約7,800m ³ /s	被災家屋数303戸（全半壊33戸、床上184戸、床下86戸）、浸水面積174ha
平成23年9月	台風第12号	約8,400m ³ /s （観測史上最大）	被災家屋数196戸（全半壊6戸、床上108戸、床下82戸）、浸水面積316ha
平成29年10月	台風第21号	約6,900m ³ /s	被災家屋数1,165戸（大規模半壊13戸、半壊73戸、床上409戸、床下670戸）、浸水面積3,034ha

※流量は岩出地点のダム戻し流量

【主要な洪水の概要】

○昭和34年（1959年）9月 台風第15号（伊勢湾台風）

伊勢湾台風（1959年）は9月26日18時ごろ潮岬西方に上陸し、27日未明にかけて伊勢湾沿岸を襲った。本土へ上陸した台風の観測記録としては昭和26年（1951年）の気象庁の統計開始以降2番目に大きく未曾有の被害を及ぼした。伊勢市もその例外ではなく、公共施設、人家の被害は激しく、被災者は9万人に達した。

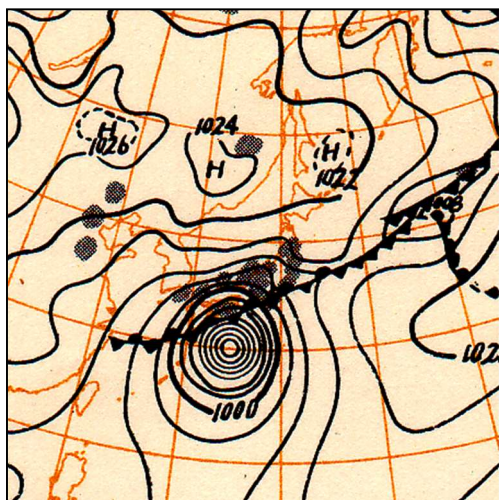


図 4-2 天気図 昭和34年9月26日9時

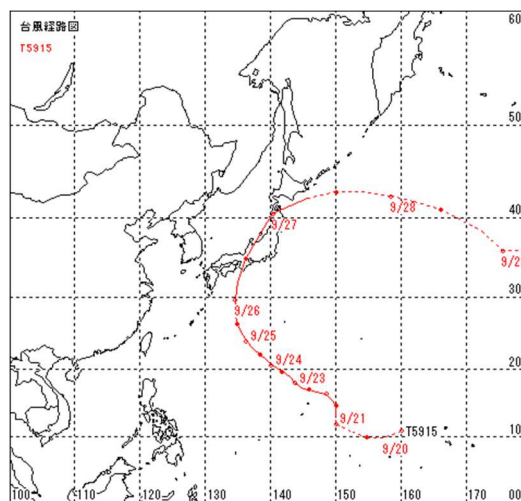


図 4-3 台風経路図

出典：気象庁統計資料

○昭和49年（1974年）7月7日 台風第8号及び集中豪雨（七夕災害）

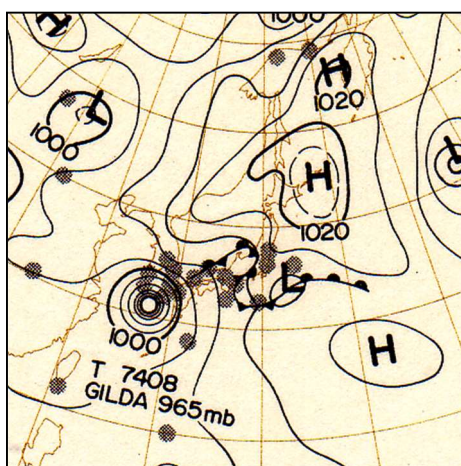
1974年7月1日南鳥島付近に発生した台風第8号は4日ごろに大型の強い台風に成長し沖縄の西海上を北上、6日から7日にかけて朝鮮海峡を経て日本海中部を北東に進んだ。

三重県地方においては6月下旬から梅雨前線活動によって連続的な降雨が続き、台風が南西諸島にさしかかった頃から前線活動がにわか活発となり、各地で大雨をもたらした。

6月29日ごろから雨は降り続いていたが、特に7月6日からは台風第8号の影響を受け梅雨前線の活動が活発となり大雨となった。

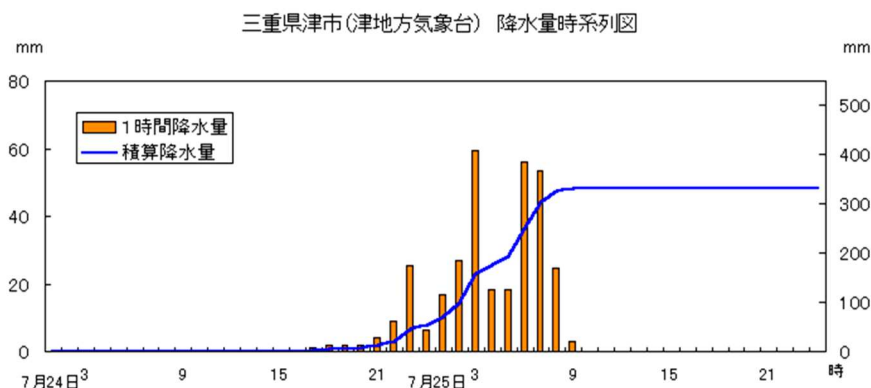
7月6日～7日にかけての雨量は三重県南部で300～500mm、中・北部で150～280mm程度であった。この間大台山系には連続降雨850mm以上、さらにこの地域に端を発する水系に局地的な豪雨をもたらした。

6日夜から7日夜にかけ降り続いた大雨による被害は、伊勢市周辺を中心に浸水被害、山・崖崩れが目立った。7日午後1時ごろ勢田川が氾濫し伊勢市の広域が水に浸かった。



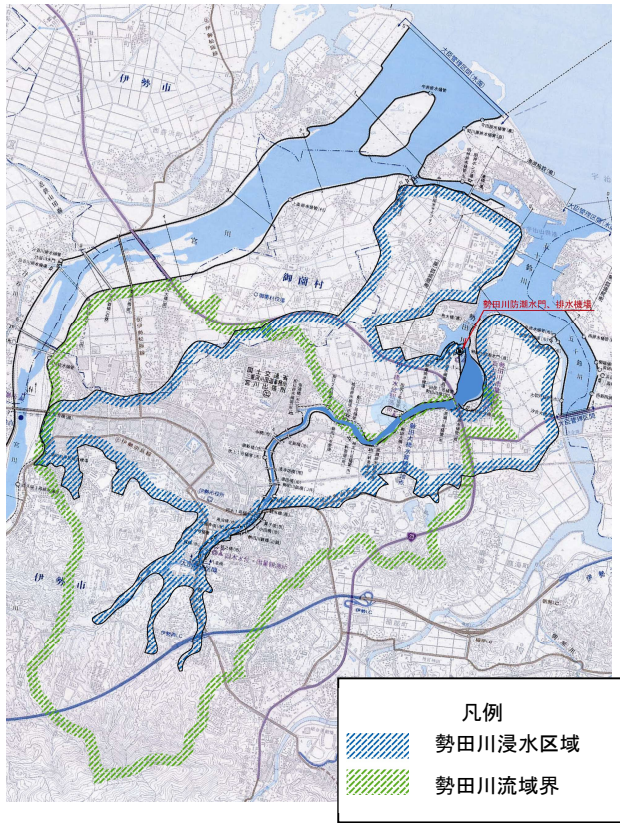
出典：気象庁統計資料

図 4-4 天気図 昭和 49 年 7 月 6 日 9 時



出典：気象庁統計資料

図 4-5 地方気象台 降水量時系列図



伊勢市駅前



勢田川姫之橋の被災状



車の水没状況（伊勢市）

図 4-6 昭和 49 年洪水の被害状況

○昭和57年（1982年）7月31日～8月3日 台風第10号

7月31日～8月3日にかけて、総雨量580mm以上（宮川）の大雨があり、伊勢市を中心に浸水家屋2,527戸、浸水面積974haの被害が発生した。

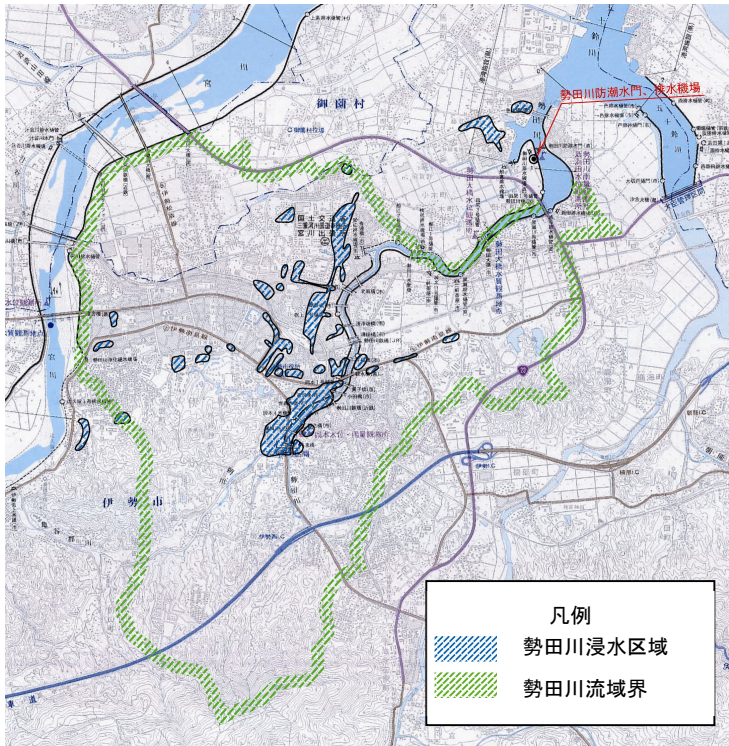


図 4-7 昭和 57 年洪水の被害状況



県道32号線（楓橋付近）の状況



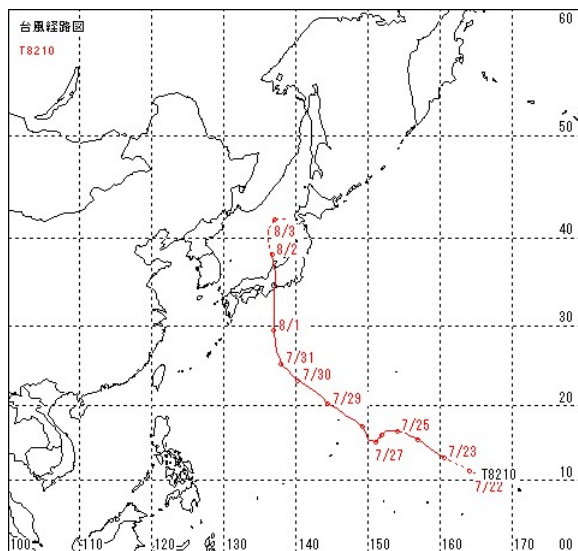
明倫小学校の冠水状況



八束橋より下流の状況



錦水橋より上流の状況



出典：気象庁統計資料

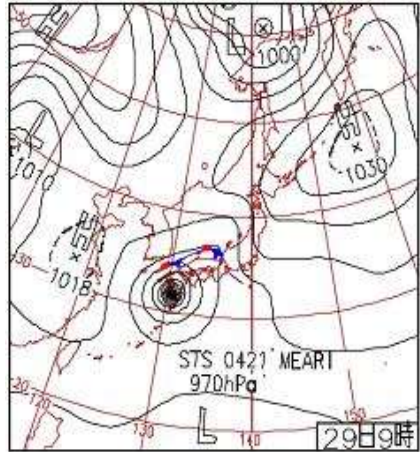
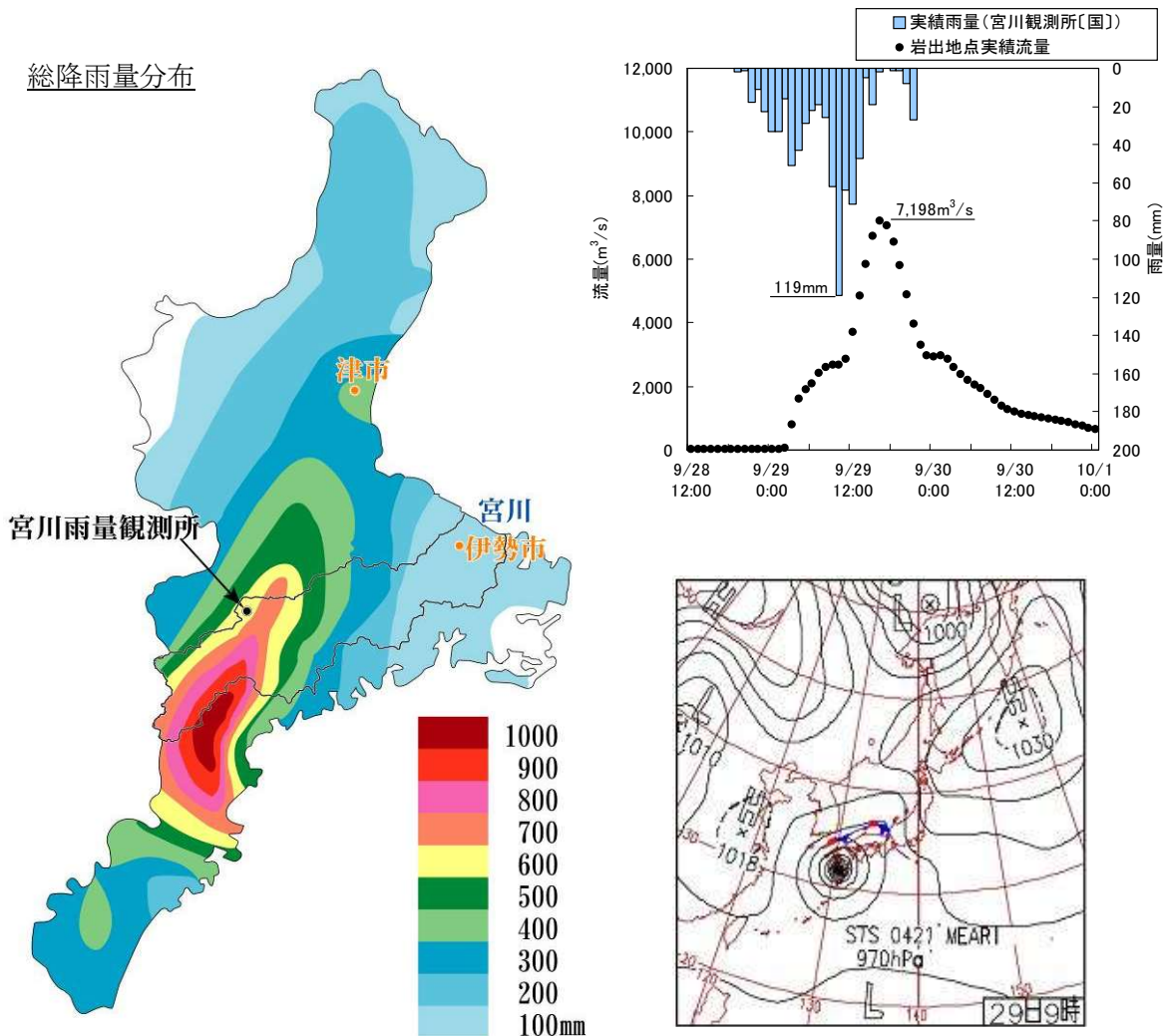
図 4-8 台風経路図

○平成16年（2004年）9月29日 台風第21号

9月29日台風第21号が九州付近に進み、本州付近に停滞していた前線が次第に北上、また日本の東海上には高気圧があり、ゆっくりと東進し、この為、三重県南部で積乱雲が発生・発達して県内を北に進んだ。

三重県では28日の18時過ぎから激しい雨を観測し始め、特に紀勢・東紀州の宮川村では、29日の8時40分から9時40分までの1時間に139mmの猛烈な雨を観測した。また、宮川雨量観測所では、最大時間雨量119mm、総雨量753mmを記録した。

基準地点岩出で昭和50年（1975年）の観測開始後最高水位である10.16mを記録し、中島・大倉地区の無堤地区で越水した。



出典：気象庁統計資料

図 4-9 平成 16 年洪水の雨量と流量（岩出地点）

図 4-10 天気図 平成 16 年 9 月 29 日 9 時

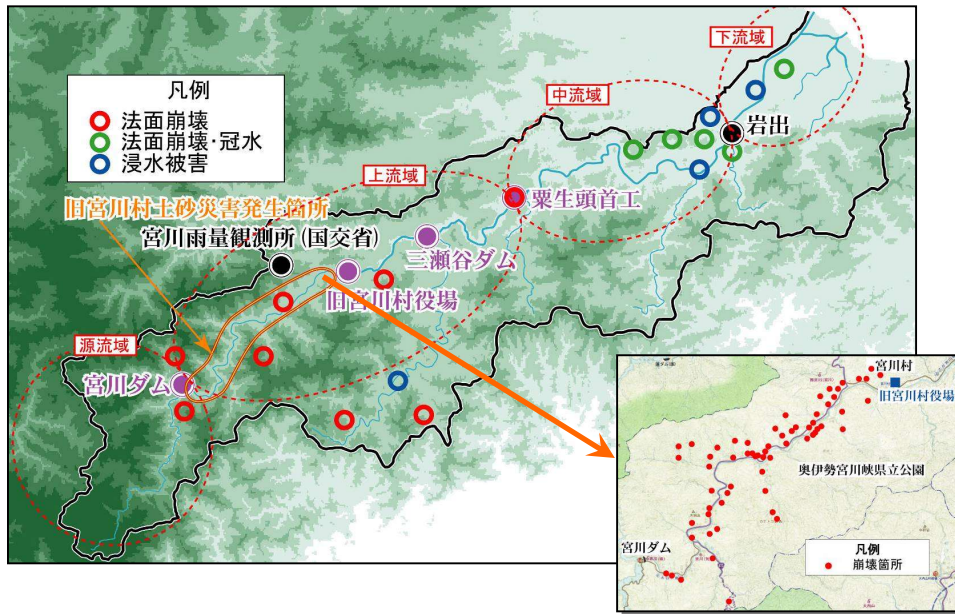


図 4-11 平成 16 年洪水の被害状況

[上流部の状況]

旧宮川村では土石流6件、地すべり・がけ崩れ10件が発生し、死者・行方不明者7名の被害が生じた。宮川ダムでは計画を上回る流入量を記録した。



宮川ダムの放流状況



滝谷地区の斜面崩壊

[中下流部の状況]

伊勢市では床上浸水や路面冠水等の被害が生じ都市機能がマヒした。三瀬谷ダムでは計画を上回る流入量を記録した。



三瀬谷ダムの放流状況



家屋浸水状況 (伊勢市)

出典：読売新聞社提供

○平成23年（2011年）9月4日 台風第12号

2011年の台風第12号の接近に伴い、三重県内では8月30日夜から雨が降り始め、9月1日から5日朝にかけて南部を中心に長時間にわたって激しい雨が降った。

宮川流域においては、降り始めからの総降水量（8月30日20時から9月5日12時まで）が、大台町宮川（気）で1,630.0mmを観測し、記録的な降水量となった。

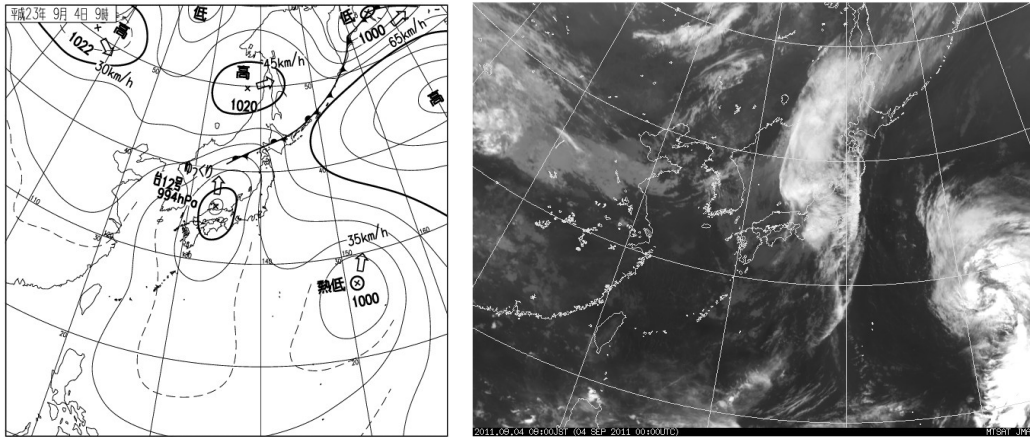


図 4-12 平成 23 年 9 月 4 日 9 時の気象状況

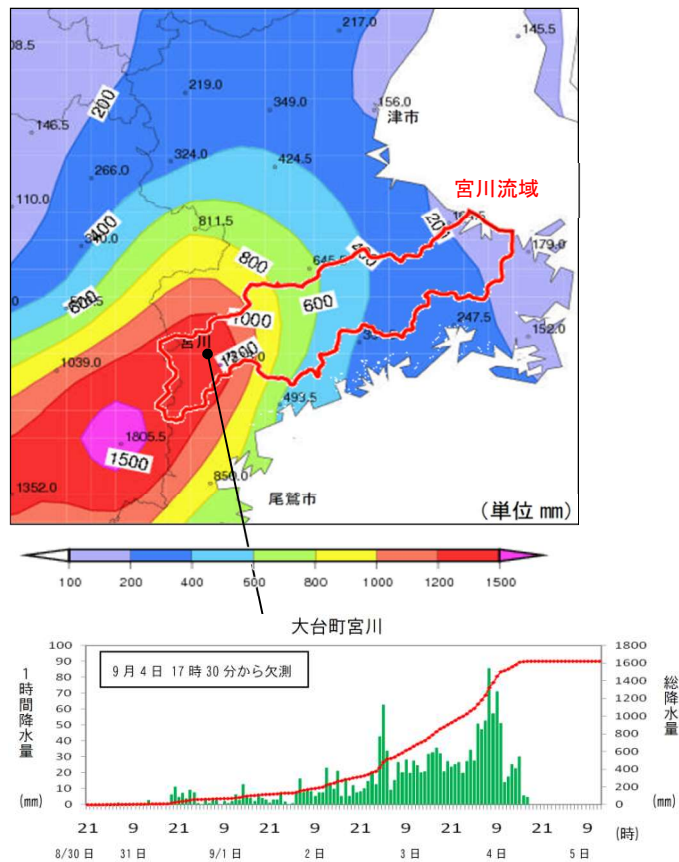


図 4-13 積算降水量分布図（8月30日20時～9月5日12時）

台風第12号による洪水により、無堤部（床上整備予定箇所）の溢水による外水氾濫や支川流末での内水氾濫が生じ、家屋の浸水や道路冠水による通行止めなどの被害が発生した。

また、7.2k右岸他では堤防の漏水被害が生じた。

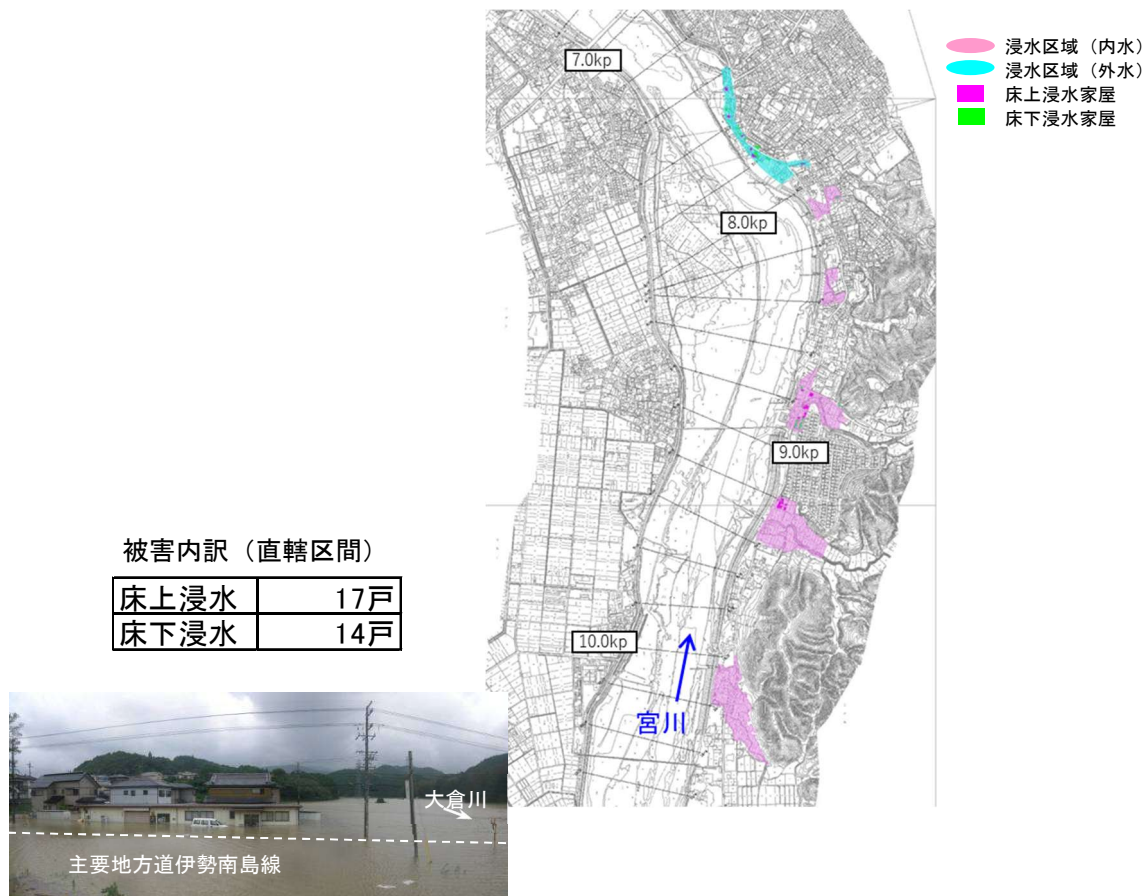


図 4-14 被災状況

○平成29年（2017年）10月22日 台風第21号

平成29年（2017年）10月の台風第21号出水では、宮川下流域で、年間降水量の約1/4～1/3に相当する大雨をもたらし、累積雨量は584mm（観測史上最大）を記録した。宮川岩出地点では氾濫危険水位を超え、対象区域（勢田川、桧尻川、汁谷川）では広範囲で浸水被害が発生した。

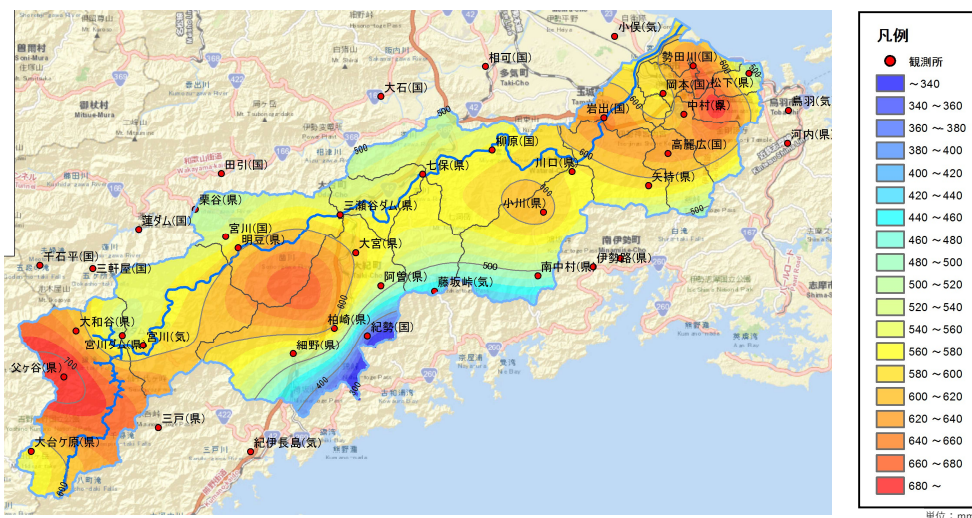


図 4-15 平成 29 年 10 月洪水の総雨量等雨量分布図（10 月 21 日～23 日）

特に勢田川流域では累積雨量は600mmを超え、主要洪水である昭和49年（1974年）7月や昭和57年（1982年）8月と同等の時間最大雨量80mm/hを記録した。昭和49年（1974年）以降2番目の流量となり、整備計画目標流量を上回った。

表 4-2 平成 29 年 10 月台風第 21 号の雨量

雨量観測所	累積雨量	時間最大雨量
勢田川	665mm	80mm/h
岡本	584mm	67mm/h
県伊勢庁舎	623mm	71mm/h

表 4-3 主要洪水の雨量（①昭和 49 年 7 月 7 日、②昭和 57 年 8 月 1 日～2 日）

雨量観測所	累積雨量	時間最大雨量
①伊勢土木事務所	495.6mm	65.6mm/h
②岡本	320mm	88mm/h

台風第21号により、降った雨が排水できずに冠水した内水氾濫が主な要因となって、伊勢市内で甚大な浸水被害が発生した。勢田川の掘込河道区間の2箇所から溢水が生じた。

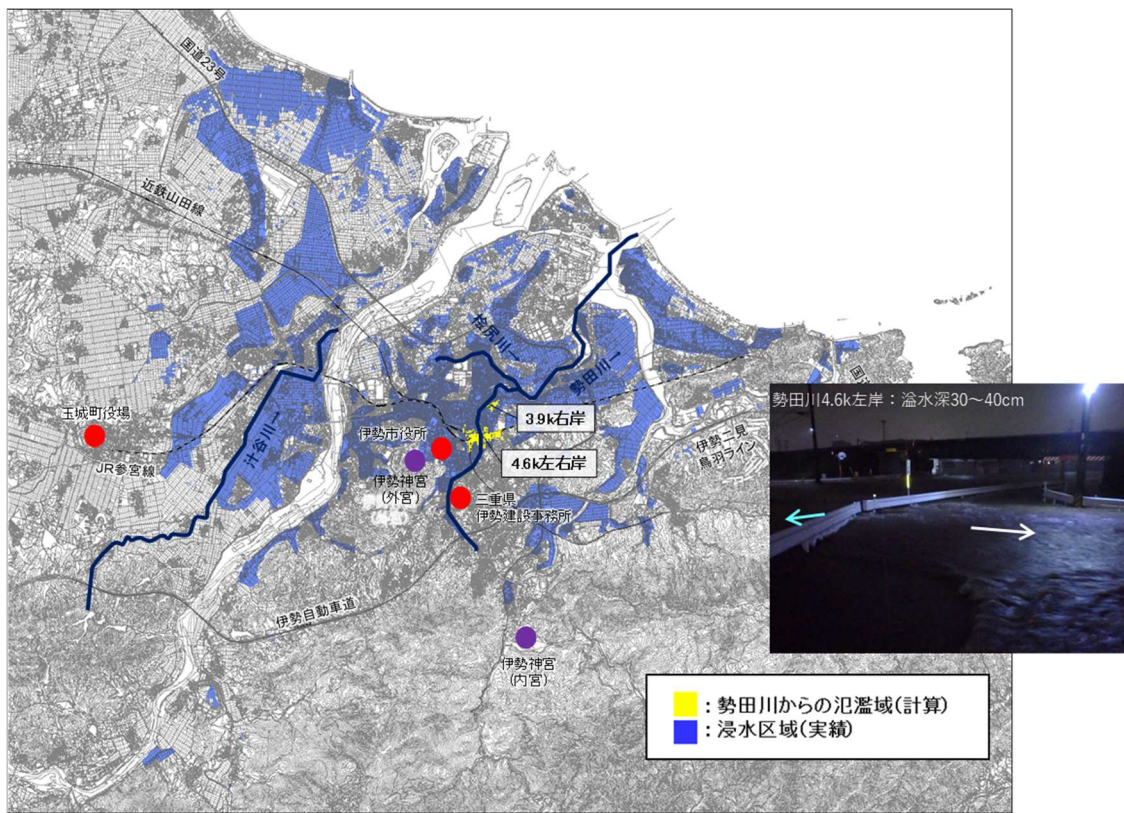


図 4-16 平成 29 年 10 月洪水の浸水状況

4.2. 治水事業の沿革

12世紀に平清盛が伊勢神宮に参拝の際に宮川堤を築いたとされるが定かでは無く、現存する堤防としては江戸期に入ってからのものが最も古い。

現在の宮川堤周辺には、延^{えんきよう}享5年（1748年）に築堤された浅間堤が現存しており、ここには度重なる氾濫を鎮めるため自ら人柱の犠牲となったといわれる松井孫右衛門が祀られている。

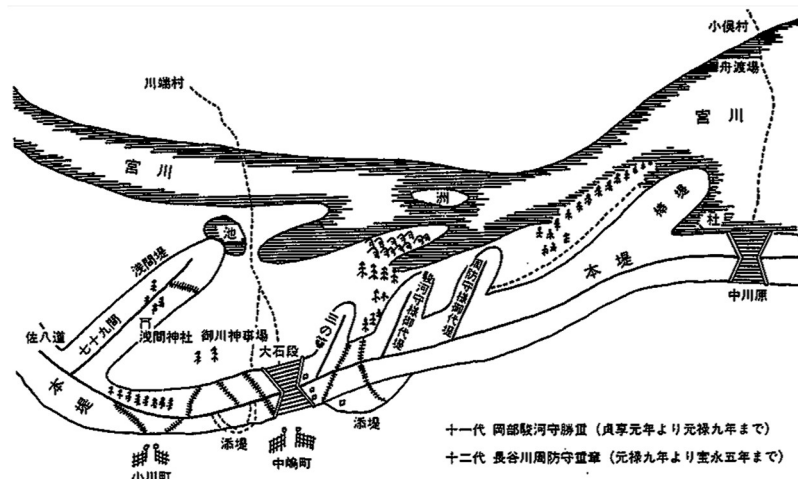


図 4-17 宮川堤の古絵図（模写）※神宮文庫資料

本格的な治水事業は、昭和14年（1939年）に三重県が昭和13年（1938年）8月洪水を対象として、中小河川改修事業に着手したことに始まる。岩出地点における基本高水のピーク流量を $8,400\text{m}^3/\text{s}$ として、上流に宮川ダムの建設を含めた現計画を決定し、同ダムは昭和32年（1957年）より管理を開始した。

五十鈴川は、昭和21年（1946年）から同23年（1948年）にかけて国の直轄事業として改修工事を実施、同24年（1949年）から三重県において中小河川改修事業として引き続き事業を実施した。支川勢田川では、昭和45年（1970年）から局部改良工事を実施した。

宮川・五十鈴川・勢田川の河口部については、昭和28年（1953年）9月の台風第13号に対する高潮対策事業を昭和28年（1953年）から同33年（1958年）にかけて実施したが、昭和34年（1959年）9月の伊勢湾台風による被害を受けたため、伊勢湾高潮対策事業として昭和35年（1960年）から同38年（1963年）にかけて事業を実施した。また、勢田川は昭和49年（1974年）7月の台風第8号により甚大な被害を受けたため、昭和51年度（1976年度）から同57年度（1982年度）にかけて、激甚災害対策特別緊急事業に採択された。

工実施基本計画は、宮川の基本高水は昭和13年（1938年）8月洪水を主要な対象洪水とし、そのピーク流量を、基準地点岩出において $8,400\text{m}^3/\text{s}$ に設定している。このうち宮川ダムにより $800\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、河道への配分流量を $7,600\text{m}^3/\text{s}$ としている。

また、五十鈴川の計画高水量は、宇治橋において $740\text{m}^3/\text{s}$ とし、朝熊川の流量 $190\text{m}^3/\text{s}$ 、勢田川・大湊川を合わせて $1,060\text{m}^3/\text{s}$ を設定している。

表 4-4 治水事業年表

年月	事業内容
(昭和 13 年 8 月)	(低気圧による豪雨)
昭和 26 年	河川改修計画策定 (三重県) 基本高水のピーク流量：8,400m ³ /s (岩出地点) 計画高水流量：7,600m ³ /s (岩出地点)
昭和 32 年 5 月	宮川ダム竣工
(昭和 34 年 9 月) (昭和 49 年 7 月)	台風第 15 号 (伊勢湾台風) 台風第 8 号及び集中豪雨 (七夕災害)
昭和 50 年 4 月	宮川水系が一級河川水系に指定
昭和 51 年 4 月	工事実施基本計画策定 基本高水のピーク流量：8,400m ³ /s (岩出地点) 計画高水流量：7,600m ³ /s (岩出地点)
昭和 55 年 3 月	勢田川防潮水門・排水機場 完成
(昭和 57 年 8 月) (平成 2 年 9 月) (平成 6 年 9 月) (平成 10 年 5 月) (平成 16 年 9 月)	台風第 10 号 台風第 19 号 台風第 26 号 低気圧 台風第 21 号
平成 18 年	床上浸水対策特別緊急事業 着手
平成 19 年 11 月	河川整備基本方針画策定 基本高水のピーク流量：8,400m ³ /s (岩出地点) 計画高水流量：7,600m ³ /s (岩出地点)
(平成 23 年 9 月)	台風第 12 号
平成 24 年	床上浸水対策特別緊急事業 完成
平成 27 年 11 月	河川整備計画策定 整備計画流量：7,300m ³ /s (岩出地点)
(平成 29 年 10 月)	台風第 21 号
平成 30 年 6 月	勢田川流域等浸水対策実行計画 策定

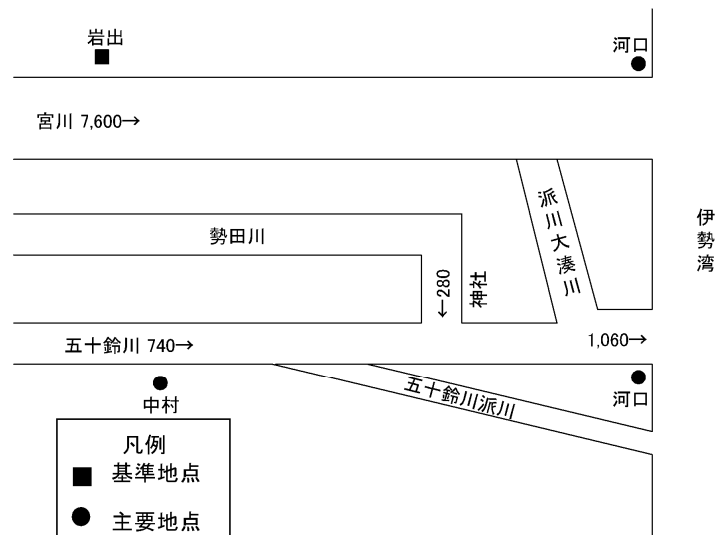


図 4-18 河川整備基本方針における計画高水流量配分図 (単位：m³/s)

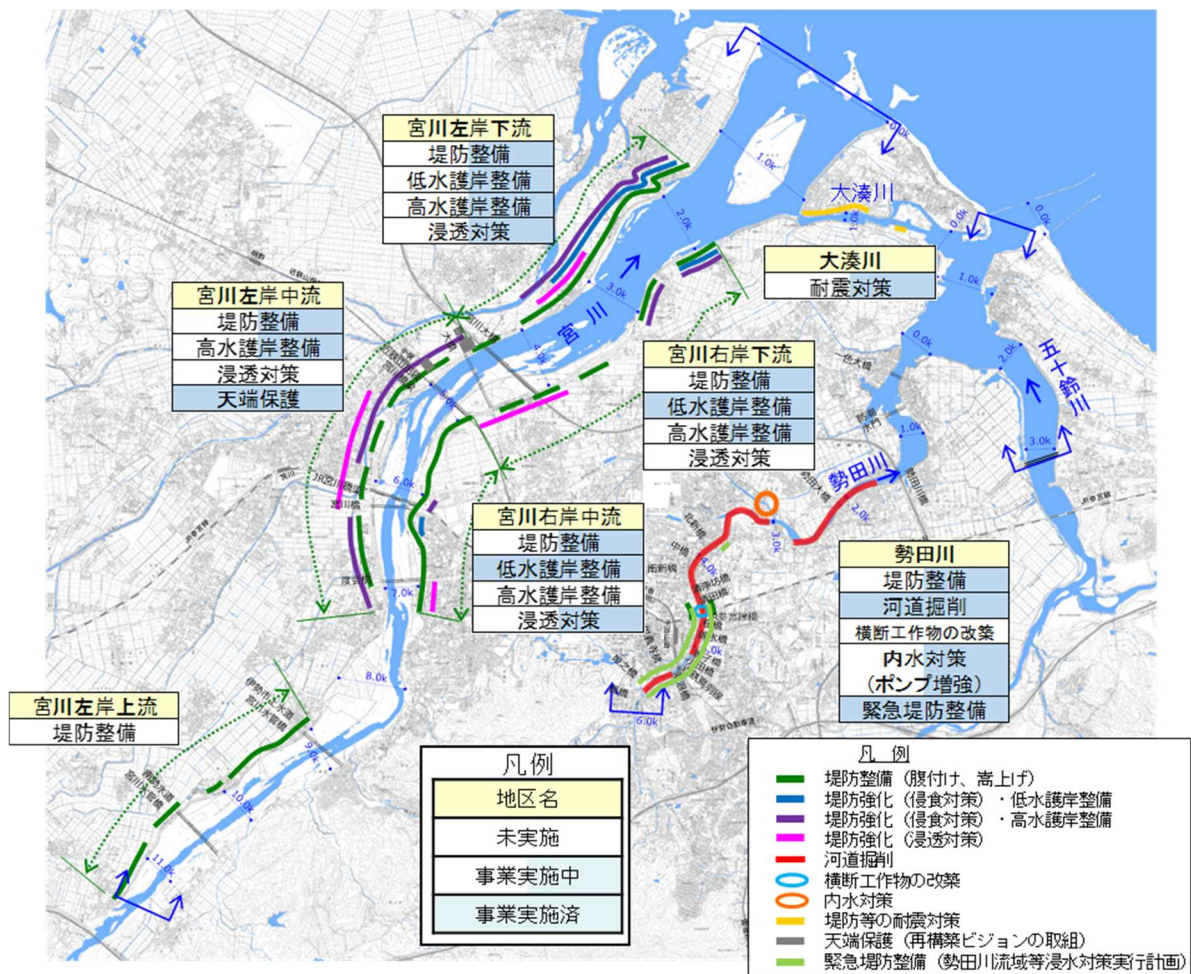


図 4-19 主な治水整備状況図 (令和 7 年 3 月現在)

(1) 宮川ダムの概要

宮川上流域は我国有数の多雨地帯であり、最大流量と最小流量の差が大きいことによる弊害が問題となっていた。このため、治水・^{かんがい}灌漑・発電等の多目的のもとに宮川ダムの建設が行われ、当該ダムの洪水調節は宮川の治水に大きな役割を果たしている。



宮川ダム

表 4-5 宮川ダム諸元

位置	三重県多気郡大台町久豆
名称	宮川ダム
河川名	一級河川宮川水系宮川
型式	重力式コンクリートダム
総貯水容量	70,500,000 m ³
有効貯水容量	56,500,000 m ³
堤高	88.50 m (堤頂標高 E L 284.5 m)
集水面積	125.6 km ²

(2) 勢田川防潮水門・排水機場

勢田川は昭和49年（1974年）7月に記録的な集中豪雨に見舞われ大災害を引き起こした。当洪水を契機に行われた直轄激甚災害対策特別緊急事業の一部が昭和55年（1980年）3月に完成した勢田川防潮水門・排水機場である。

平常時には水門を全開、高潮時は閉鎖し、勢田川への高潮の遡上を防止するとともに、排水機場のポンプを動かして勢田川の水を強制排水する。



勢田川防潮水門

(3) 床上浸水対策特別緊急事業

平成16年（2004年）9月洪水による被害を契機に、無堤区間における床上浸水被害対策緊急事業が行われ、平成24年（2012年）に完成した。

① 堤防整備

堤防が無く地盤高が計画高水位より低い7.2k～10.4kの約3,500mの区間において堤防を整備し、洪水による被害を防御。また、堤防整備に伴い、宮川への流入支川及び排水路において必要となる樋門・樋管を設置。

② 河道掘削

平成16年（2004年）9月台風第21号と同規模の洪水が再度発生した場合において、洪水を計画高水位以下で安全に流下させるために、河道掘削を実施。

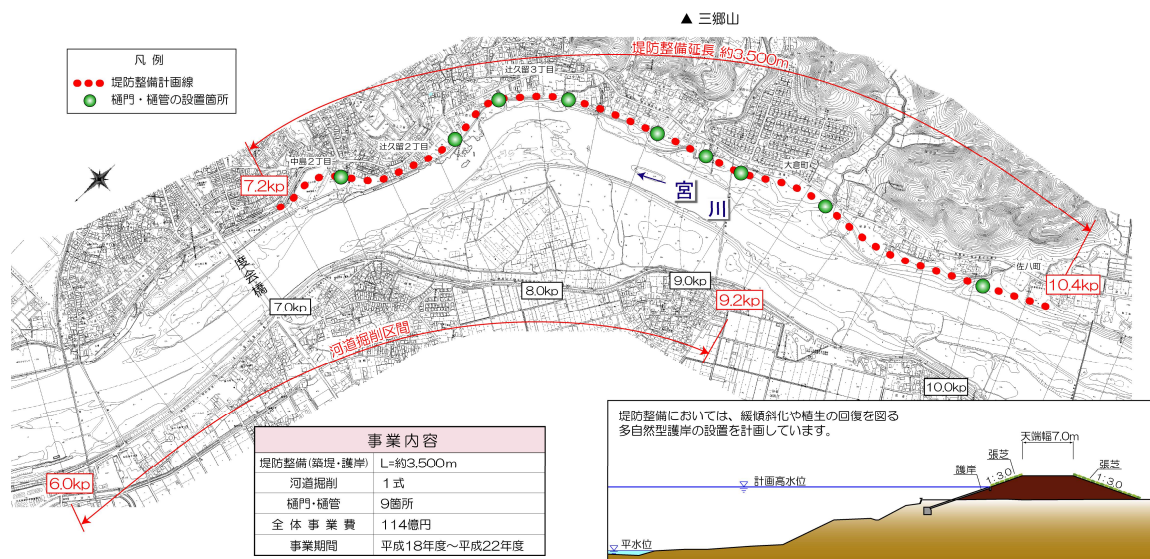


図 4-20 床上浸水対策特別緊急事業の概要

(4) 勢田川流域等浸水対策実行計画

平成29年（2017年）10月の台風第21号による洪水を契機に、勢田川流域全体で各関係機関（伊勢市・三重県・国土交通省）が一体となり、浸水被害軽減に向けた取組を実施するため、「勢田川流域等浸水対策協議会」を平成30年（2018年）1月に設立した。また、同年6月に「勢田川流域等浸水対策実行計画」を策定のうえ、各種ハード対策及びソフト対策に取り組んでいる。

表 4-6 勢田川流域等浸水対策実行計画 メニュー概要

区分	カテゴリ	No.	対象河川(流域)	内容	事業主体	実施する目標期間	
						短期計画 (今後5年程度) 2018～2022年度	中長期計画 (今後20～30年程度)
ハード対策	河川整備	1	勢田川	緊急的な堤防かさ上げ	国土交通省	H30台風期までに完成※2	
		2	勢田川	河道掘削	国土交通省	整備計画対応完了	
		3	勢田川	勢田川排水機場ポンプ増強	国土交通省		整備完了
		4	勢田川	逆流防止フラップ弁設置	伊勢市	H30台風期までに完成※2	
		5	椋尻川	椋尻川排水機場ポンプ増強	国土交通省	整備計画対応完了	
		6	椋尻川(指定区間)	河道掘削	三重県	暫定河道掘削を実施	整備計画対応完了
		7	椋尻川(指定区間)	河川整備	三重県		整備計画対応完了
		8	椋尻川(準用河川)	河川整備	伊勢市		整備計画対応完了
	雨水排水	9	勢田川・椋尻川流域	下水道整備	伊勢市	整備計画策定 3排水区整備を集中的に先行実施 黒瀬ポンプ場ポンプ増強	概ね整備完了
		10	勢田川・椋尻川流域	流域における総合治水対策	国土交通省 三重県・伊勢市	総合治水対策の検討	
ソフト対策	11	勢田川	危機管理型水位計の設置	国土交通省	H29年度末に設置済み※1		
	12	勢田川(指定区間・準用河川)	危機管理型水位計の設置	三重県 伊勢市	H30年度末までに完成※2		
	13	勢田川流域	洪水浸水想定区域の指定・公表	国土交通省	H29年度までに指定・公表済み※1		
	13	勢田川(指定区間)流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県	作成完了		
	14	勢田川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	国土交通省 伊勢市	定期的の実施		
	12	椋尻川(準用河川)	危機管理型水位計の設置	伊勢市	H30年度末までに完成※2		
	15	椋尻川流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県	H30年度末までに作成※2		
	16	椋尻川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	三重県 伊勢市	定期的の実施		
	17	勢田川・椋尻川流域	ハザードマップの更新	伊勢市	早期に実施		
	18	勢田川・椋尻川流域	防災啓発体制の強化	伊勢市	継続した啓発活動を実施		
	19	勢田川・椋尻川流域	伊勢市防災大学の開催	伊勢市	継続した教育を実施		
20	勢田川・椋尻川流域	伊勢市防災コーディネーターの認定	伊勢市	継続し意識高揚を図る			
21	勢田川・椋尻川流域	防災教育の強化	国土交通省 三重県・伊勢市	継続した啓発活動を実施			

※1 平成29年度内に完了したメニュー

※2 平成30年度内に完了するメニュー

4.3. 流域治水対策の取組

(1) 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削や堤防整備等のハード対策の他、上流部における森林の整備・保全や砂防施設の整備等を実施している。

1) 森林の整備・保全

森林の有する土砂流出防止機能や水源涵養機能を適切に発揮するため、継続的な治山対策、樹木の生長や下層植生の繁茂を促すための森林整備等を実施している。

宮川流域における水源林造成事業地は、約140箇所（森林面積約4,000ha）であり、除間伐等の森林整備を計画的に実施している。

2) 治山施設・砂防施設の整備

山脚を固定し、溪岸の侵食を防止するための治山ダムの整備、上流側も溪床勾配を緩和することで土砂・流木の流出を抑制し、山地災害を未然に防止するための取組等を実施している。また、土砂災害を防止するため、砂防堰堤等の砂防施設の整備を進めている。

3) 流域内伐採木のバイオマス発電への利活用

多気町では、町内で間伐された木や竹をバイオマス発電（民間）の燃料の一部として利用することにより、樹木伐採のコストを縮減し、森林整備を促進する取組を実施している。

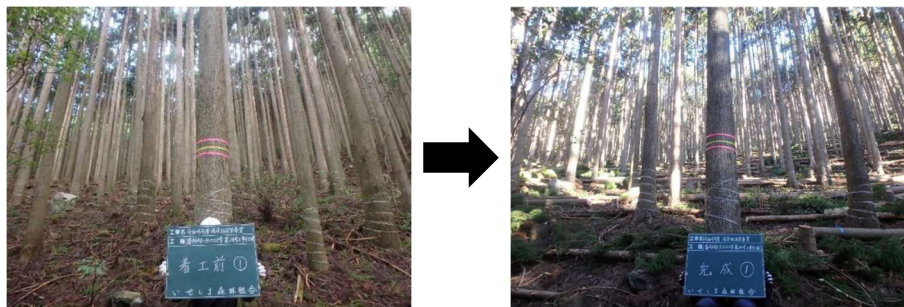


図 4-21 森林の整備事例（度会町）



図 4-22 治山ダムの整備事例（大紀町）

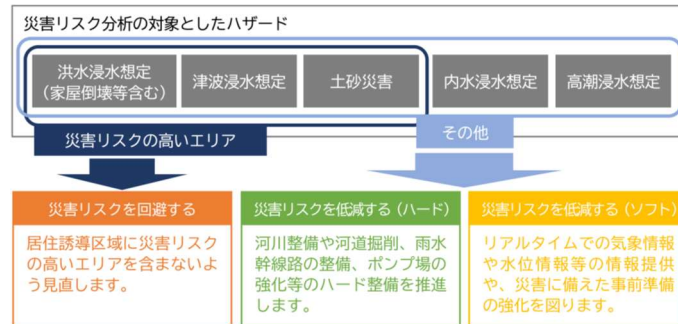


図 4-23 貯木場の様子

(2) 被害対象を減少させるための対策

伊勢市では、立地適正化計画へ防災指針を新たに位置づけ、「被害リスクを回避する」、「被害リスクを低減する（ハード）」、「被害リスクを低減する（ソフト）」という3つの取組方針を設定している。

表 4-7 伊勢市立地適正化計画 防災施策一覧



取組方針	分類	災害 ハザード	取組施策	主体	工期		
					短期 (5年以内)	中長期 (10～20年程度)	
回避する (Avoidance)	土地利用の見直し	災害全般	立地適正化計画（見直し）に基づく安全なエリアへの居住誘導	市	今回見直し		
	低減する (ハード)	洪水浸水対策	宮川	堤防整備・護岸整備・浸透対策 宮川橋改築	国 市		
勢田川			河道掘削・横断工作物の改築等	国			
椋尻川			椋尻川排水機場のポンプ増設	国			
			河道掘削	市			
汁谷川			特殊堤の整備	県			
内水浸水対策		五十鈴川	河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備・堰改築	県			
		汁谷川	汁谷川排水機場のポンプ増設	県			
		勢田川	黒瀬ポンプ場のポンプ増設（倉田山排水区）	市			
土砂災害対策		砂防関係施設の整備	椋尻川	雨水幹線排水路の整備（椋尻第1排水区） 雨水幹線排水路の整備（椋尻第2排水区）	市 市	※整備済	
			津波浸水対策	市域	津波避難施設（タワー）の整備	市	※整備済
低減する (ソフト)	避難体制の強化	災害全般	避難所運営マニュアルの作成支援	市			
			要配慮者利用施設の避難確保計画作成の指示	市			
			実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施（防災講座）	国			
			伊勢市津波避難計画の策定	市	※平成28年8月策定		
	リアルタイムでの情報提供	災害全般	大雨警報（浸水害）・洪水警報等の除外格子の設定 ※气象台	国			
			記録的短時間大雨情報の改善 ※气象台	国			
			危険度分布の通知サービスの細分化（市町村は避難勧告の発令単位等での通知の検討） ※气象台	国			
	災害に備えた事前準備	災害全般	危機管理型水位計・監視カメラの設置（川の水位情報）	国 県 市			
			浸水センサの活用方法の検討（勢田川浸水状況共有システム）	国 市			
			既存ダムの洪水調節強化（事前放流実施、体制構築）※ダム管理者（三重県・中部電力）	県			
最新の水害資料による大雨警報（浸水害）・洪水警報等の基準変更			国				
持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援）			国 市				
水災害を踏まえたまちづくりに関する検討支援（水害リスク評価）			国				
水害リスク空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成）	県 市						
ハザードマップ（市民周知用）の更新	市						
SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信（広報誌）	国 市						

出典：伊勢市立地適正化計画
令和5年3月

(3) 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信や、防災教育の支援等による防災意識の啓発活動等を実施している。また、簡易浸水センサ等を用いた浸水状況共有システムの構築、まるごとまちごとハザードマップの設置等を実施している。

1) SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信

行政情報（防災、くらしに関する情報）を発信するためのスマホアプリ等を整備し、利用者を拡大するため、各種イベント等での普及啓発を継続的に実施している。

2) 防災教育の支援

防災・減災の知識を向上させ、地域の防災リーダーを育成するため、持続的な水災害教育を実施している。

3) 企業と連携した一時避難場所の確保

玉城町では、総合防災マップにて町内全域の浸水想定が改訂されたことから、水害による被害を軽減させる取組として、企業の施設を一時避難場所として使用する応援協定を締結している。

4) 災害からライフラインを守るための事前伐採

大台町では、台風などの倒木が原因の電線寸断による長期の停電を防ぐため、三重県及び中部電力パワーグリッド(株)と連携し、電線を寸断する恐れのある樹木を事前に伐採している。



図 4-24 スマホアプリの作成事例（度会町）



図 4-25 デジタル副読本イメージ



図 4-26 企業と連携した一時避難場所の確保



図 4-27 ライフラインを守るための事前伐採

5) 浸水状況共有システムの構築

宮川（勢田川）流域で簡易浸水センサ等を用いた「浸水状況共有システム」を構築し、水防活動や通行規制等に活用している。

6) まるごとまちごとハザードマップの設置

地域の洪水による浸水のリスクや避難に関する情報を生活空間である「まちなか」に表示して、日ごろから水防災への意識を高めていく「まるごとまちごとハザードマップ」を設置している。

7) 玉城町かわまちづくり計画に基づく防災イベントの実施

玉城町では、川とまちが融合した魅力的なまちづくりを推進するため、「玉城町かわまちづくり計画」を作成している。今後は同計画に基づき、たまき水辺の楽校にて、ボランティア等と連携しながら、防災イベントを実施していく。

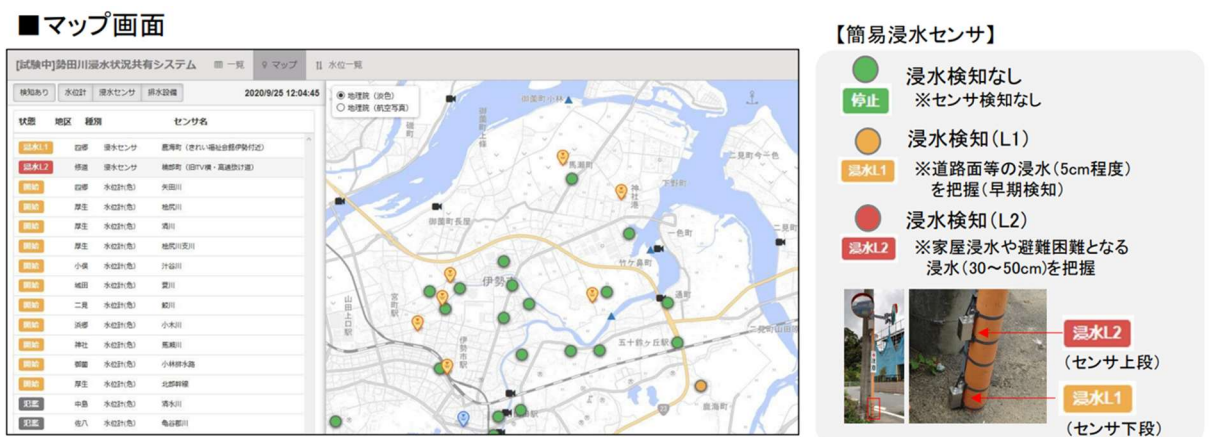


図 4-28 浸水状況共有システム



図 4-29 まるごとまちごとハザードマップ

図 4-30 玉城町かわまちづくり整備箇所

5. 水利用の現状

5.1. 水利用の現状

宮川水系における河川水の利用については、上流部での発電事業が盛んで、昭和28年（1953年）に建設された長ヶ発電所をはじめとして、宮川第1発電所、第2発電所、第3発電所、大和谷発電所、三瀬谷発電所及び、宮川ダム維持放流自家発電設備の発電施設により、総最大使用水量100.5m³/sを利用し、総最大出力86,820kwを開発し、その電力は南勢地区の重要な電力源として供給されている。

次いで、農業用水の割合が高く、多気郡大台町に設置されている粟生頭首工において最大10.438m³/sを取水し、宮川周辺の1市4町（伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町）に広がる耕地約4,600haに国営事業宮川用水（昭和41年（1966年）完成）として、灌漑している。宮川水系における農業用水は、ほかに138件あるがその規模は小さく、農業用水のほとんどが宮川用水に集約されている。

そのほか水道用水として、0.007m³/sを大台町に給水している。

表 5-1 宮川水系の水利用状況

種別	法	件数	最大取水量 (m ³ /s)	備考
発電用水	許	7	100.500	
水道用水	許	1	0.007	
農業用水	許	16	11.765	かんがい面積 約 6,400ha ※慣行水利のうち、取水量の届出のないものを上段、届出があるものを下段に記載した
	慣	100	-	
	慣	23	7.259	
その他	許	4	0.075	砂利洗浄用水、養魚用水
合計	許	28	112.347	
	慣	123	7.259	
	計	151	119.606	

許：河川法第23条の許可を得たもの

慣：河川法施行前から存在する慣行水利

出典

許可水利権：

水利一覧（三重河川国道事務所）R7.4.1 現在
許可水利台帳（三重県）R7.4.1 現在

慣行水利権：

慣行水利台帳（三重県）R7.4.1

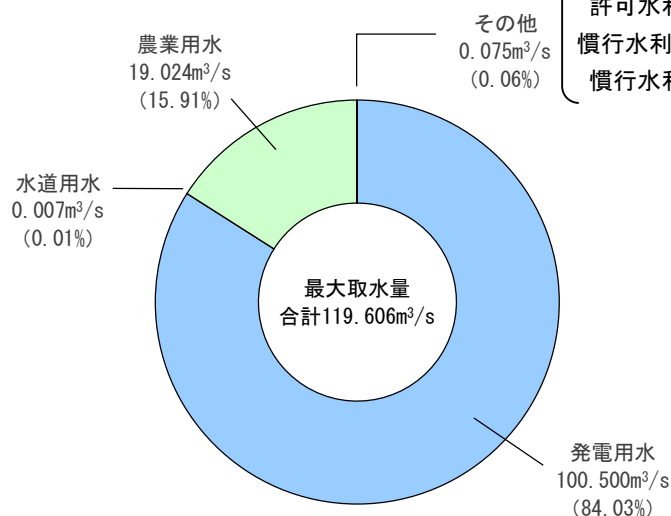
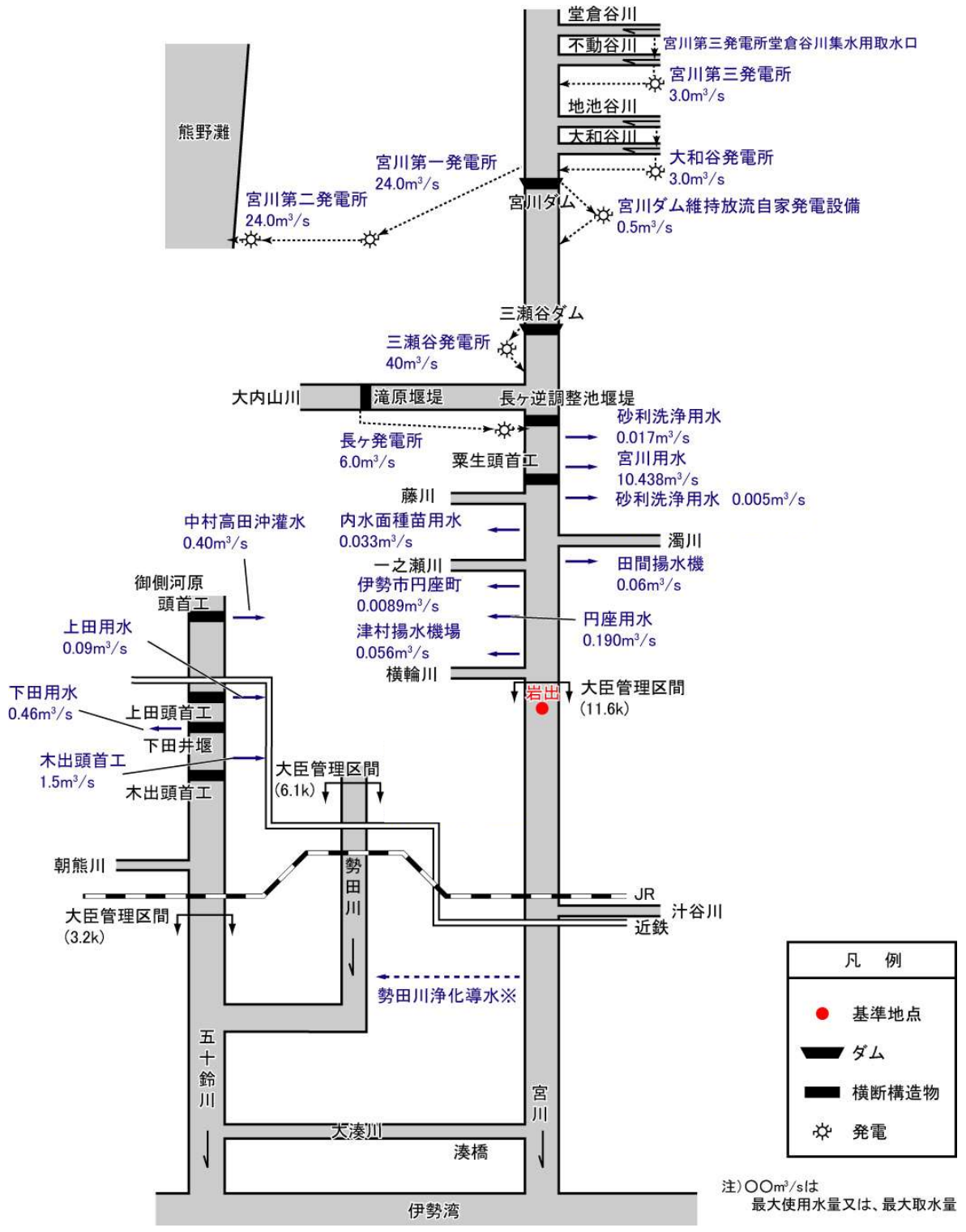


図 5-1 宮川水系の水利用の割合



※ 勢田川浄化導水は、河川管理行為として実施

図 5-2 宮川水系 水利使用模式図 (主な水利権を記載)

5.2. 渇水被害の概要

宮川水系では、平成17年（2005年）、平成19年（2007年）、平成23年（2011年）、平成25年（2013年）、平成29年（2017年）、平成31年（令和元年）（2019年）と度々、渇水に見舞われ、取水制限や宮川ダムの発電容量の一部の農業用水への融通等の渇水調整、節水対策を実施している。

各渇水における取水制限の実施状況は下表に示すとおりである。

表 5-2 過去の取水制限状況（宮川水系）

取水制限期間等	日数	最大取水制限率等（％）		
		上水	工水	農水
H17. 5. 18～H17. 8. 22	97	10	-	45
H19. 4. 27～H19. 7. 17	82	自主	-	45
H23. 4. 26～H23. 7. 25	91	自主	-	40
H25. 5. 31～H25. 8. 27	89	自主	-	40
H29. 6. 22～H29. 8. 9	49	自主	-	35
H31. 4. 26～R1. 6. 11	47	自主	-	35

出典：過去の取水制限状況について（R3. 03. 22, 中部地方整備局）から宮川水系を抜粋。

※H17年の日数については「平成17年度 全国の渇水（取水制限等）状況

（平成18年3月, 国土交通省）」では終了日がH17. 8. 23で98日となっているが、8. 23から制限解除のため、表中の日数とした。

※H29はかんがい容量の貯水率0%で発電容量から融通を実施。

5.3. 水需要の動向

令和7年（2025年）現在、農業用水、水道用水、工業用水ともに新規の水利使用計画はなく、新たな水需要の増加は見込まれていない。

(1) 農業用水（かんがい用水）

宮川における農業用水のための取水は、大部分を宮川用水が占めている。

宮川用水は昭和32年度（1957年度）に国営事業として着工、宮川からの取水を可能とし、農業生産の安定と生産力の向上が図られた。農営形態の変化、施設の老朽化等を受け、国営宮川用水第二期土地改良事業が平成7年度（1995年度）から平成24年度（2012年度）まで実施された。

現在、宮川水系からの新たな水利使用計画はない。

表 5-3 宮川用水事業の概要

水源	一級河川宮川水系宮川(粟生頭首工)
最大使用水量	かんがい期 10.438m ³ /s 非かんがい期 1.501m ³ /s
かんがい面積	4,616ha
給水対象	伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町(1市4町)
事業年度	第一期:昭和32年度(1957年度)～昭和41年度(1965年度) 第二期:平成7年度(1995年度)～平成24年度(2012年度)

出典:宮川用水土地改良区、水利一覧（三重河川国道事務所）R7.4.1現在

(2) 水道用水

水道用水については、大台町の簡易水道で0.007m³/sが供給されている。人口が集中し水需要の大きい下流部では、地下水などの独自水源を持つほか、櫛田川の蓮ダムを水源とする南勢志摩水道用水供給事業からも、供給が行われている。

現在、宮川水系からの新たな水利使用計画はない。

表 5-4 南勢志摩水道用水供給事業の概要

	南勢系	志摩系
事業認可年月日	創設)昭和52年10月20日	創設)昭和40年3月20日
	1拵)昭和59年3月31日	1拵)昭和48年3月31日
	2拵)平成元年3月31日 (南勢志摩水道用水供給事業に名称変更及び志摩系2拵)	
	3拵)平成10年10月30日(南勢系拡張)	
	届出)平成23年3月24日(拡張及び志摩系施設譲渡)	
計画目標年次	令和2年度	
計画給水人口	404,369人	
計画施設能力	139,850 m ³ /日	
現在施設能力	139,850 m ³ /日	
水源	櫛田川水系櫛田川(蓮ダム)	
給水対象市町数	9(4市5町)	
給水対象市町名	伊勢市 松阪市 鳥羽市 志摩市 多気町 明和町 大台町 玉城町 度会町	

出典:三重県企業庁

6. 河川流況と水質

6.1. 河川流況

岩出地点における実績流況は表 6-1 に示すとおりであり、昭和 51 年（1976 年）～令和 5 年（2023 年）までの 48 年間（欠測年 2 カ年を除く）の平均で、低水流量は約 9.41m³/s、渇水流量は約 5.06m³/s となっている。

表 6-1 岩出地点における流況

西暦	和暦	豊水 (m ³ /s)	平水 (m ³ /s)	低水 (m ³ /s)	渇水 (m ³ /s)	最小流量 (m ³ /s)	年平均 (m ³ /s)	年総量 (百万m ³)
1976	S51	45.57	27.37	17.43	11.77	8.54	66.24	2094.65
1977	S52	40.36	15.88	7.59	3.88	2.64	51.02	1609.03
1978	S53	27.72	12.46	9.09	5.05	3.14	25.68	809.99
1979	S54	33.01	17.42	10.55	6.50	5.30	57.28	1806.52
1980	S55	26.78	16.06	12.46	8.27	6.59	34.58	1093.38
1981	S56	27.90	15.03	8.66	4.15	3.68	27.63	871.49
1982	S57	44.60	19.30	8.93	3.51	3.02	62.32	1965.35
1983	S58	33.26	13.88	8.17	4.86	3.19	34.96	1102.34
1984	S59	27.94	11.96	7.23	2.48	2.00	38.85	1228.60
1985	S60	43.74	17.27	9.91	4.83	3.19	51.95	1638.35
1986	S61	26.73	10.45	4.06	1.46	0.65	25.80	813.72
1987	S62	15.05	8.46	5.60	3.93	3.43	21.16	667.22
1988	S63	37.55	10.39	4.40	2.42	1.10	49.62	1569.22
1989	H1	53.39	20.66	10.44	3.75	2.91	68.13	2089.72
1990	H2	38.48	19.44	9.94	3.25	2.90	63.83	2007.38
1991	H3	47.48	21.97	11.63	5.54	2.58	55.40	1747.16
1992	H4	42.83	20.14	11.42	4.29	2.27	50.45	1595.44
1993	H5	39.96	16.58	8.56	3.50	1.76	53.76	1695.52
1994	H6	23.71	11.68	7.20	2.82	1.76	36.11	1138.74
1995	H7	25.82	11.38	6.03	2.18	1.67	41.33	1303.40
1996	H8	19.42	11.09	5.39	2.18	1.42	18.03	570.00
1997	H9	22.08	9.28	5.73	2.05	1.74	48.88	1541.60
1998	H10	76.82	21.05	9.61	5.33	3.50	82.41	2599.01
1999	H11	33.69	14.33	5.98	3.01	欠測	50.29	1581.67
2000	H12	22.49	10.13	6.19	3.98	3.61	36.32	1148.57
2001	H13	33.04	14.93	8.41	2.78	2.08	47.86	1509.32
2002	H14	29.82	12.15	9.80	4.73	3.76	38.43	1212.08
2003	H15	33.92	19.74	14.34	9.91	8.29	44.40	1400.28
2004	H16	52.85	18.74	9.90	8.16	7.36	88.07	2784.92
2005	H17	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
2006	H18	46.95	21.87	11.31	5.74	欠測	42.87	1351.96
2007	H19	30.14	25.50	18.29	14.75	欠測	24.79	777.65
2008	H20	53.01	20.27	10.02	4.52	欠測	49.24	1548.66
2009	H21	41.43	21.29	13.50	8.74	7.94	50.89	1604.71
2010	H22	53.96	23.76	13.24	6.87	4.54	47.64	1502.52
2011	H23	111.31	67.32	7.63	4.67	3.17	124.62	3929.98
2012	H24	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
2013	H25	23.10	10.50	5.88	2.13	1.74	35.42	1117.16
2014	H26	32.13	16.76	10.36	6.54	5.41	44.35	1398.63
2015	H27	30.36	18.82	14.61	4.48	1.42	47.82	1508.05
2016	H28	35.68	17.63	13.12	8.47	7.35	31.62	999.99
2017	H29	17.75	11.39	10.27	7.68	5.03	39.04	1231.16
2018	H30	33.23	16.57	10.89	6.61	欠測	48.25	1488.18
2019	R1	35.99	13.73	6.59	3.69	3.13	47.78	1506.78
2020	R2	37.99	14.31	7.48	5.25	4.87	41.99	1327.94
2021	R3	40.73	21.01	10.68	4.75	4.45	41.29	1302.26
2022	R4	34.21	13.85	7.80	4.26	3.24	32.67	1030.39
2023	R5	28.91	11.41	6.50	2.94	1.57	48.41	1526.69
昭和51年 ～令和5年 ※欠測年除く	最大	111.31	67.32	18.29	14.75	8.54	124.62	3929.98
	最小	15.05	8.46	4.06	1.46	0.65	18.03	570.00
	平均	37.24	17.29	9.41	5.06	3.61	47.16	1485.81
46カ年第5位		22.49	10.45	5.73	2.18	-	25.80	813.72

【出典】1976 年～2004 年：流量年表（国土交通省河川局編 日本河川協会）

2005 年～2023 年：水文水質データベース（国土交通省）

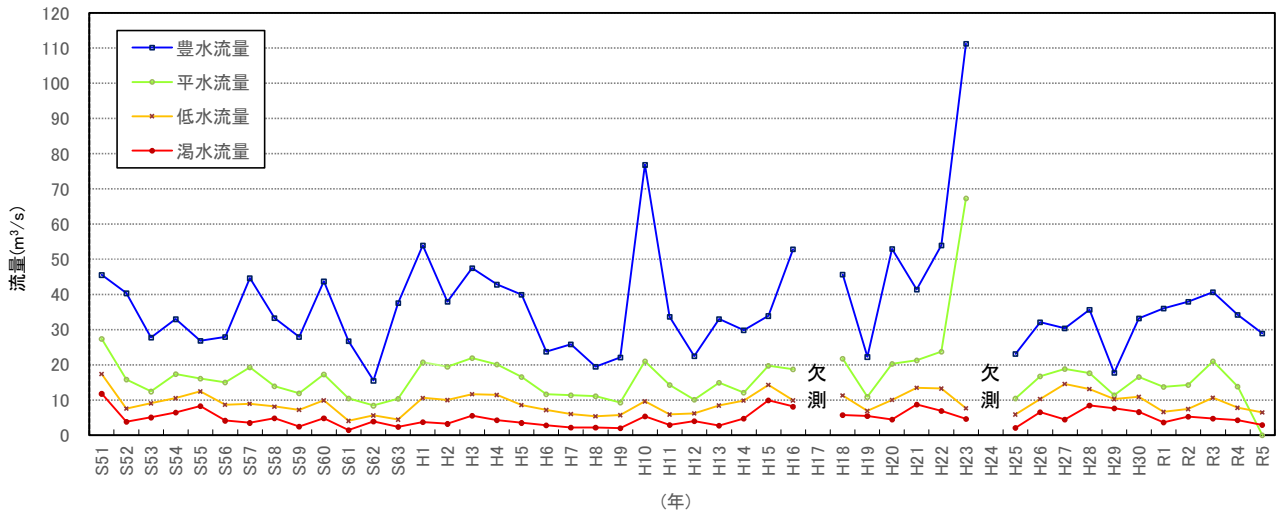


图 6-1 岩出地点流量变化 (豊水流量・平水流量・低水流量・渇水流量)

6.2. 河川水質

(1) 水質の環境基準値

宮川の環境基準類型指定は、昭和48年（1973年）に上流・下流ともにAA類型に指定された。支川は、勢田川の全域が昭和48年（1973年）にC類型に指定、五十鈴川は昭和49年（1974年）に上流がAA類型、下流がA類型に指定された。その後、一之瀬川、濁川、大内山川、藤川、横輪川の全域がAA類型に指定されている。

表 6-2 類型指定一覧表

水域名	地点名	類型及び達成期間		指定年月日
宮川上流	船木橋	AA	直ちに達成する	S48.3.23
宮川下流	度会橋	AA	直ちに達成する	H10.3.31
勢田川（全域）	勢田大橋	C	5年を越える期間で可及的速やかに達成する	S48.3.23
五十鈴川上流	宇治橋	AA	直ちに達成する	S49.5.10
五十鈴川下流	掘割橋	A	直ちに達成する	S49.5.10
一之瀬川（全域）	飛瀬浦橋	AA	直ちに達成する	H8.3.29
濁川（全域）	柳原橋	AA	直ちに達成する	H12.3.31
大内山川（全域）	滝辺橋	AA	直ちに達成する	H13.4.6
藤川（全域）	野添橋	AA	直ちに達成する	H14.4.12
横輪川（全域）	馬淵橋	AA	直ちに達成する	H15.7.25



図 6-2 宮川環境基準類型指定水域の範囲

(2) 水質の現状

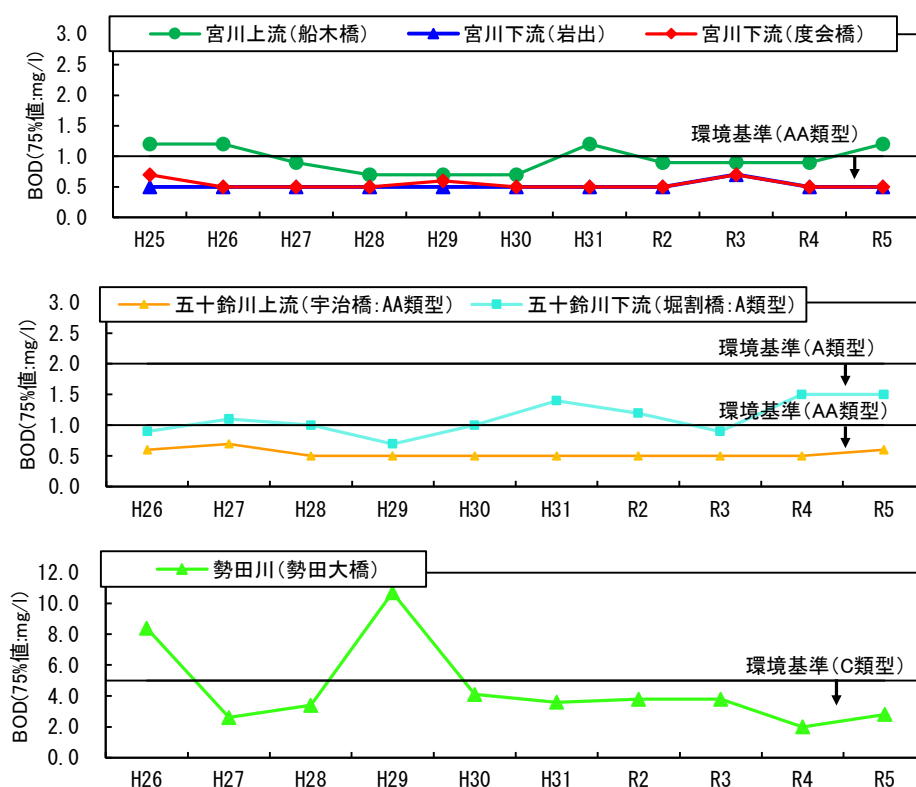
主要な環境基準地点の水質を示す。これより、宮川の特徴を整理すると以下のとおりである。

宮川本川及び五十鈴川では各地点の水質は年変動が見られるものの、概ね環境基準を満たしている。勢田川では、平成 29 年（2017 年）までは環境基準を超える年も見られたが、近年は水質改善が進み、環境基準を満たしている。

なお、宮川本川は水質調査結果から平成 27 年（2015 年）、平成 28 年（2016 年）、平成 30 年（2018 年）、令和元年（2019 年）、令和 2 年（2020 年）、令和 5 年（2023 年）に『水質が最も良好な河川』※となっている。

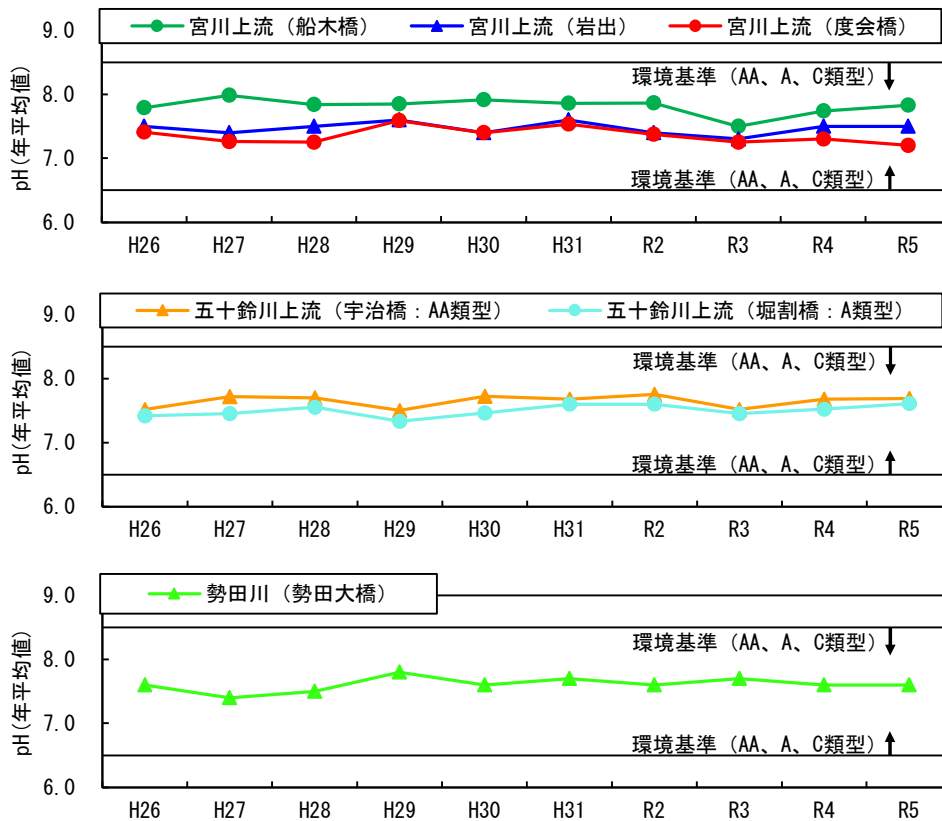
※出典：令和 5 年全国一級河川の水質現況「水質が最も良好な河川」とは対象河川である 160 河川のうち、以下の両方を満たす河川である。

- ・ 対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ
- ・ 対象河川の各調査地点の BOD75% 値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ



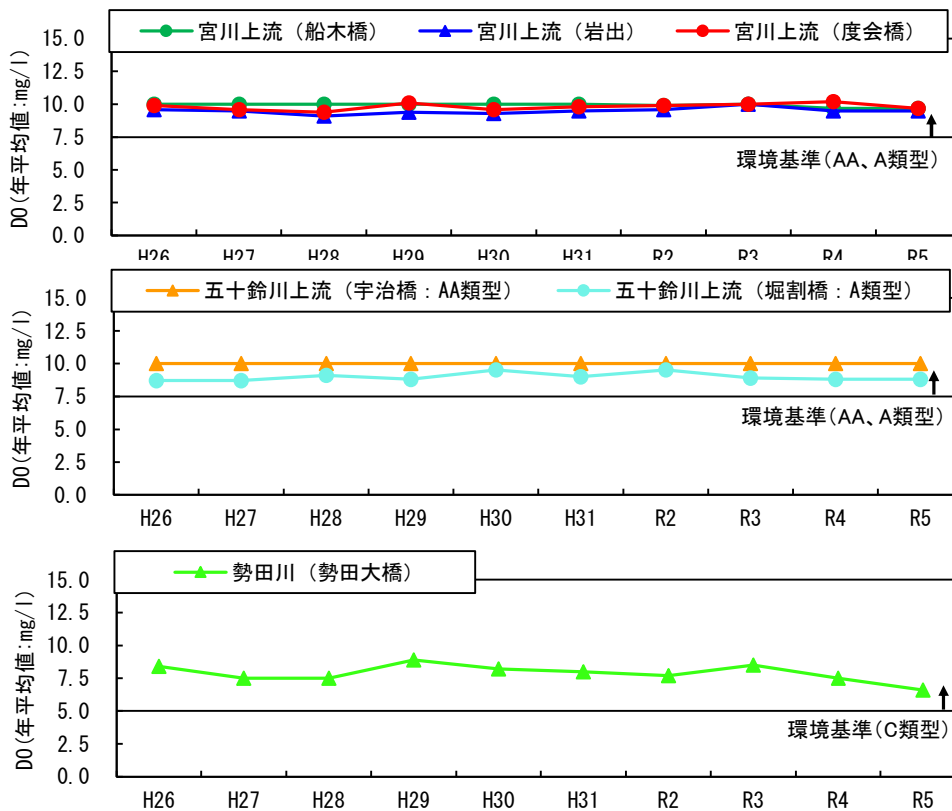
BOD(生物化学的酸素要求量)...水中の比較的分解されやすい有機物が、微生物によって分解される際に消費される酸素の量。この値が小さいほど水質がきれいだと判断される。
75%値... n 個の値を水質のよいものから並べたとき、0.75×n 番目に来る値。0.75×n が正数でない場合は小数点以下を切り上げた正数番目の値となる。仮に年間 12 回の BOD 測定値ならば、少ないものから 9 番目の値となる。

図 6-3 宮川水質経年変化 (BOD)



pH…pHとは水の酸性とアルカリ性の度合いを示す度合いであり、中性はpH7で、7より小さいものは酸性、大きいものはアルカリ性である。

図 6-4 宮川水質経年変化 (pH)



DO…DOとは水中に溶解している酸素のことで、河川や海域での自浄作用や、魚類をはじめとする水生生物の生活には不可欠なものである。

図 6-5 宮川水質経年変化 (DO)

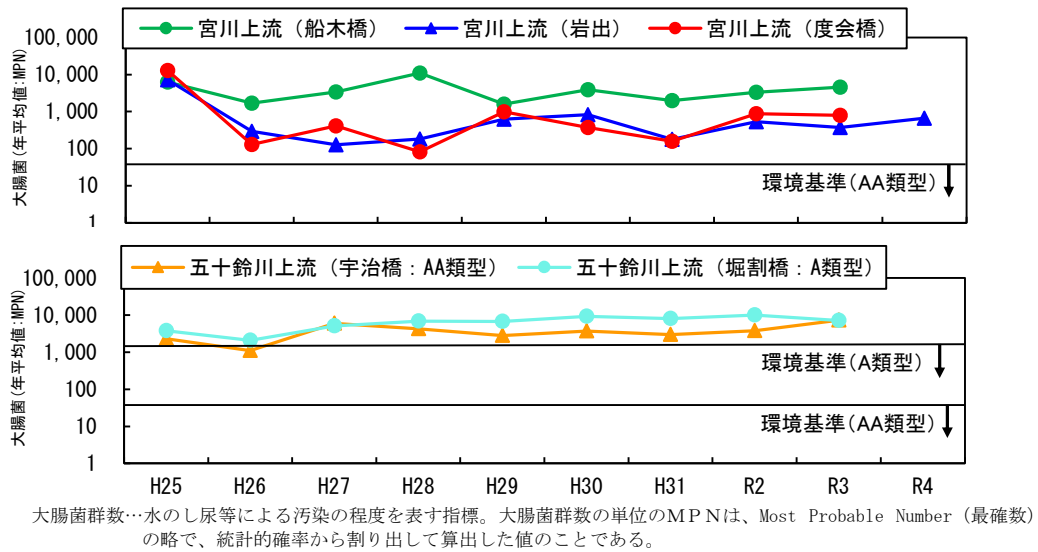


図 6-6 宮川水質経年変化 (大腸菌群数)

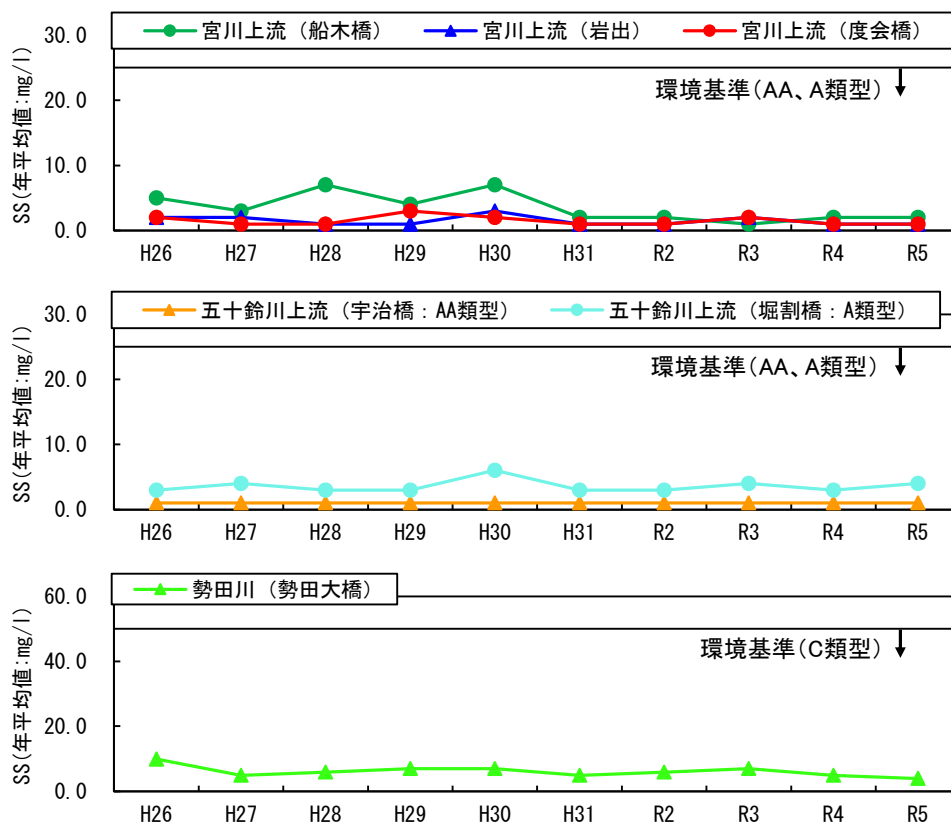
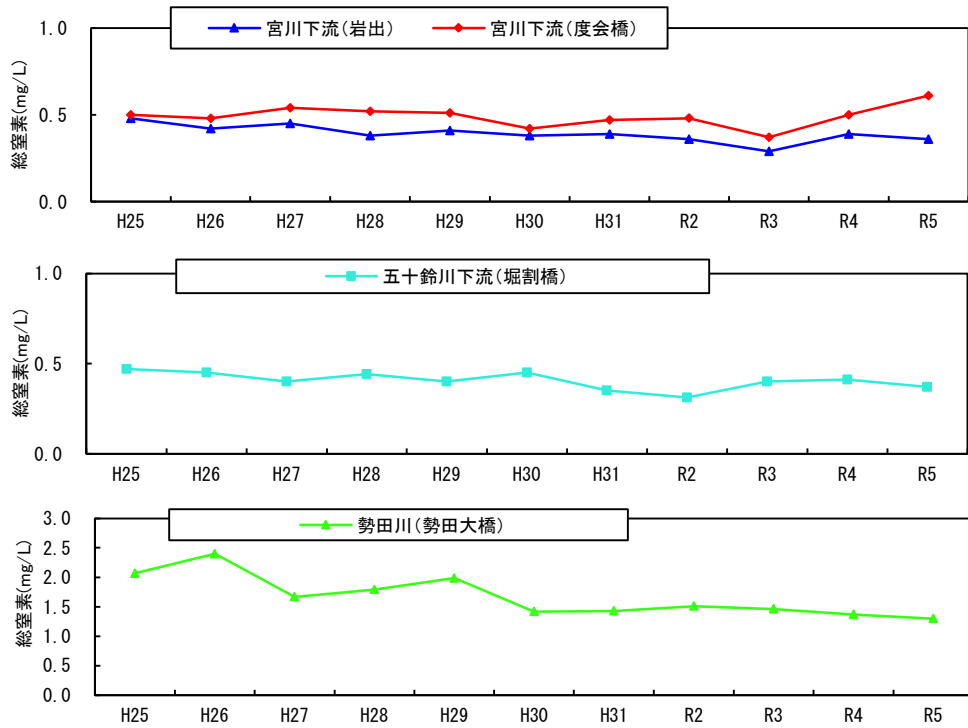
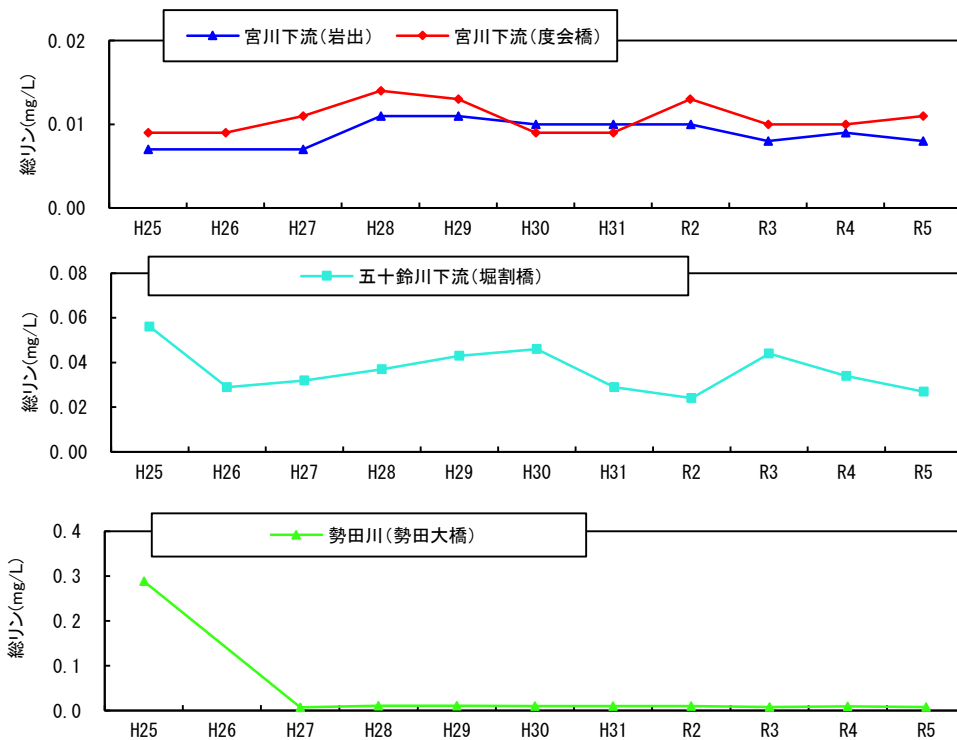


図 6-7 宮川水質経年変化 (SS)



※宮川上流、五十鈴川上流は総窒素のデータなし
 総窒素…水中の窒素の総量であり、アンモニウム態窒素等の無機態窒素と有機態窒素の合計としても表される。富栄養化の指標としてよく使われる。

図 6-8 宮川水質経年変化（総窒素）



※宮川上流、五十鈴川上流は総リンのデータなし
 総リン…水中のリンの総量であり、全てのリン化合物を酸化剤で分解して定量したもの。富栄養化の指標としてよく使われる。

図 6-9 宮川水質経年変化（総リン）

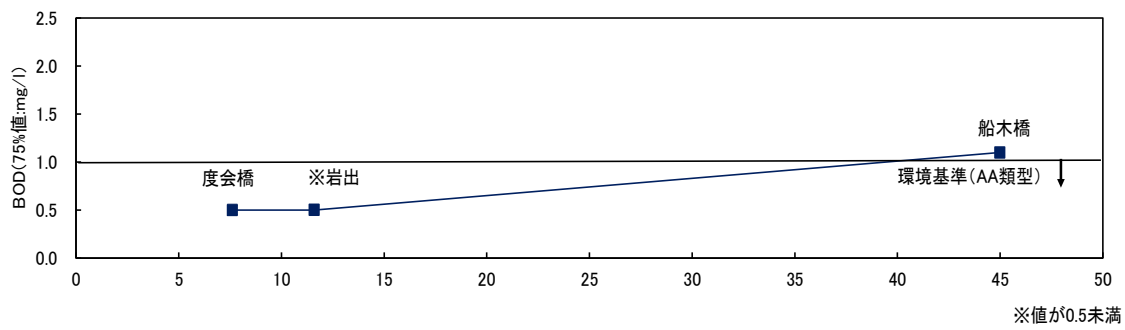


図 6-10 宮川水質縦断変化 BOD75%値 (R5 年)

表 6-3 宮川ダム貯水池内の水質 (年平均)

項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
水温(°C)	15.8	16.1	17.3	15.9	16.2	14.7	16.4	16.1	16.1	16.9
DO(mg/l)	9.8	9.5	9	9.8	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.3
濁度(度)	5.2	1.5	2.1	1.9	3	2.5	1.8	2.3	2.3	2.2
pH	7.2	7.4	7.9	7.5	7.7	7.5	7.7	7.7	7.7	7.5
SS(mg/l)	3.9	1.7	6.1	1.7	2.7	2.2	1.4	2.5	2.5	1.4
COD(mg/l)	1.7	1.5	3.3	1.7	1.9	2.1	1.8	2.3	2.3	1.9
BOD(mg/l)	0.9	1.1	2.6	0.9	1	0.8	1.1	1.2	1.2	0.9
大腸菌(MPN)	2550	501	14	1382	2595	681	303	1417	1513	60
総窒素(mg/l)	0.24	0.2	0.21	0.18	0.15	0.18	0.14	0.18	0.18	0.16
総リン(mg/l)	0.01	0.01	0.014	0.008	0.01	0.008	0.007	0.007	0.007	0.009
クロロフィル a (μg/l)	9.6	3.0	4.5	4.2	0.0	5.8	5.6	5.0	5.0	4.0

7. 河川空間の利用状況

7.1. 河川敷の利用状況

① 高水敷の利用状況

宮川における河川敷の利用施設は、下流では公園が最も多い。また高水敷の広い宮川大橋付近の4.0～6.0kでは運動場として野球やサッカーに利用されている。その他に河口部ではプレジャーボート、上流の大台町ではキャンプ等に利用されている。

勢田川における河川敷の利用は、河崎の古い町並みを利用した観光利用（遊歩道整備・川の駅、海の駅整備）が主体となっている。

五十鈴川は中流域が伊勢神宮内宮を流れることから、宇治橋周辺を中心に観光名所となっている。

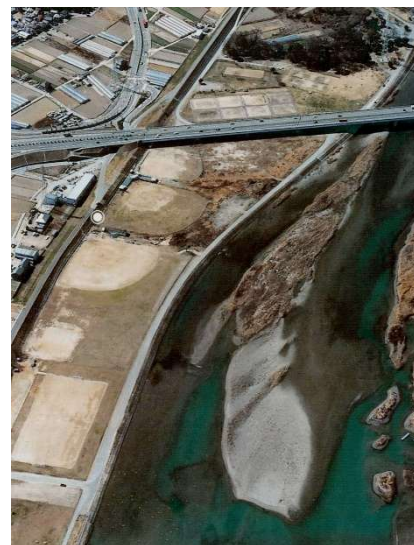
表 7-1 大臣管理区間の河川利用施設の状況

河川名	距離標(k)	左右岸	施設名	種類	施設面積(m ²)	管理者名	一般利用
宮川	3.2～3.8	右岸	御園ラブリバー公園	公園	93,370	伊勢市	可
	4	右岸	宮川桜つづみ	公園	8,230	伊勢市	可
	6.2	右岸	桜の渡し記念公園	公園	87	伊勢市	可
	6	左岸	親水公園	公園	48,820	伊勢市	可
	6.6～7.4	右岸	宮川堤公園	公園	64,044	伊勢市	可
	4.0	右岸	伊勢市総合運動場	運動場	28,779	伊勢市	可
	6.0	右岸	宮川スポーツランド	運動場	1,661	伊勢市	可
	6.2	右岸	船揚場	その他	698	宮川漁協	不可
	6.6	右岸	通路兼広場	その他	320	度会郡町村老人福祉施設組合	可
	9.8～10.4	左岸	採草地	その他	48,301	玉城町	不可
10.0～10.2	左岸	臨時ヘリポート	その他	3,500	陸上自衛隊	不可	
勢田川	0.8	右岸	都市公園・一色公園	公園	10,234	伊勢市	可
	1.5～2.0	右岸	浜郷小学校記念公園	公園	1,050	伊勢市	可
	5.2	左岸	小田橋記念公園	公園	82	伊勢市	可
	5.2	右岸	都市公園・橋詰公園	公園	178	伊勢市	可
	5.8	左岸	緑地	公園	248	伊勢市	可
	5.6	左岸	駐車場	駐車場	967	三重県	可



4.0～6.0kの運動場

28.8haの広い面積をもつ運動場では野球やサッカーの練習場に利用されている。



宮川大橋付近のグラウンド

② 年間利用状況

令和6年度(2024年度)に実施された「河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)」における直轄管理区間での宮川河川空間利用者数(推定)は、約15.9万人となっており、流域内人口からみた1人当たりの年間利用回数は約0.94回となっている。

利用別形態では、散策等が60%と最も多く、次いでスポーツが33%、釣りが4%、水遊びが3%である。近年は高水敷における散策・スポーツ利用の比率が多くなっている。

表 7-2 宮川の河川空間利用状況

区分	項目	年間推計(千人)		利用状況の割合	
		令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
利用形態別	釣り	4	6		
	水遊び	4	5		
	スポーツ	47	53		
	散策等	199	95		
	合計	254	159		
利用場所別	水面	2	2		
	水際	6	8		
	高水敷	131	109		
	堤防	115	40		
	合計	254	159		



宮川 6.0~7.0k (宮川堤公園)

64ha と最も広い面積を有している宮川堤公園は、名勝に指定されており、春は桜の名所として知られる他、夏の花火大会において多くの人が訪れる。



宮川 7.0~8.0k 右岸

ゲートボール大会等に利用されている。

7.2. 河川の利用状況

宮川源流部・上流部の大台町にかかる区間は、大杉谷や数多くの滝に代表される渓谷美を楽しむ景勝地として、また、釣り場やキャンプ場として利用されている。支川大内山川には景勝地である大滝峡と一帯となった青少年旅行村があり、キャンプ等に利用されている。

三瀬谷ダムは漕艇場を有し、カヌー競技会が開催される他、釣り場としても利用されている。



アユ釣り

6月から8月にかけてはアユ釣りの人々で賑わう。



宮川上流 滝谷の渓谷美

切り立った崖と透き通った水の流れが清涼感を生み出す。



宮川上流 キャンプ指定地域

旧宮川村（現大台町）内では宮川の河原でのキャンプ地が指定されている。



大内山川 大滝峡

滝原ダム下流に存在し、キャンプ場が隣接する。



三瀬谷ダム

漕艇場を有し国体のカヌー競技が行われたこともあるほか釣り場としても近傍から多くの釣り人が利用する。

中流部では、丘陵地の緑を背景に広大な礫河原でのバーベキューや水遊び場に利用され、その他釣りやカヌーといったレジャー・スポーツでの利用も盛んである。



度会リバーパーク

休日には家族連れが多く、河原での水遊びやバーベキューに利用されている。



カヌー利用

度会リバーパークの周辺はカヌーの発着地点として有名であり、カヌースクールやカヌーツーリングが行われている。

下流部の直轄区間は、広い高水敷を利用した公園、緑地等の施設利用が主体となっており、サッカーや野球、テニスといった利用が主である。名勝指定されている宮川堤周辺では春の花見や夏の花火大会に多くの人を訪れる。

伊勢市では、平成 21 年（2009 年）に策定された「伊勢地区かわまちづくり」計画に基づき、伊勢神宮をはじめとした周辺の歴史文化資源との連携を図り、地域の魅力の向上と活力ある都市空間の形成を図るため、宮川及び勢田川において散策路や高水敷の整備が行われた。

令和元年（2019 年）には、玉城町の宮川河川敷において「たまき水辺の楽校」が整備され、自然体験の場だけでなく、キャンプやイベントの場としても利用されている。このため、令和 5 年（2023 年）に「玉城町かわまちづくり計画」が新規登録され、川とまちが融合した魅力的なかわまちづくりを目指していくこととしている。



宮川大橋下流のスポーツ広場

サッカー、野球をはじめさまざまなスポーツに利用されている。



宮川堤の花見

宮川堤は桜の名所として知られ、春の訪れとともに花見客で賑わいをみせる。



水辺の楽校におけるキャンプ利用
水辺の楽校として整備された空間は、オートキャンプ場として利用され、にぎわいを見せている。



河口部の砂浜
ふるさと海岸モデル事業により整備され、青松白砂の海岸では、潮干狩り等に利用される。

下流部の支川利用は歴史文化色が強く、勢田川では歴史的まちなみと一体となった利用や整備がすすめられている。五十鈴川は古くから伊勢神宮の禊の川として利用され、神宮の祭事に深いかわりがある。



勢田川 観光船
木造船みずき
かつての船参宮を再現し、大湊から勢田川に整備された川の駅を結ぶ観光船で、休日には観光客の足として利用されている。なお、2021年から「みずきⅡ世」に代わった。



勢田川 河崎の歴史的まちなみ
川沿いに残る江戸時代の建物を活かし、遊歩道と川の駅の整備が行われている。



五十鈴川 伊勢神宮（内宮）の御手洗場
五十鈴川は伊勢神宮の禊場であり、内宮への参拝前には手と口をゆすぎ清めてから参拝する。



五十鈴川 遷宮の川曳き
20年に一度の式年遷宮のお木曳きでは、御用材は五十鈴川を川曳きにより運搬される。

8. 河道特性

8.1. 河道特性

宮川は、三重県の南部に位置し、その源を奈良県吉野郡と三重県多気郡の県境に位置する日出ヶ岳（標高1,695m）に発し、大杉溪谷を貫流し、大内山川等の諸支川を合わせ伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長91km、流域面積920km²の一級河川である。

令和2年（2020年）5月測量結果に基づく最深河床高を整理すると、河口～1.5kmは逆勾配であり、5kより上流は交互砂州に伴う淵の部分 deepest 河床となっている。

下流部は、レベルから1/1,000程度の緩勾配であり、中流部は1/1,000～1/800程度となっている。上流部は横断施設が連続し1/800～1/200であり、源流部は谷区間がつづき1/200以上の急勾配となっている。

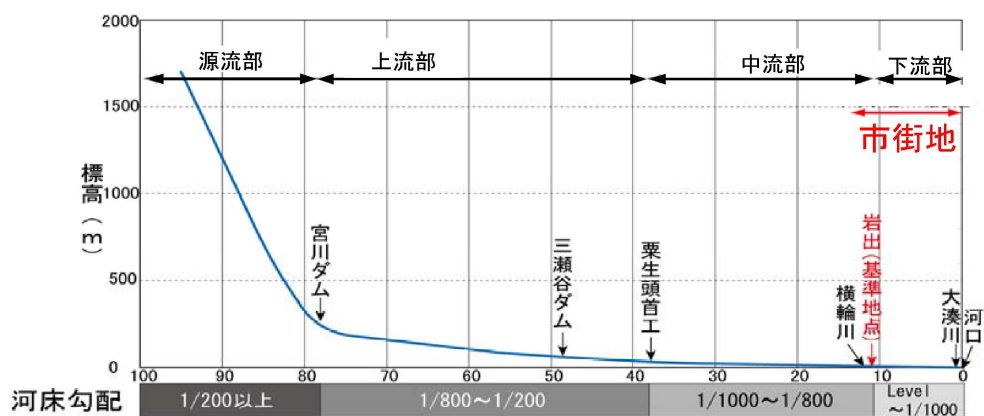


図 8-1 宮川縦断面図（大臣管理区間）

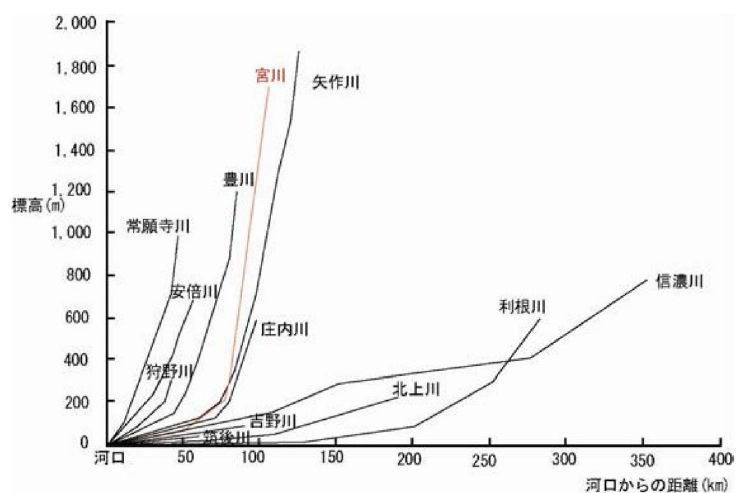
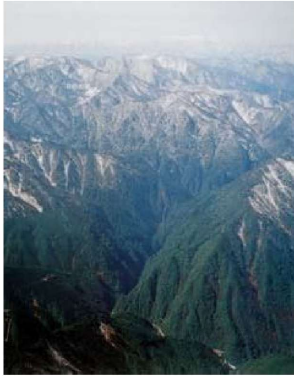


図 8-2 宮川と他河川の縦断特性の比較



宮川源流（大杉谷）

宮川ダム上流の大杉谷は、水源地である日出ヶ岳（標高1,695m）から急峻な溪谷を蛇行しながら流下する。



宮川本川上流（70k 付近）

70k 付近は侵食によって形成された切り立った地を流下し滝谷・檜谷の崖地には、貴重な川岸植物群落が形成されている。



宮川本川中流（26～27k 付近）

丘陵地や台地を流下するこの区間では、河岸段丘面上は宅地や茶畑に利用され、河岸部には連続した河畔林が形成されている。河道内には瀬や淵がみられる。



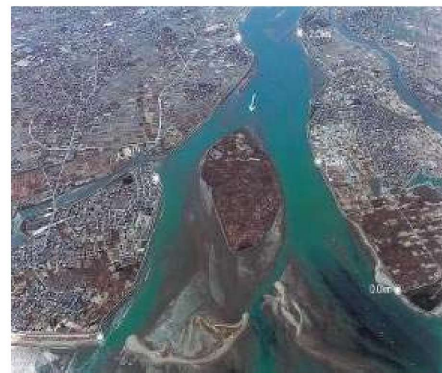
宮川本川中流（17k 付近）

広大な礫河原と瀬と淵が連続して存在し河岸斜面の山付き部は森林環境が維持されている。



宮川本川下流（9～10k 付近）

平野部を流下するこの区間では、河畔林が点在し礫河原が形成されている。規模の大きなたまりやワンドには、タナゴ等をはじめ止水環境を好む種が多く生息している。



宮川本川河口（0km 付近）

河口部（0.5～1.5k）には、かつて複数の流路に分派していたことを物語る特徴的な中州がある。0k 付近に形成されている干潟は、シギ・チドリ類の生息地となっている。

8.2. 河床変動の経年変化

宮川では、経年的な砂利採取や床上浸水対策特別緊急事業による河道掘削等が実施されており、それによる河床低下が見られるものの、全体的には安定傾向である。

五十鈴川では、経年的な河床上昇が見られるものの、流下能力は十分に確保されており、治水上支障とはなっていない。

勢田川では、全区間で河道掘削が実施されており、それによる河床変動が見られるものの、治水面や環境面等において課題となる著しい変化は見られない。

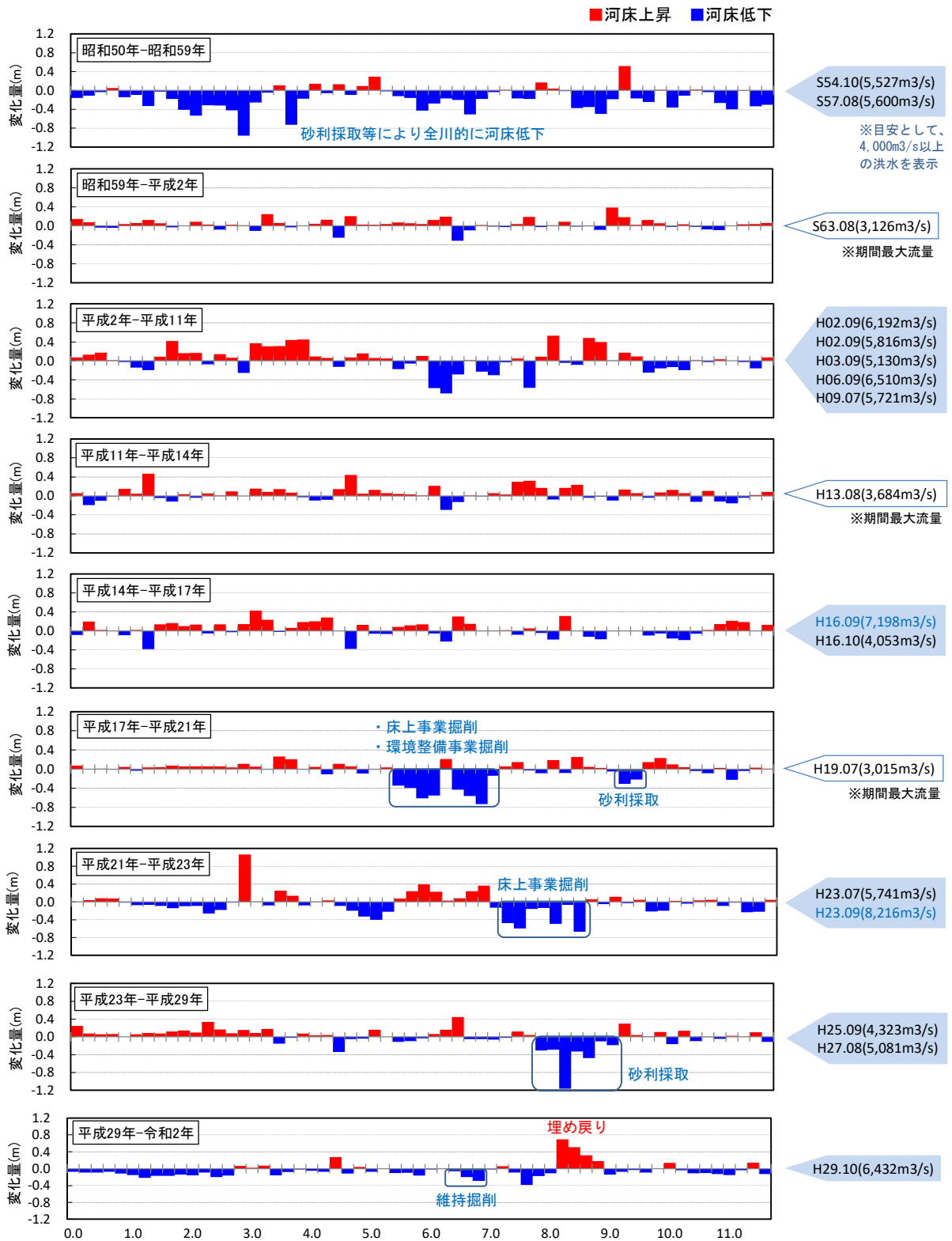


図 8-3 宮川 河床変動量の経年変化

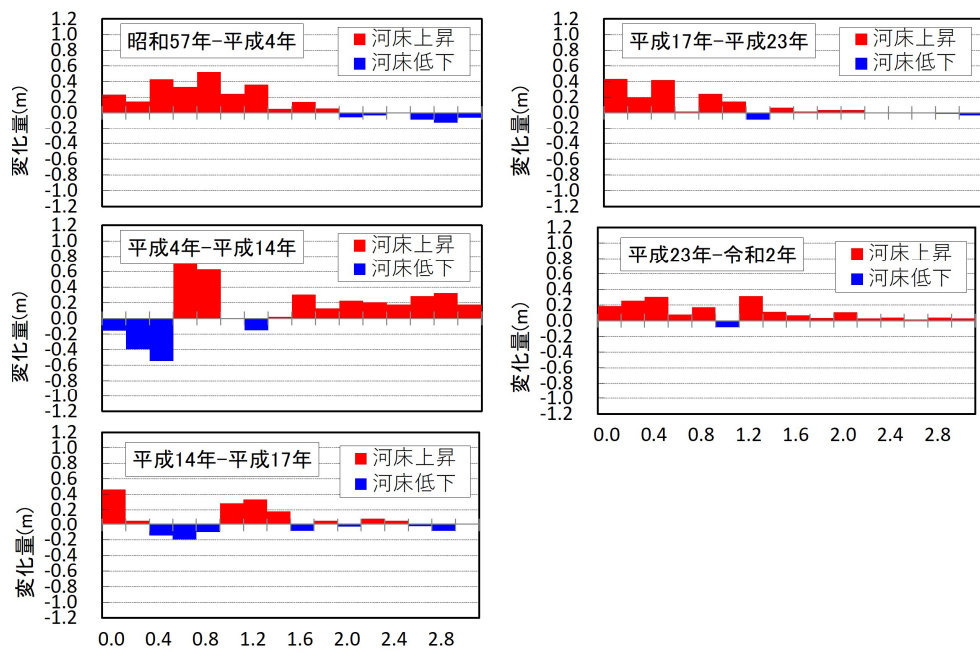


図 8-4 五十鈴川 河床変動量の経年変化

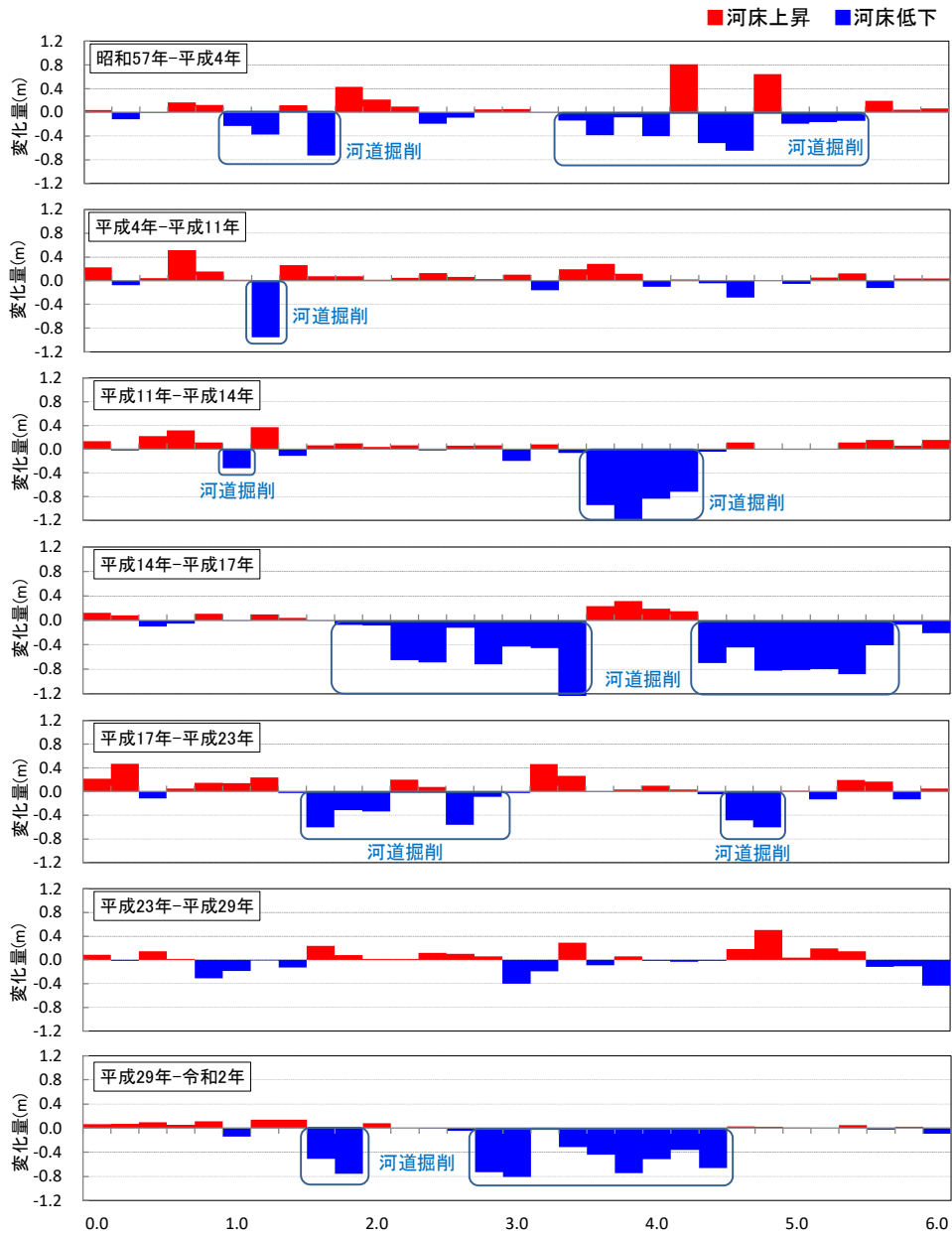


図 8-5 勢田川 河床変動量の経年変化

9. 河川管理の現状

宮川においては、洪水や高潮等による災害の発生を防止し、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から日々の河川管理を行っている。

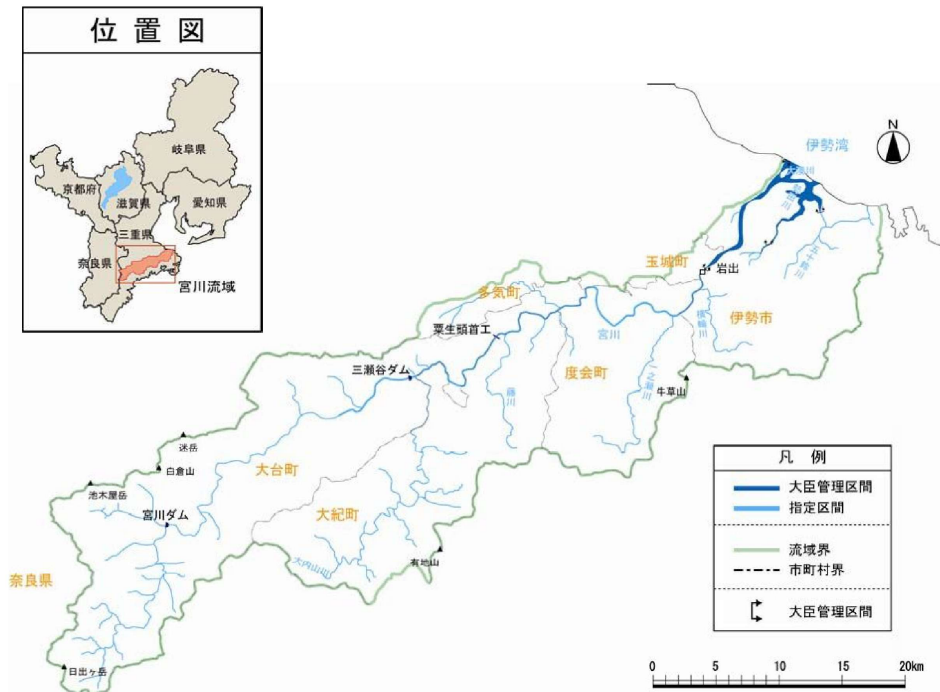


図 9-1 宮川管理区間概要図

表 9-1 管理区間延長

管理者	河川名 (区間)	管理区間延長 (km)
国土交通省	宮川 (0.0~11.6km)	11.6
	五十鈴川 (0.0~3.2km)	3.2
	勢田川 (0.0~6.1km)	6.1
	大湊川 (0.0~1.7km)	1.7
	大臣管理区間合計	22.6
三重県	指定区間合計 (54河川)	282.7
合計 (55河川)		305.3

9.1. 河川区域の現状

大臣管理区間の河川区域面積は以下のとおりであり、全体の約14.1%が民有地である。高水敷のうち約40.8%（93.9ha）が官有地となっており、広い面積を有する場所にはグラウンドの整備が成され、沿川住民のレクリエーションの場として利用されている。

表 9-2 大臣管理区間の管理区域面積（単位：ha）

	低水路（1号地）		堤防敷（2号地）		高水敷（3号地）		計	
	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地
管理区域面積	541.6	4.0	215.6	0.0	93.9	136.1	851.1	140.1
計	545.6		215.6		230.0		991.2	

令和6年4月時点



宮川右岸 5.5k 付近の野球グラウンド



宮川右岸 7.5k 付近利用状況（ゲートボール）

図 9-2 高水敷の利用状況

9.2. 河川管理施設の現状

宮川の直轄管理区間における河川管理施設は、堤防護岸等の他、水門2ヶ所、樋門・樋管7ヶ所、揚排水機場3ヶ所等があり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川の巡視、点検を行っている。

表 9-3 堤防整備状況（大臣管理区間）

項目	完成	暫定 (暫々定含む)	堤防 必要区間	堤防 不要区間	合計
延長(km)	31.1	7.1	38.2	1.3	39.5
必要区間に 対する割合(%)	81.4	18.6	—	—	—

令和7年3月現在

表 9-4 河川管理施設一覧表（大臣管理区間）

種別	施設別	河川名	箇所数
水門	直轄	宮川	1
		勢田川	1
樋門・樋管	直轄	宮川	5
		勢田川	2
揚排水機場	直轄	宮川	1
		勢田川	2
閘門	直轄	勢田川	1
陸閘	直轄	勢田川	2

令和7年3月現在

9.3. 許可工作物の現状

宮川の大臣管理区間における許可工作物は、樋門樋管63ヶ所、揚排水機場13ヶ所、伏せ越し2ヶ所、橋梁35ヶ所、鉄塔3ヶ所、計116施設にのぼる（令和7年（2025年）3月現在）。各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう、各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表 9-5 許可工作物一覧表（大臣管理区間）

施設名	数量	備考
樋門・樋管	78	宮川 8、五十鈴川 7、勢田川 60、大湊川 3
揚排水機場	12	宮川 1、五十鈴川 3、勢田川 7、大湊川 1
伏せ越し	2	宮川 1、大湊川 1
橋 梁	35	宮川 8、五十鈴川 1、勢田川 22、大湊川4
鉄 塔	3	宮川 3

令和7年3月現在

9. 4. 水防体制

(1) 河川情報の概要

宮川では、流域に国管理の雨量観測所10ヶ所、水位・流量観測所6ヶ所、河川監視カメラ24ヶ所を設置し、河川管理の重要な情報源となる雨量、流量等の観測を行っている。

これらから得られる情報は、河川管理施設の操作、洪水時の水位予測等河川管理上また水防上重要なものであるため、常に最適の状態での観測を行えるよう保守点検・整備を実施している。

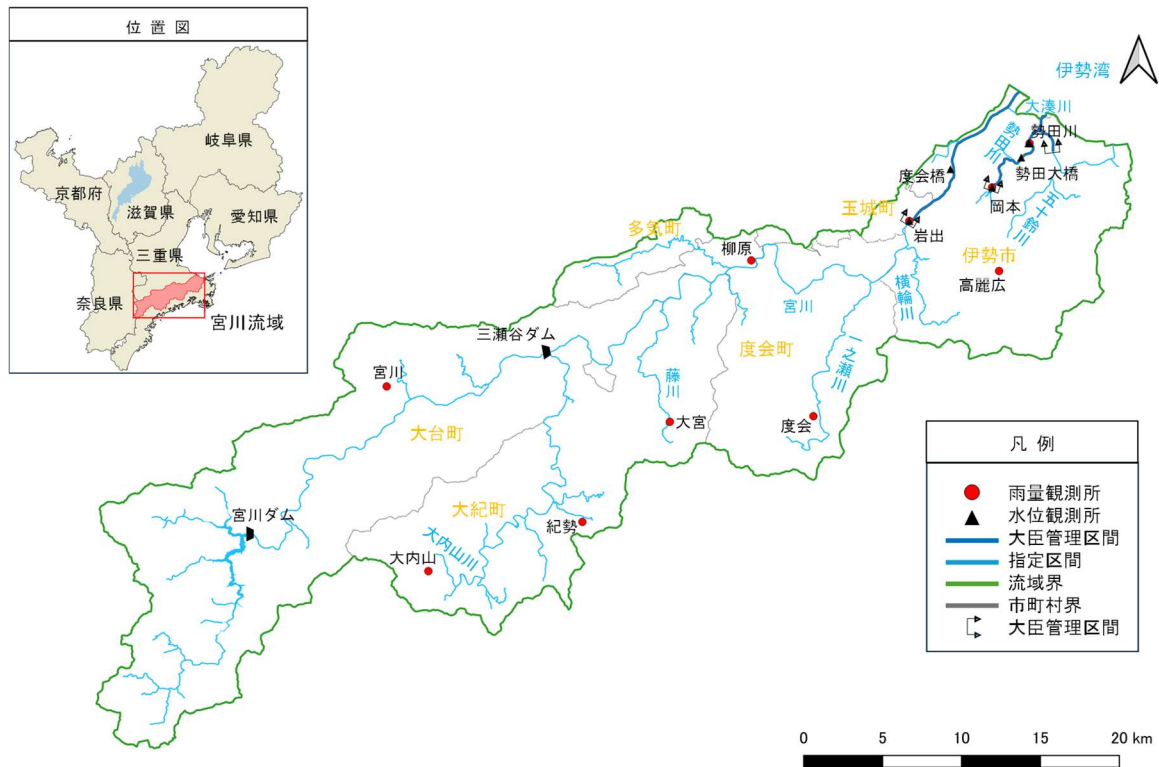


図 9-3 宮川水系水文観測所位置図（国管理）

(2) 水防警報の概要

宮川では、洪水による災害が起こりうる可能性があると認められたときには、水防警報を発令し、水防団や近隣町村の関係機関と協力して洪水被害の軽減に努めるよう体制を組んでいる。

(3) 洪水予報河川の指定

宮川は、水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、平成11年度（1999年度）に洪水予報指定河川に指定され、津地方气象台と共同で洪水予報・警報の発表を行い、周辺の住民への適切な情報提供を実施するようになった。

表 9-6 宮川 基準水位観測所

【岩出水位観測所（玉城町）】

計画高水位：9.61m 氾濫危険水位：8.20m 避難判断水位：7.20m
氾濫注意水位：5.00m 水防団待機水位：4.20m

(4) 水位周知河川の指定

勢田川は、水防法第13条に基づき、平成30年度（2018年度）に水位周知河川に指定され、避難判断水位に達した場合には、周辺の住民への適切な情報提供を実施するようになった。

表 9-7 勢田川 基準水位観測所

【岡本水位観測所（伊勢市）】

計画高水位：3.52m 氾濫危険水位：3.40m 避難判断水位：3.20m
氾濫注意水位：2.60m 水防団待機水位：2.50m

9.5. 危機管理への取組

(1) 減災協議会との連携

宮川では、洪水・高潮等による被害の発生を防止又は軽減するため国及び地方自治体の関係機関が連携し、水防活動を迅速かつ円滑に行うための「三重四川災害対応連絡会（宮川委員会）」を平成17年（2005年）10月に結成した。その後、平成27年（2015年）12月に策定された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、「三重四川災害対応連絡会（宮川委員会）」と「宮川圏域県管理河川水防災協議会」を統合して、「宮川外大規模氾濫減災協議会」を平成30年（2018年）7月に組織した。協議会では、「水防災意識社会」の再構築を目的に国・県・市等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

表 9-8 宮川外大規模氾濫減災協議会の構成機関

国土交通省	中部地方整備局 三重河川国道事務所 中部運輸局 鉄道部 安全指導課
気象庁	津地方気象台
三重県	県土整備部 松阪建設事務所 伊勢建設事務所 松阪地域防災総合事務所 南勢志摩地域活性化局
市町	伊勢市 多気町 大台町 玉城町 度会町 大紀町 南伊勢町
企業	近畿日本鉄道株式会社

令和7年6月現在

(2) 流域治水協議会との連携

宮川では、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、宮川等流域（河川区域、集水域、氾濫域）において、あらゆる関係者が協働して流域全体で被害を軽減させる治水対策（流域治水）を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的に、「宮川外流域治水協議会」を令和2年（2020年）8月に設置した。協議会では、流域治水の全体像の共有と検討を行うとともに、河川に関する対策、流域に関する対策、「流域治水プロジェクト」の策定・公表等を実施している。

表 9-9 宮川外流域治水協議会の構成機関

構成機関	
国土交通省	中部地方整備局 三重河川国道事務所
気象庁	津地方气象台
林野庁	三重森林管理署
三重県	県土整備部 農林水産部 松阪建設事務所 伊勢建設事務所 松阪地域防災総合事務所 南勢志摩地域活性化局
市町	伊勢市 多気町 玉城町 大台町 度会町 大紀町 南伊勢町
オブザーバー	
農林水産省	東海農政局 農村振興部
森林研究・整備機構	森林整備センター 津水源林整備事務所
企業	中部電力株式会社 三重水力センター 東海旅客鉄道株式会社 近畿日本鉄道株式会社

令和7年6月現在

(3) 渇水調整協議会との連携

宮川では、渇水時における水利用の調整及び円滑なる実施方法について協議することを目的に、関係行政機関による「宮川渇水調整協議会」を設置し、調整等を行っている。協議会では、水利使用の調整時期及び方法、水利使用の実態把握、実施及び連絡体制の実施、その他合理的水利使用の推進等を行っている。

表 9-10 宮川渇水調整協議会の構成機関

農林水産省東海 農政局	農村振興部
国土交通省 中部地方整備局	河川部 三重河川国道事務所
三重県	地域連携・交通部 農林商工部 県土整備部 松阪建設事務所
中部電力株式会 社	三重水力センター
宮川用水土地改良区	

令和7年8月現在

(4) 水質事故対策の実施

① 水質事故の実態

宮川水系の近年12ヶ年における水質事故の発生状況は下表のとおりである。
宮川では、事故による油の流出が最も多く発生している。

表 9-11 宮川における水質事故の発生状況

年	水質事故の種類				計
	事故による 油流出	粘土	化学物質	魚類の へい死	
平成 27年	4	0	0	0	4
平成 28年	2	0	0	0	2
平成 29年	2	0	0	0	2
平成 30年	1	0	0	0	1
令和元年	4	0	0	0	4
令和2年	2	0	0	1	3
令和3年	2	0	0	0	2
令和4年	1	0	0	0	1
令和5年	2	0	0	0	2
令和6年	1	0	0	0	1
合計	21	0	0	1	22

② 水質保全連絡協議会との連携

宮川では、三重四水共通で河川及び水路に関わる水質汚濁対策に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に、「三重四水系水質保全連絡協議会」を設置し、水質の監視や水質事故発生防止に努めている。協議会では、水質の常時観測や資料収集、緊急時の連絡調整、水質汚濁対策の推進、水質に関する知識の普及・広報活動等を図っている。

表 9-12 三重四水系水質保全連絡協議会の構成機関（宮川関係分）

中部地方整備局
中部経済産業局
三重県
伊勢市 玉城町 度会町 大台町 大紀町

令和7年8月現在

(5) 洪水危機管理への取組

想定し得る最大規模の洪水等が発生した場合でも人命を守ることを第一とし、宮川では平成28年（2016年）12月に、勢田川では平成29年（2017年）6月に、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成・公表している。

また、令和4年（2022年）9月には、土地利用の住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討等、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表している。

さらに、宮川流域では沿川自治体と協力して、ハザードマップ情報を随時最新のものに更新している。

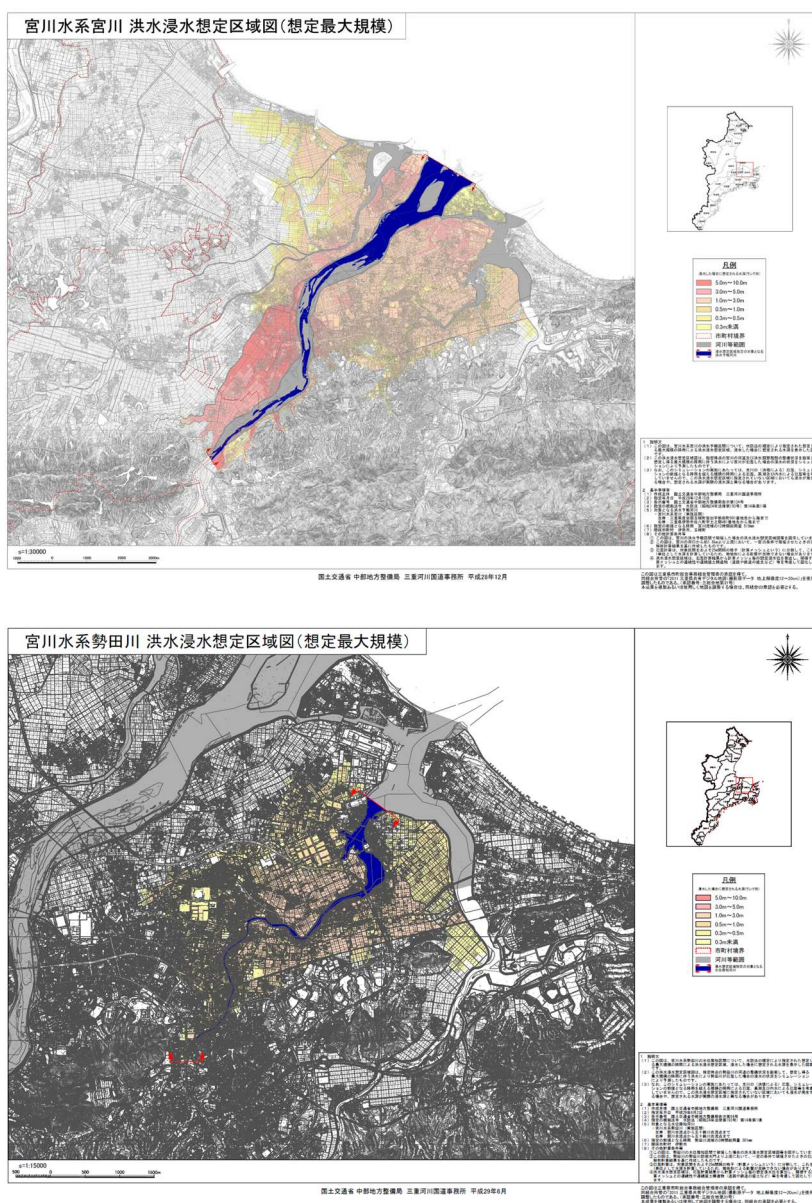


図 9-4 洪水浸水想定区域図（上：宮川、下：勢田川）

表 9-13 沿川自治体のハザードマップ情報の更新状況

自治体	ハザードマップ情報の更新年
伊勢市	令和7年（2025年）
多気町	令和5年（2023年）
大台町	令和3年（2021年）
玉城町	令和7年（2025年）
度会町	令和3年（2021年）
大紀町	令和6年（2024年）

出典：各自治体HP（令和7年5月現在）

(6) 地震等の対策の取組

警戒宣言が発令されたとき、河川管理施設及び許可工作物に関する情報連絡体制を整えるとともに、事前点検及び資機材配備等の確認を行い、地震発生時における敏速かつ確実な災害応急対策のための準備を図る。

10. 地域との連携

宮川では、広い高水敷のオープンスペースを活用するためグラウンド等が整備されており、スポーツ・レクリエーションの場として利用されている。また、自然に親しめるように整備されたバーベキュー場や公園等があり、アユ釣りやカヌー等が楽しめる地域住民の憩いの場として利用されている。

地域と連携した取組として、住民、自治体、河川・海岸管理者等の連携・協働による川づくり・海づくりを目指し、ゴミ清掃を行う「川と海のクリーン大作戦」、身近な河川の水質保全の重要性や河川愛護への関心等を深めるため、実際に川の中へ入って水生生物の生息状況を確認する「水生生物調査」、河川愛護思想の普及・啓発のため、日常生活の中で気付いた河川管理や河川状況に関する情報を河川管理者へ提供する「河川愛護モニター」等の取組を実施している。



【川と海のクリーン大作戦】



【水生生物調査】

宮川水系宮川右岸(JR参宮線宮川橋梁付近～南勢水道宮川水管橋下流付近) 河川愛護モニター報告

場所(番号)	連絡日	報告内容	写真	対応状況
④	6月2日(月)	異常なし(堤防除草の様子) 宮川の堤防の除草作業中も標識(ノボリ)を立てて、しっかり作業をしていました。	写真-⑦ (下段)	-
⑤	6月13日(金)	異常なし(堤防除草の様子) 除草も終わりすっかり堤防が綺麗になり、散歩の人も喜んでいました。	写真 ① (下段)	-
⑥	6月20日(金)	異常なし(「遊泳禁止」看板の消失) 遊泳禁止の看板が取れていましたので、新しく付けてください。	写真-② (下段)	巡視員にて復旧予定

⑦

①

②

【河川愛護モニター】

出典：三重河川国道事務所HP

図 10-1 地域と連携した取組事例